建築と社会

特　集

●大阪市都市整備局

2
1999

日本建築協会

Day by Day——きっといい明日
大阪ガス

MARKET
光熱費を抑えるために、
空調コストを削減したい！

BUILDING
夏も、冬も、心地よいビルにするために、
パワフルに冷暖房したい！

快適な空間を提供するために、
部屋ごとに温度調節したい！

経営者のその悩み



ガスヒーポンでまとめて解決。

オフィスビルをはじめ、スーパーマーケット・病院など、さまざまな施設でその良さが認められています。

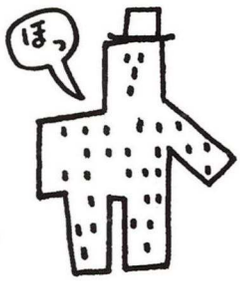
経営をバックアップする高い「経済性」！

◎お得な「空調用ガス料金」の適用で、ランニングコスト削減に貢献します。
◎「特別税額控除（取得価格の7%）」、「初年度特別償却（取得価格の30%）」のいずれか一方の税制優遇措置がご利用いただけます。

「効率性」も魅力！

◎室外機1台で、最大20室をパワフルに冷暖房できます。
◎個別空調で、部屋ごとにムダなく快適に冷暖房できます。

かしこい選択



しかも クリーンな天然ガスを燃料とするため、環境保全にも役立つ空調システムです。

経済性と効率性で選ぶなら、ガスヒーポン

資料請求・お問い合わせは、大阪ガス株式会社 営業計画部 都市エネルギーチーム 〒541-0046 大阪市平野町4丁目1番2号

重村　力 神戸大学教授 講演会

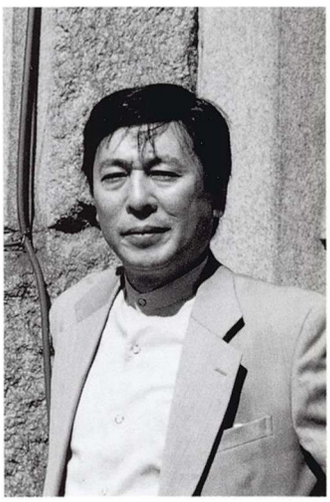
現代住宅地の可能性と潜在的問題
復興へのまちづくりの歩みの中から

日　時　1999年 3 月10日(水)
19:00―21:00
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　重村　力
神戸大学工学部建設学科教授
工学博士、建築家
定　員　30人＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
＊団体会員扱いは１社１名
申　込　本会事業課へハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：重村力講演会
②氏名
③個人会員･団体会員･一般の別
④職場･学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ下さい。
＊参加証を３月４日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会事業委員会
若い会員の集い小委員会
担当主査：増田昌彦／大阪府

震災から４年が経過しましたが、被災地では復興への取り組みが続いています。
若い会員の集い小委員会では、このたび、神戸大学の重村力教授をお迎えしての講演会を企画しました。
ご自身も被災され、全壊した自宅マンションの再建に取り組まれたことや、住吉地区でのまちづくり活動など、住民としての関わりを通じてのお話をしていただく予定です。
ご参加をお待ちしております。

重村　力（しげむら　つとむ）
1946年　横浜生まれ
早稲田大学卒業、同大学院修了
78　神戸大学工学部講師
93　神戸大学建設学科助教授
95　神戸大学建設学科教授

71　象設計集団設立
81～　Team ZOO　いるか設計集団と共同で設計創作活動を行う
95～　住吉地区復興支援グループ共同主宰者
［主な受賞］
77　日本都市計画学会賞石川賞
芸術選奨文部大臣新人賞（共同）
／沖縄県北部の建築・環境・都市デザイン
87　第12回吉田五十八賞／脇町立図書館
93　第７回藝賞金賞（通産大臣賞）
／出石町立弘道小学校



94　ARCASIA＜第６回アジア建築家会議＞AWARD FOR ARCHITECTURE GOLD PRIZE
／出石町立弘道小学校
97　日本建築学会作品選奨
／出石町ひぼこホール
文教施設協会会長賞
／倉敷市立玉島北中学校
HFAIA（アメリカ建築家協会・特別名誉会員）に選ばれる
［著作］
『地域主義』（共著）
『参加と複合』（訳著）
『図説集落』（編著）
『定住の構造』（早稲田大学博士論文）
『まちづくりの新しい視点を探る用語』（編著）

出版委員会企画
第19回＜プロのノウハウ＞講座

建築と音のトラブル

建築にかかわる実務者の方なら誰でも一度や二度は音の問題でお悩みになった経験をお持ちのことと思います。
現代社会では音は我々の生活にすっかり密着しています。その範囲は我々に楽しみややすらぎを与えてくれる音楽の世界から、ともすれば喧嘩ざたにもなりかねない悩ましい騒音の世界にまで広がっています。楽しみのほうはさておき、悩みやトラブルのほうは一日でも早く解決するに越したことはありません。
当書は、設計・施工管理・保全担当の実務者を対象に、平面計画、日常での使われかた、建築材料、設備システム等に起因する幅広い音のトラブル事例をもとに音の性質を易しく解説していますので、音についての深い専門的知識や計算手法に習熟していなくても十分実務に役に立つ書となっています。
＜プロのノウハウ＞講座には是非、ご参加いただき、音のトラブルの未然防止、解決業務にご活用下さい。

出版委員会委員　中川　徹



日　時　1999年 3 月 5 日(金)
18:00―20:00
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　中川　清／清水建設㈱技術研究所主席研究員
定　員　30人
受講料　会員 3,000円、一般 4,000円
（消費税を含む）
テキスト　＜プロのノウハウ＞『建築と音のトラブル』
テキスト代　特価 2,300円
（消費税を含む）
＊当日、持参される方は不要。

中川　清氏（なかがわ　きよし）
昭和49年３月、日本大学理工学部大学院卒業。同年４月、清水建設㈱に入社、研究所配属。現在、同社技術研究所主席研究員、一級建築士。
［主な研究］
・集合住宅の間仕切壁透過音の主観評価
・波動性を考慮した幾何室内音響シミュレーション
［主な実務］
・音楽ホール、録音スタジオ、イベントホール等の音響設計及び音響対策
・工場騒音、事務所・マンション等の騒音防止設計や騒音対策　等多数担当。

申　込　ハガキorFAXor電話でお願いします。そのとき、
①催し名（「プロのノウハウ講座19」）
②姓名
③個人会員･団体会員･一般の別
④職場･学校名
⑤受講票の送付先・電話番号
をお知らせ下さい。
先着順で受講票を発送します。
申込先　〒530-0001
大阪市北区梅田1-1-3-2100
㈳日本建築協会事業課
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634

「都市のパブリック」特集は4月号掲載へ

「建築と社会」誌では、いまだに日本語として明解な定義のない“パブリック”を視点として、都市環境の見直しをしてみようと２月号を予定して「都市のパブリック」特集を企画しておりました。
原稿の執筆者の方々をはじめ、もう一つの特集の柱である“パブリックとは何か”のアンケートに200通を超えるご回答をいただいた建築外の人々と本会会員の皆さまには申し訳ありませんが、編集工程の都合で、この特集の掲載を４月号に繰り延べさせていただきます。
なお、特集の構成内容には一切変わりありません。本会編集部の都合により掲載を延ばしましたことを、会員の皆さま、アンケートのご回答をいただいた多くの方々、原稿執筆者にお詫び申し上げます。

㈳日本建築協会編集部

「建築と社会」誌

特集一覧● 1985~1998

大正６年３月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正６年９月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正８年に「日本建築協会雑誌」、さらに１年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA４変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。
取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局(TEL　06-6348-0635、FAX　06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道－建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール－それが生みだす文化－	●建物の表情－最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合－人体と建築にみる－ ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間－都市型集合住宅にみる	●屋根－そのデザインと素材	●現代デザイン－ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第２期）	●21世紀の住宅と設備	●開発－その創造的仕掛けの鍵をもとめて－ ●ツイン21	●CAD－その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統－東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明　*	●制振*	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識－中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化－設計の多様化をめざして－*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観*	●高級感－建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり－Ⅰ－	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり－Ⅱ－ ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念　*	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識－複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号　*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木－構造技術の世界－ ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語－人がかわる、まちがかわる－	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン－東海支部－	●建築家のための設備知識－集合高層住宅の設備システム－	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り－住宅・都市整備公団関西支社10周年－	●木構造を使ってみませんか－集成材による構造－	●接着－建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台－仮設の魅力に学ぶ－ ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境－限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生－構造技術の役割－ ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境－人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと観	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって－会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美－建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界　*	●音－騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃－まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法－会員作品	●新しい「都市・建築」の視点*	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ　*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念	●遠江－その地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり　*	●東海支部会員作品 ●金沢・能登－風土・文化とまちなみ・建築	●創立80周年記念／建築と私と社会－80人の眼－	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興－法・制度の運用と新たな展開へ－ ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA　*	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法－会員作品－	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 Vol. 79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州－諏訪とその周辺－	●街並みの演出－最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備－ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98－21世紀に向けて	●ゆれをとめる－たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年

*は欠号

今月の表紙
表紙デザイン　安里俊久

建築と社会 2 1999
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第80集／通巻923号

CONTENTS

特集●　大阪市都市整備局

[特集にあたって]　だれもがあこがれ、住みたいと願うまちづくりをめざして●福島由堯 — 19
[プロジェクト1992〜1998]　あべのルシアス／長居陸上競技場／中央体育館／大阪プール
大阪市立大学学術情報センター／中央図書館
天王寺スポーツセンター・真田山温水プール／生き生き地球館
古市中住宅／酉島住宅21号館／東成スポーツセンター
おとしよりすこやかセンター東部館／東成温水プール／平野区民センター
道頓堀複合施設／鶴見温水プール／舞洲障害者スポーツセンター（アミティ舞洲）
大阪城公園休憩所 — 20
建築概要 — 41
[プロジェクト紹介]　（仮称）住まい情報センター — 42
（仮称）大阪市立博物館・考古資料センター — 44
中央公会堂 — 46
（仮称）住吉スポーツセンター・温水プール — 48
（仮称）クラフトパーク — 50
大阪市環境事業局（仮称）舞洲工場 — 52
[寄稿]　特集によせて●舟橋國男 — 54
なにもない町の、なくてはならない公共建築●髙松　伸 — 56
ハードとソフトの間●林　信夫 — 58

会告　重村　力講演会—現代住宅地の可能性と潜在的問題—.＜プロのノウハウ＞講座⑲ 1
建築と音のトラブル.「都市のパブリック」特集４月号掲載へ.

作品作風　県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛 4
森林文化交流センター「森愛館」 6
ヤサカレインボーハウス 8
いぶき野の家Ⅱ 10
味覚糖奈良工場第３期増築 12

gallery　村野本町の家（吉村篤一）●前川治彦 14
建築の眼　相互浸透の残像●本多友常　礎石が語るもの●安永三郎 16
下町の気質●森崎輝行　情報ネットワーク時代を生きる（2）—グループウェア●本間利雄
being　手作り解体業「古民家再生普及会＆古木屋」（小林政一）●北村恭一 60
W　座談会—ヴィジュアル関係者に聞く—建築とデザイン●塚口明洋 62
素材と技術が生み出すデザイン　「草」—素材から環境へ●畑　正俊 64
Book Station　短評4題●伊藤郁郎・河崎敦子・髙岡伸一・辻川ひとみ 66
法令コーナー　都市計画法の改正●髙谷基彦 67
構造の頁　木質準ラーメン構法の家●伊東洋路 68
設備の頁　パブリックトイレの“これからのかたち”●堀本　奉 70
施工材料の頁　リサイクル真空断熱材●入江　潤・谷本康明 72
基礎講座　屋内消火栓の設置—1—●由上雅章 73
REPORT　わが家の新築の記—1—環境と共生できる家を目指して●池内　了 74
REPORT　隈研吾「近作について」を聞く—第３回ユニオン建築フォーラム●森田昌宏 76
REPORT　フォーラム「非二元で見た建築価値」竹中の静かな風●黒田智子 77
REPORT　＜プロのノウハウ＞講座・徹底解説「大改正」建築基準法●山田　修 78
新建材の頁　高性能複合外壁システム「NSパネル」●猪野達雄 79
information　「アントニン・レーモンド展」.シンポジウム「建築家教育」.徳岡昌克展覧会・講演会.ゼミ「テーマのある住まい」.「グラスゴー1999」.宝塚音楽学校の保存・再生を.「21世紀へ保存したい近代建築100選」公募.世界遺産を巡る（2）「洛西」.「LANDSCAPE LIGHTING DESIGN BOOK」発刊.「ワールドアートブックバザール」—丸善・Bunkamura—. 81
追悼文　堀内三郎先生を偲んで●元木貞次 82
月間の動き　平成10年11月分 80

■特集予告
3月号／北信—街並み修景と地域文化の再構築
4月号／都市のパブリック
5月号／関西建築界の流れと東畑謙三氏の足跡をたどる

編集委員会（平成10年度）
■副会長　田ノ畑好幸　金多　潔　西岡　道雄　葉袋　公明　野口　太郎
■編集理事　堀内　一夫　荒巻　恭士　桝井　貴廣　井上　豊　水谷　昇　小島　雄　村上幸三郎　佐野　吉彦　谷津　和久　竹中　統一　※山根　厳和　立野　一郎　□施工材料分科会　真塚　達夫　植田　実　松村　慶三　小椎八重猛　山田　修　太刀川丈爾　◎奥謝野　久　※十倉　毅
■特集小委員会　能美　敏男　○内田　直樹　野口　幸忠　□計画分科会　福井　茂和　★計画系　□法令分科会　伊縫　憲幸　城戸　史郎　梅村　宏尚　椎名　辰之　※小浦　久子　※炭崎　勉　鈴木　克彦　中　勝生　田中　直人　中岡　光平　松川　敏正　浜野　幸雄　横関　真紀　■作品作風小委員会　吉村　英祐　赤木　隆　★建築計画系　秋山　克彦　上杉　秀隆　秋山　茂　江副　敏史　朝倉　一晃　大村　昌聡　小笠原絵理　荻窪　伸彦　川上比奈子　菅野　忠司　倉澗奈千子　笹村　欽也　杉原　繁　佐藤不二男　寺岡　宏治　塚本　史郎　中村　文紀　※刃金　国雄　藤城　義丈　服部　光宏　△前川　治彦　山本　匡　前田　幸宏　★インテリア・住宅系　牧野　雅一　※石川　佳子　増田　敬彦　加藤　力　増田　俊哉　北浦かほる　■会員企画小委員会　小梶　吉隆　伊藤　郁郎　小島　保人　池田　聡実　中田　誠　稲木　裕子　中村　雅人　大谷由紀子　中村　孝之　糟谷　浩史　畑　康之　河崎　敦子　西田　和子　高岡　伸一　ベリー史子　髙田　光雄　水谷　美香　高橋　麗子　□構造分科会　△塚口　明洋　大氏　正嗣　辻川ひとみ　岸本　一蔵　土田　伸二　岸本　圭暁　長友理津子　楠本　隆　福田　瑞穂　佐治　明志　増渕　昌利　下野　直人　山寄　章子　田中　剛　■広告企画小委員会　※田辺　太一　岩井　武夫　野口　拓也　△小幡　義明　松村　和夫　加納伸太郎　古澤　幹夫　勝　一弘　□設備分科会　家森　康彰　梶井　宏修　片山　恒男　河津　隆之　渡邊　浩文
◎委員長　○委員長代行　△副委員長　※幹事

印　刷　平成11年1月25日
発　行　平成11年2月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

南面全景

南西面外観



▼東面カーテンウォール



作品風作

設計監理■
安井建築設計事務所

施工■
清水・間・淺川特定建設工事共同企業体

県民交流プラザ
和歌山ビッグ愛

県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛 は、県民の保健・福祉の充実、健康増進、地域社会の担い手の活性化を目的としたリーディングプロジェクト「健康ふれ愛和歌山計画」の中核をなす拠点施設の１つとして計画された。

計画に際し、中核施設としてシンボルとなる施設づくり、健康・福祉施設としてノーマライズされた施設づくり、将来のニーズの変化に対応できる施設づくりを目標とした。建物は、高層棟と低層棟を２層吹抜の総合ロビーで繋ぐ明快な構成とし、高層棟には総合センター、保健部門、福祉部門、地域社会の担い手の活性化部門と宿泊施設、レストランを階ごとの専有化を図って配置し、低層棟には、共用部門として大ホール、展示ホール、会議室が単独利用可能な形で計画した。

また、建物を高層化することは、敷地の有効利用、シンボル性の他に、大規模施設における長い水平移動をエレベーターによって垂直移動に変えることにより、利用者の負担を軽減すること、12階の展望ロビー、レストランからの眺望の確保にあった。

高層棟の平面は、センターコア方式を採用し、外周は交流プラザという施設の性格、同プロジェクトで先行建設されたビッグホエールの形態を考え、ゆるやかな曲線で構成した。

外観は安定感のある磁器タイル貼りの基壇部とガラス、メタルからなる軽快な高層部による構成を基本とし、アプローチ側の南北面に、正面性のあるガラスのカーテンウォールを、また東西面には横ストライプによる表現とした。

（近藤良彦／安井建築設計事務所）



配置図　1：2500

所 在 地 ――和歌山市手平2-1-2
敷地面積 ――31,657.02㎡
建築面積 ――　3,135.69㎡
延床面積 ――20,823.64㎡
構造規模 ――SRC、S、B1F、12F、P2F
工　　期 ――1996年10月～1998年11月
最 寄 駅 ――JR紀勢本線・宮前駅
撮　　影 ――名執一雄


12階レストラン


12階特別室


1階大ホール

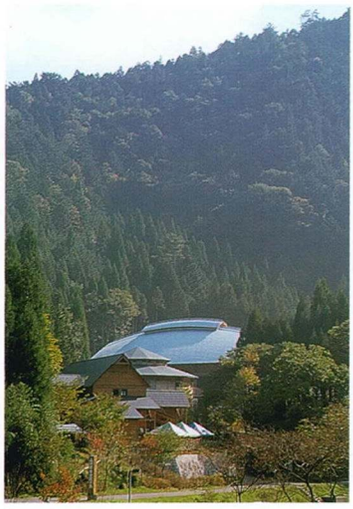
▼1階総合ロビー



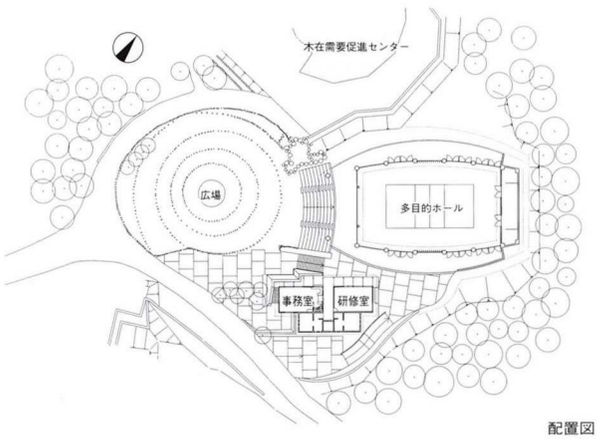
※周囲の山々にはえるむくりの屋根



※内部より



※



配置図

作品

設計■
京都市都市住宅局営繕部営繕課
吉村篤一十建築環境研究所

監理■
京都市都市住宅局営繕部営繕課

施工■
今井工務店

京都市山村都市交流の森
森林文化交流センター「森愛館」

山村都市交流の森は、京都市域の最北端にあたる左京区花脊、広河原地区を中心とした約1,077haの地域に、北部山間地区の振興を図るために策定された「ふるさと森都市構想」の中核施設の一つとして、森林が織りなす文化の継承・啓発、地域振興の拠点づくり、自然を生かした市民の健康増進・教育・レクリエーションなど、森林の多様な機能を引き出すことを目的に平成３～10年にかけて整備された。主要な基幹施設のある交流の森センターエリアは、1.5haの地域に案内休憩所、木材需要促進センター、宿泊棟などが既に建築されており、森林浴などのレクリエーションや木工、林業体験、自然観察などを通じて山村と都市の住民が交流しながら、山村地域の文化を学びとる場として中心的な施設となっている。今回完成した森林文化交流センターは、森林文化の交流・情報発信の拠点として、多彩な規模内容のイベントが、ある程度天候に左右されずに行えること、各種スポーツやハイキング等のアウトドアライフの拠点となること、交流の森全体の運営及び防災の管理を行うこと、地域住民のサークル活動や会合、健康増進のためのスポーツの拠点となることが目的とされた。

建物は広場を中心に、森林をバックにムクリのある切妻型の屋根を冠した多目的ホール「森愛館」と、片流れ屋根の管理研修棟が並ぶ配置とし、この地域は京都市の中でも豪雪地域のため、ホール庇は長く延ばし積雪時にもメンテナンスが容易に行えるようにした。内部木造小屋組は集成材を使用し、２mの積雪に耐えられるようになっている。野地板は厚さ70㎜の松の積層材を使用し、大きな版として水平力をうける構造となっている。また広場側の建具をすべて開放すると、広場と多目的ホールが一体となった気持ちのよい空間となる。

（吉村篤一）



夕景

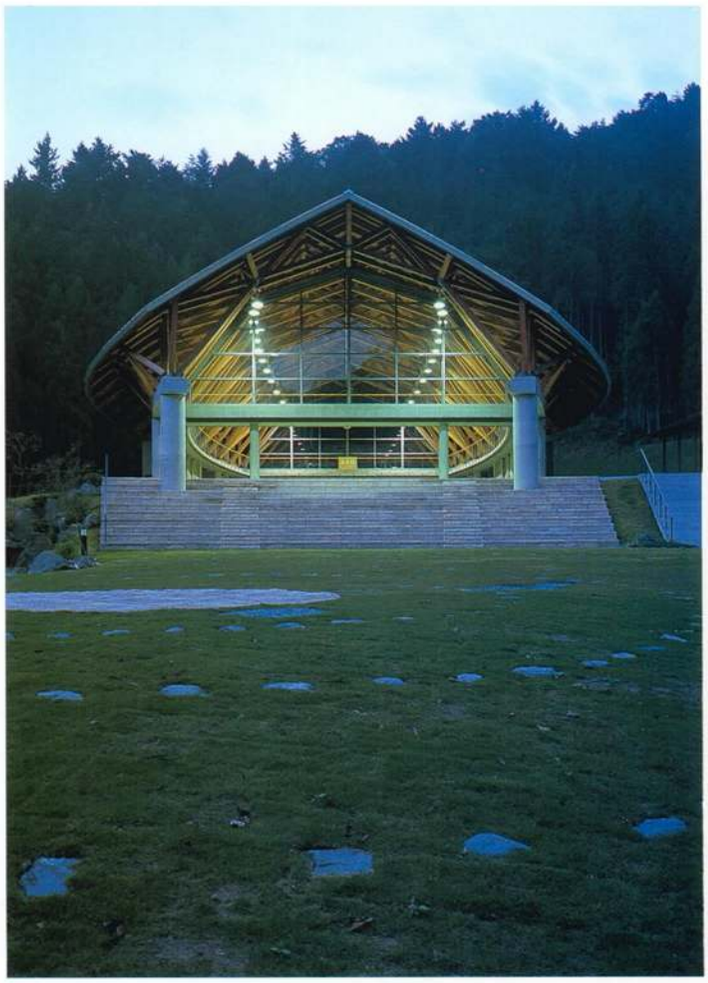
所 在 地 ――京都市左京区花脊八桝町246番地
敷地面積 ――3,471㎡
建築面積 ――1,070㎡
延床面積 ――　915㎡
構造規模 ――RC＋W、1F
工　　期 ――1997年３月～1998年９月
最 寄 駅 ――京阪電鉄・出町柳駅よりバス
撮　　影 ――島　修一、※吉村篤一



広場から全景



山側から見る



広場から正面





作品

設計監理・施工■
竹中工務店

ヤサカレインボーハウス

京都を拠点にタクシー、観光バスを経営するヤサカグループの従業員のための保養施設である。以前からこの地にあったが、老朽化が著しく、建替えとなった。

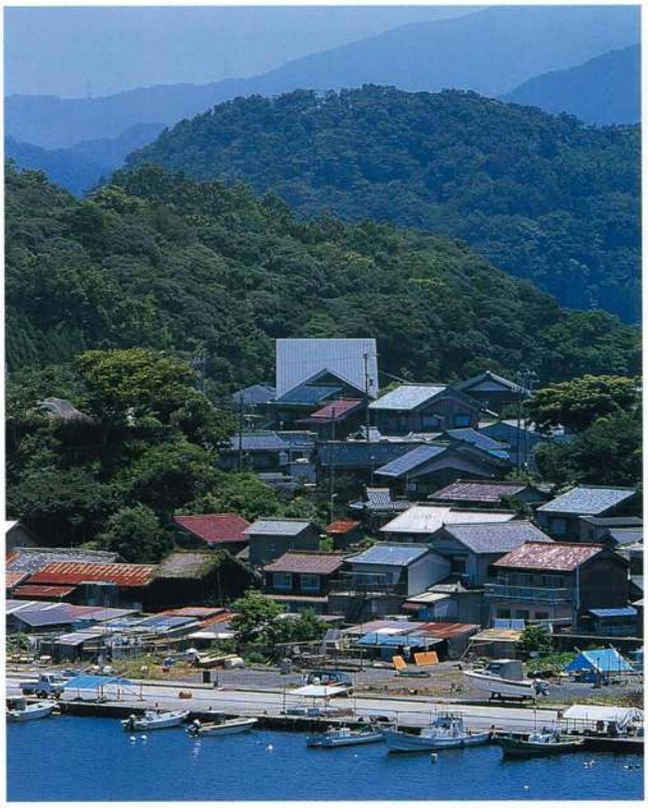
美浜町笹田地区は南北を山林に挟まれ、東は三方五湖の一つ久々子湖に、西は日本海に繋がった谷間に広がる漁村である。敷地はこの穏やかな湖と時には激しい外海を背景に、民家と畑が点在する集落の一角にある。間近の日向漁港の向こうに静かな夕陽を望める反面、地形上、冬場は日本海の季節風が吹き荒れる風の通り道となっている。

設計はこの場所性を読み取り、自然のもつやさしさと厳しさの二面性を受容し均衡させることにあった。建物は宿泊、食堂・浴室、ゲストハウス、管理人の用途を分節化させ、その内部空間に見合った屋根を地形と風の方向に沿って配置させている。軒を深く勾配を変えた屋根は、シェルターとしての機能と陰影のあるファサードを創り出している。形態と同様に、建物全体が突出しないよう、屋根は濃い鉛色、外壁も褐色とし、時を刻んだ周辺の風景に馴じませている。

山林と海を借景に北側に大きな開口を設けた内部は、外観と対照的に光の移ろいを映し出す白で構成し、温もりのある木の家具と早川良雄氏の絵によって、保養所を海辺のギャラリーになぞらえた非日常の空間として演出している。

（山根牧人・日野宏二／竹中工務店）

所 在 地 ――福井県三方郡美浜町笹田
敷地面積 ――2,610㎡
建築面積 ――　589㎡
延床面積 ――　921㎡
構造規模 ――RC、3F
工　　期 ――1998年１月～1998年６月
最 寄 駅 ――JR小浜線・美浜駅
撮　　影 ――松村芳治





配置図・１階平面図　1：1000









居間から中庭を見る

▼正面全景



作品風作

設計監理■
日創設計

施工■
三和建設

施工管理■
三和工務店

いぶき野の家Ⅱ

南大阪の新拠点をめざすトリヴェール和泉は、躍動感あふれる暮らしの息吹を感じさせる街である。
玄関ドアを開けて広がる視界は、遊具で戯れる子供たちと、それらをやさしく取り囲む豊かな木々のみどり、その遥か向こうには、それぞれの存在をアピールするかのように建ち並ぶ高層住宅群を映し出す。そんな街中の一画にこの建物は、位置している。
中庭を中心に構成された住まいは、中庭とそれぞれの室をつなげることにより、広がりと独特の空間を創り出す。
中庭の１本の木に注ぐ視線は、空を写し、時間の流れを感じさせ、木の葉をゆらす風の音、鳥のさえずり、虫の声、木立に当たる陽光と影、それらが住まいに潤いとゆとりを与える。
住まいの中心となる居間は、中庭に向けて大きく開かれ、閉じられた壁の小窓へと風を流す。階段上部のトップライトからの柔らかな陽射しは、穏やかな空気を醸し出す。
閉ざされた寝室の空間には、ハイサイドライトから陽射しと空を写し出し、雲の流れ、月の満ち欠けなどの眺めをつくる。そして、ハイサイドライトから漏れる灯かりは、街の人々に住まいの存在を意識させ、この住まいもまた街の一風景となる。

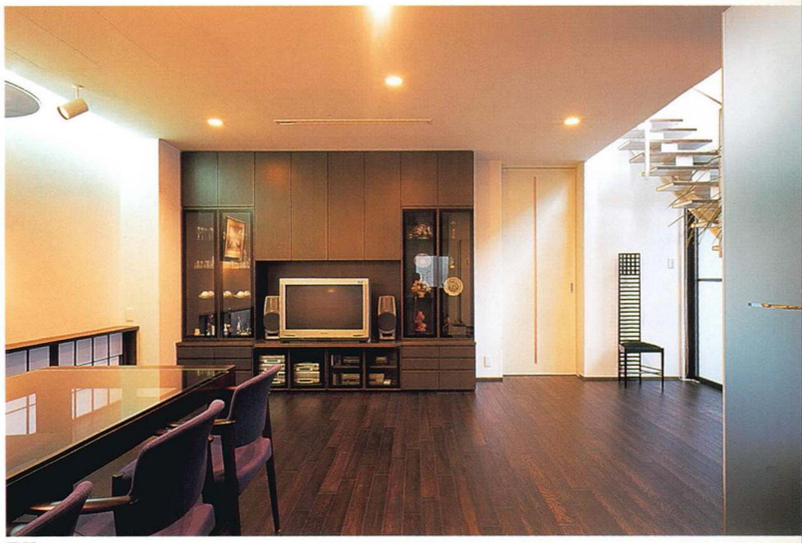
（森川哲治／日創設計）



1階平面図　1：1000

所 在 地 ――和泉市いぶき野３丁目
敷地面積 ――217.30㎡
建築面積 ――108.57㎡
延床面積 ――198.54㎡
構造規模 ――RC、2F、B1F
工　　期 ――1998年２月～1998年10月
最 寄 駅 ――泉北高速鉄道・和泉中央駅
撮　　影 ――上諸尚美


正面全景（夕景）


居間

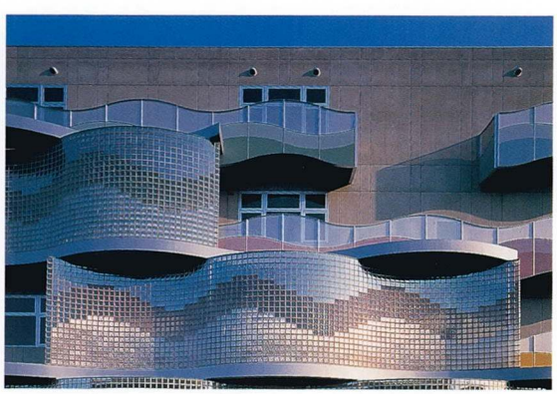

▲居間

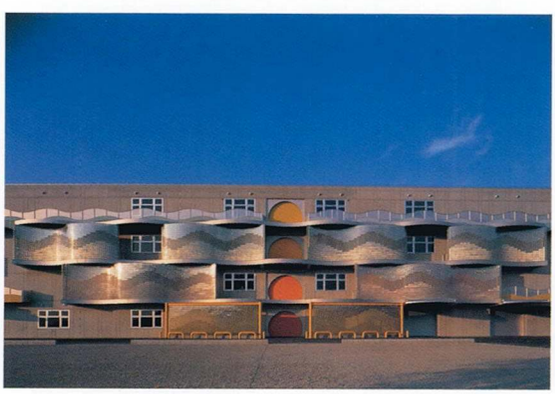
▼和室

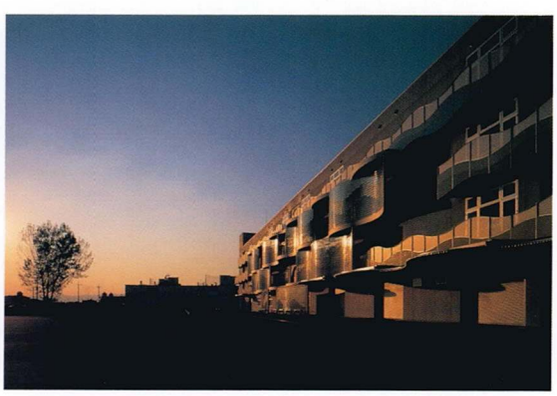


バルコニーウェーブ







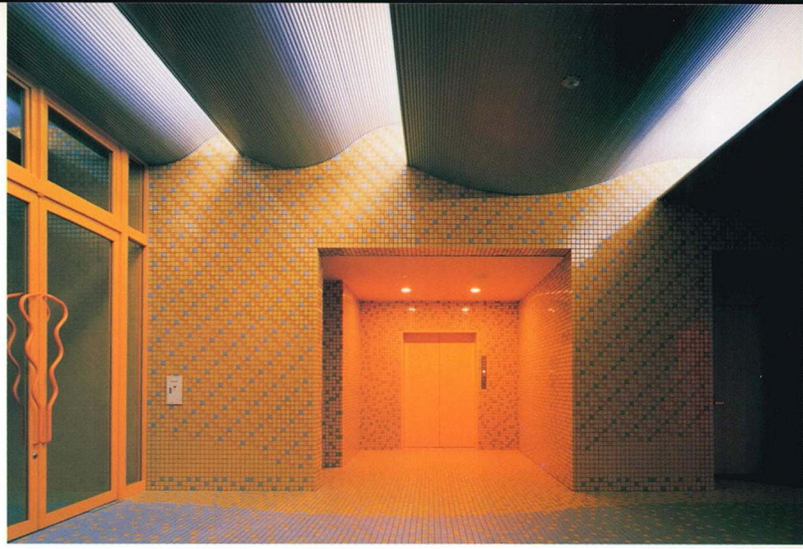


作品
作風

設計■
大杉喜彦建築綜合研究所
熊谷組一級建築士事務所

監理■
熊谷組一級建築士事務所

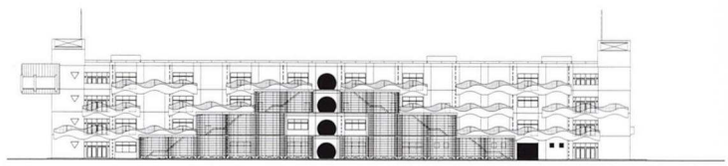
施工■
熊谷組大阪支店

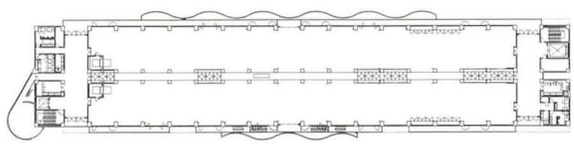

1階エントランスホール

味覚糖奈良工場第３期増築

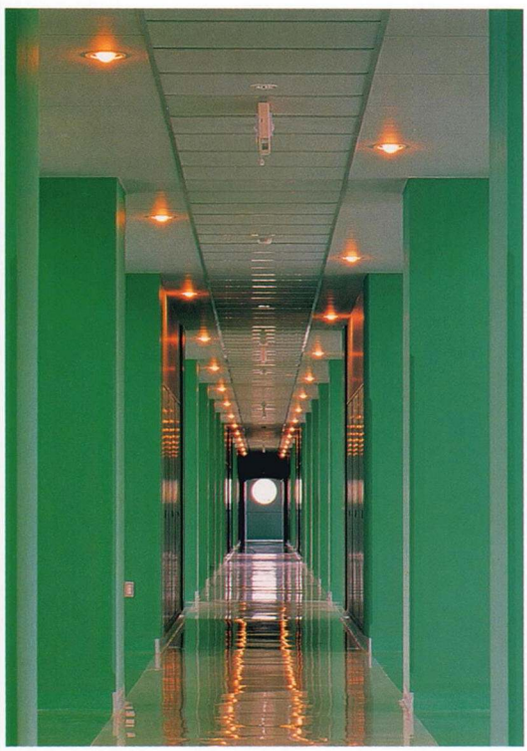
UHA味覚糖奈良工場は、JR大和路線・大和小泉駅より徒歩10分余り、昭和工業団地内に位置している。
計画に対してのクライアントの希望は、“キャンディ・ボックスのような楽しい工場”であった。デザイン・コンセプトはUHA（遊波）。機能配分から生まれた其々４層の室空間に遊波の色彩構成を試みた。そしてファサードの硝子ブロックを積みあげたウエーブは、キャンディの原料である水飴の表象として遊波させた。
硝子ブロックの魅力は、集合体として扱った透過壁に意味を持たせることにより始まる。そして光は、決定的な役割を持つ。これは自然光の変化や人工照明によって、相互の光量の関係が昼と夜において反転する為で、感情の起伏に類似している。この光は、外界より内界へ、また内界より外界へ圧倒的な強さで、また一方的な強引さで人の知覚に侵入してくる。ここでの光は、単なる「あかり」ではなくて空間の意外性、非日常性のための決定的因子となる。つまり、人と建築との関係の「場」を考えるにあたって、明るさの中における「場」に対し、もうひとつの「場」である暗さにおける形態を可能にした。可視空間の存在性によって構成された建築が、一挙に抽象的思考、抽象的感覚の空間性にまで拡大されたといえる。

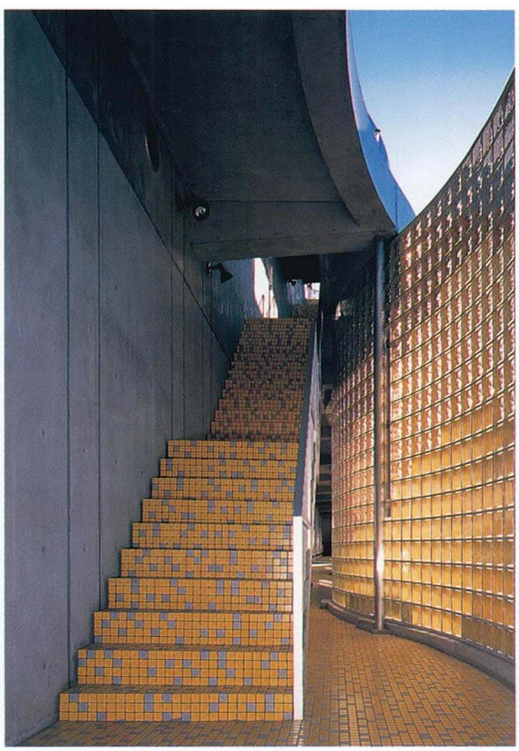
（大杉喜彦／大杉喜彦建築綜合研究所）


断面図　1：800


4階平面図　1：800

所在地――奈良県大和郡山市今国府町137-5
敷地面積――50,725.42㎡
建築面積――3,214.48㎡
延床面積――11,628.14㎡
構造規模――RC、4F
工　　期――1996年５月～1997年３月
最寄駅――JR大和路線・大和小泉駅
撮　　影――写トリエ時空　花城辰男


3階製菓工場


バルコニー並びに屋外階段


4階ラウンジ入り口

gallery

村野本町の家

設計
吉村篤一

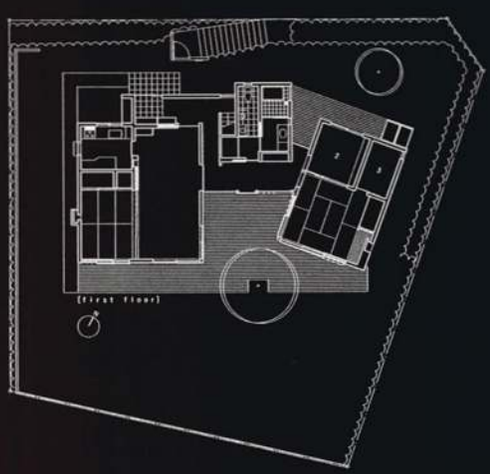
比較的広い敷地のほぼ中央にある大きなケヤキの木を中心にしてプランを展開させている。ケヤキの周囲に広がったデッキの両側に、リビング・ダイニングなどのある棟と和室棟があり、ケヤキの木とデッキがこの家全体の空間の引き締め役となっている。各居室からはこのケヤキの木をのぞむことができ、さらに南側に広がる既存の庭園とあわせて、四季の変化を楽しめる住まいとなっている。室内は床以外は全て白で統一し、大屋根は壁から遊離させてあり、外部とのつながりに広がりをもたせることにより、軽快なイメージを与えている。



吉村篤一（よしむらとくいち）
1940　京都生まれ
1963　京都工芸繊維大学工芸学部卒業
1963～75　坂倉建築研究所勤務
1975～　建築環境研究所開設
1988～97　京都府立大学住宅学科講師
1990～97　京都工芸繊維大学造形工学科講師
1991～97　近畿大学建築学科講師
1998～　奈良女子大学生活環境学部教授

撮　影—大島　勝寛
企画編集—前川　治彦（作品作風小委員会）




(First floor)



相互浸透の残像

本多　友常

人が平地に佇む時、身体は外部に晒される。垂直の壁に寄添う時、そこは内部化の兆候を示す。'縄張り'は、たった一面の壁によっても実体化する。

急傾斜環境に発達した雑賀崎の集落は、既に環境そのものが内部化する契機を孕んでいる。超高密度に凝集した雑賀崎の家並みは、その内部にかくまわれるように成長した。そしてそこには巧妙な内部と外部の相互浸透システムが生まれている。

路地が外部であることは間違いない。しかし路地の向こうに自分の家の収納場所やトイレがあれば、その道の部分は限りなく内部化する。傾斜環境はそれを更に強化する。斜めの道は、既に壁の要素を半分孕んでいるのだ。道の階段を利用して自分の家の上下階をうまく使い分けている人にとっても、そこは限りなく内部に近い路地となる。そこに屋根をかけてもここでは誰も文句は言わない。家財や植木鉢の布置も、生活領域の濃度を発信する。出入り口の横に置かれた洗濯機は、路上に同心円の作業領域が重なっていることを標している。家の内外空間は、幾重にも折り重なって多義的な領域を形成しているのだ。

大地には元々敷地境界線など存在していなかった。過酷な傾斜環境下に生まれた雑賀崎の家並みは、現代の制度が無言のうちに排斥してしまった生活の質を、残像のようにとどめている。

和歌山大学教授システム工学部環境システム学科

礎石が語るもの

安永　三郎

飛鳥地方や奈良を歩くと、古代建築の礎石を目にすることが多い。その姿は長い年月を重ね風格さえ感じさせるが、上部の建築物は焼失したり移築されて、今は失われてしまっている。

飛鳥地方の例で、川原寺の金堂の礎石は白大理石で有名であり、興福寺の仏頭が本尊であった山田寺の礎石は蓮弁模様が刻まれていて美しい。聖徳太子が生まれたという伝えがある橘寺の五重塔心礎は、土壇に埋もれていたものを発掘してあるが、直径90㎝の柱穴の三方に添柱穴が彫ってあり、当時の心柱の構造が判る珍しいものである。奈良県の大和郡山城は豊臣秀長の築城になるが、天守台の隅石に平城京羅城門の礎石が転用されて使われている。当時、石材を至急集める必要があり、手に入る物は石仏にいたるまで利用したという歴史を物語っている。

最近、平城宮跡の朱雀門が復元され、当時の威容が蘇った。復元にさきがけ発掘調査により柱位置とスパンが判明し、同時代の建築物の遺構等との比較検証により細部が考証され、全容が復元されたものである。木造建築では、上部構造が失われても残された礎石等に多くの情報が含まれている。現代建築は、使命を終えればいとも簡単に壊されていくが、痕跡すら残らないことが多い。建築の永続性とは何なのか疑問に思う。

近畿郵政局施設部長

下町の気質

森崎　輝行

下町の人は、遠慮がちである。喫茶店によく入る。話好きである。タクシーに乗ると必ずチップを出す。これらは、下町の人の気質をうまく言い得ている。自ら、先頭に立って迄の行動はとらない。その為、コミュニケーションには、日銭を使う（貯金などしない）。お金がなくても生活の不安がない（誰かが助ける）ところに住んでいると自負している。お金よりも人の付き合いの方が重要なのである。これは、地区で相互扶助の精神が暗黙の了解事項になっていたからに他ならない。人とうまくやって行くことが、下町で生きる最重要な事柄なのである。下町では、互いの配慮が徹底している。その配慮は、時としてお節介に繋がることもある。情報は、まちの隅々まで瞬間に行き渡る。これらは、逆に、充実していない住宅になっていることの証明でもある。まち全体が家である。喫茶店が食堂であり、街角がリビングである。時間限定なしの生活圏としての場がいたるところにあり、人がたくさんでる。不備な防災性も人が監視し続けられ、その安全のシステムがはり巡らされている。これは、かっての下町であって、その人情が脆弱な町のハードを支えていたのである。今、高齢、老朽の中での下町は、かっての活力が取り戻せるのだろうか？

森崎建築設計事務所

情報ネットワーク時代を生きる (2) グループウェア

本間　利雄

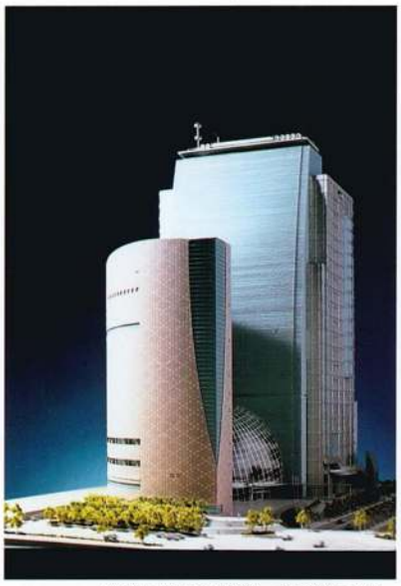
人事異動や組織の改編はビジネス社会につきものだが、そのたびに電話帳を更新したり、部分的な差し替えを余儀なくされていた。その間のタイムラグや印刷の手間、そして何よりも少なからぬ紙の消費に疑問を持っていたが、いまや所属部署と電話番号がリアルタイムに変更されて、パソコンの電子電話帳で利用できるようになった。そのほかにも、様々な社内情報が、ネットワークに接続されたパソコンから入手できるようになった。なかでも情報量の多いのは、社内の各部門から提供される定形情報である。これまでは印刷物にして配布されたり回覧されてきたものが、電子化されていつでもパソコンの画面上で閲覧したり取り出して利用できるのである。このように、組織内に情報ネットワークを張り巡らし、電子メールによる情報交換やデータベースによる情報の共有化を進めることによって、組織の活性化と生産性の向上をはかるためのソフトウエアがいわゆる「グループウェア」である。芸術やスポーツ以外の分野では天才が出にくい時代であるといわれる。そのような時代だからこそ、組織の知的生産性を上げ、少しでも集団天才に近づくために、もっとグループウェアの活用を考えてもいいのではないかと考える。

大林組建築設計第２部部長

特集
大阪市都市整備局



特集にあたって
だれもがあこがれ、住みたいと願うまちづくりをめざして
福島由堯
・
プロジェクト　1992〜1998
あべのルシアス／長居陸上競技場／中央体育館
大阪プール／大阪市立大学学術情報センター
中央図書館／天王寺スポーツセンター・真田山温水プール
生き生き地球館／古市中住宅
酉島住宅21号館／東成スポーツセンター
おとしよりすこやかセンター東部館
東成温水プール／平野区民センター／道頓堀複合施設
鶴見温水プール／舞洲障害者スポーツセンター（アミティ舞洲）
大阪城公園休憩所
・
プロジェクト紹介
（仮称）住まい情報センター
（仮称）大阪市立博物館・考古資料センター
中央公会堂
（仮称）住吉スポーツセンター・温水プール
（仮称）クラフトパーク
大阪市環境事業局（仮称）舞洲工場
・
寄稿
特集によせて
舟橋國男
なにもない町の、なくてはならない公共建築
高松　伸
ハードとソフトの間
林　信夫



（仮称）大阪市立博物館・考古資料センター



（仮称）住まい情報センター



（仮称）クラフトパーク



（仮称）住吉スポーツセンター・温水プール



中央公会堂



大阪市環境事業局（仮称）舞洲工場

だれもがあこがれ、住みたいと願うまちづくりをめざして

平素は、都市整備局事業の推進に格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

大阪市では、21世紀に向けた新しいまちづくりの指針となる「大阪市総合計画21」に基づき、「住・職・遊」のバランスのとれた都市の実現をめざし、各種の施策を総合的に進めております。

その中で、私ども都市整備局が携わっております良質な住宅の供給や住環境の整備、既成市街地における都市機能の更新、さらに公共建築物の建設などは、市民生活と関連が深く、また災害に強い安全なまちづくりを進めていくうえで、極めて重要な役割を果たすものであると考えております。特にハード部門としての公共建築物や住宅の建設は、良好な都市景観を形成・誘導するうえで重要であるとともに、新しい社会的要請である地球環境にやさしいまちづくり、子供からお年寄りまで利用しやすいバリアフリーのひとにやさしいまちづくりなど、快適に安心して居住できる魅力ある都市づくりを進めるうえで、その役割は特に重要であると考えております。

また本市は、2008年オリンピックの国内候補都市に決定しており、2001年の開催都市決定に向け、活発な招致活動を展開しております。各種スポーツ施設の建設を担当する私どもといたしましても、世界のトップレベルの競技者から市民レベルまでスポーツに参加できる「スポーツパラダイス大阪」の実現をめざし、スポーツ施設の整備に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

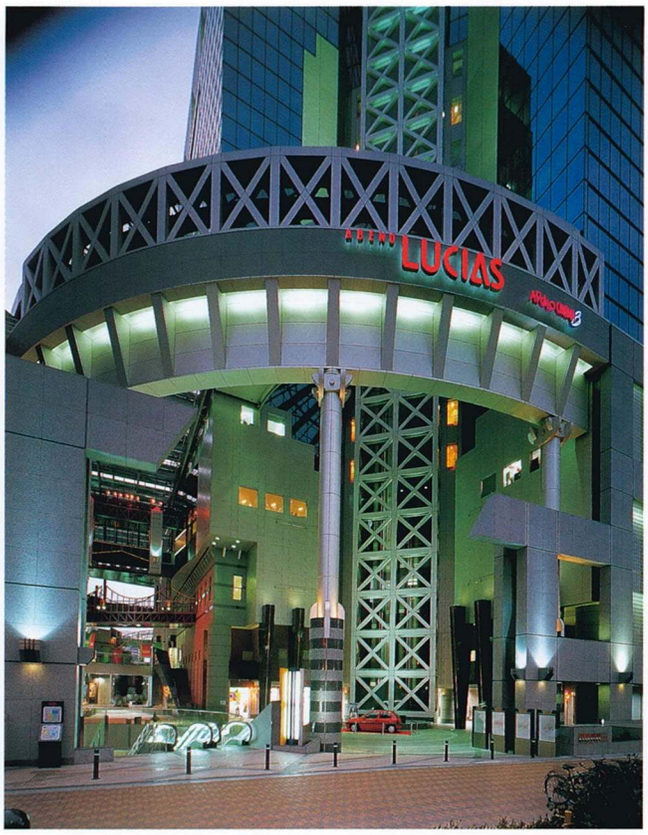
間近に迫った21世紀に向けて、大きく変化する社会・経済状況を踏まえ、一層の効率的な業務執行に努めながら、市民のまちづくりや住まいに対するニーズに対応するとともに、多くの人が集い、にぎわう「創造性と活力にあふれ、世界にはばたく大阪」、すべての市民が快適で豊かな生活を楽しめる「だれもがあこがれ、住みたいと願うまちづくり」を今後とも積極的に推進してまいります。

この特集号に掲載したものは、当局事業の一部ですが、当局事業をご理解頂く一助となれば幸いに存じます。

平成11年２月

都市整備局長　福島由堯







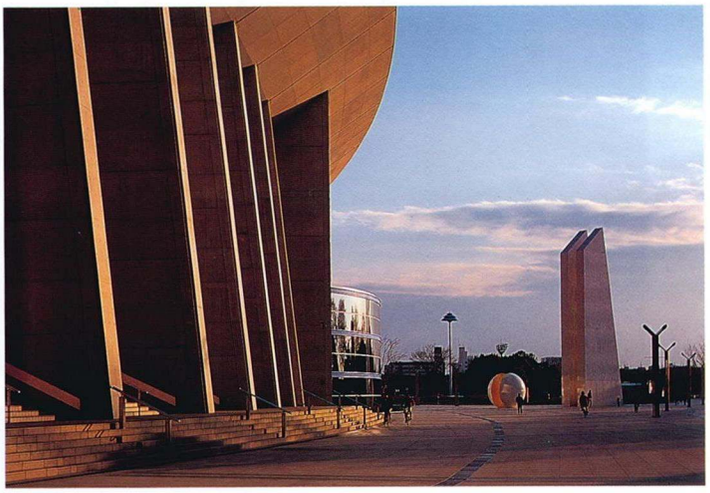
提供 大阪建設工業新聞

あべのルシアス

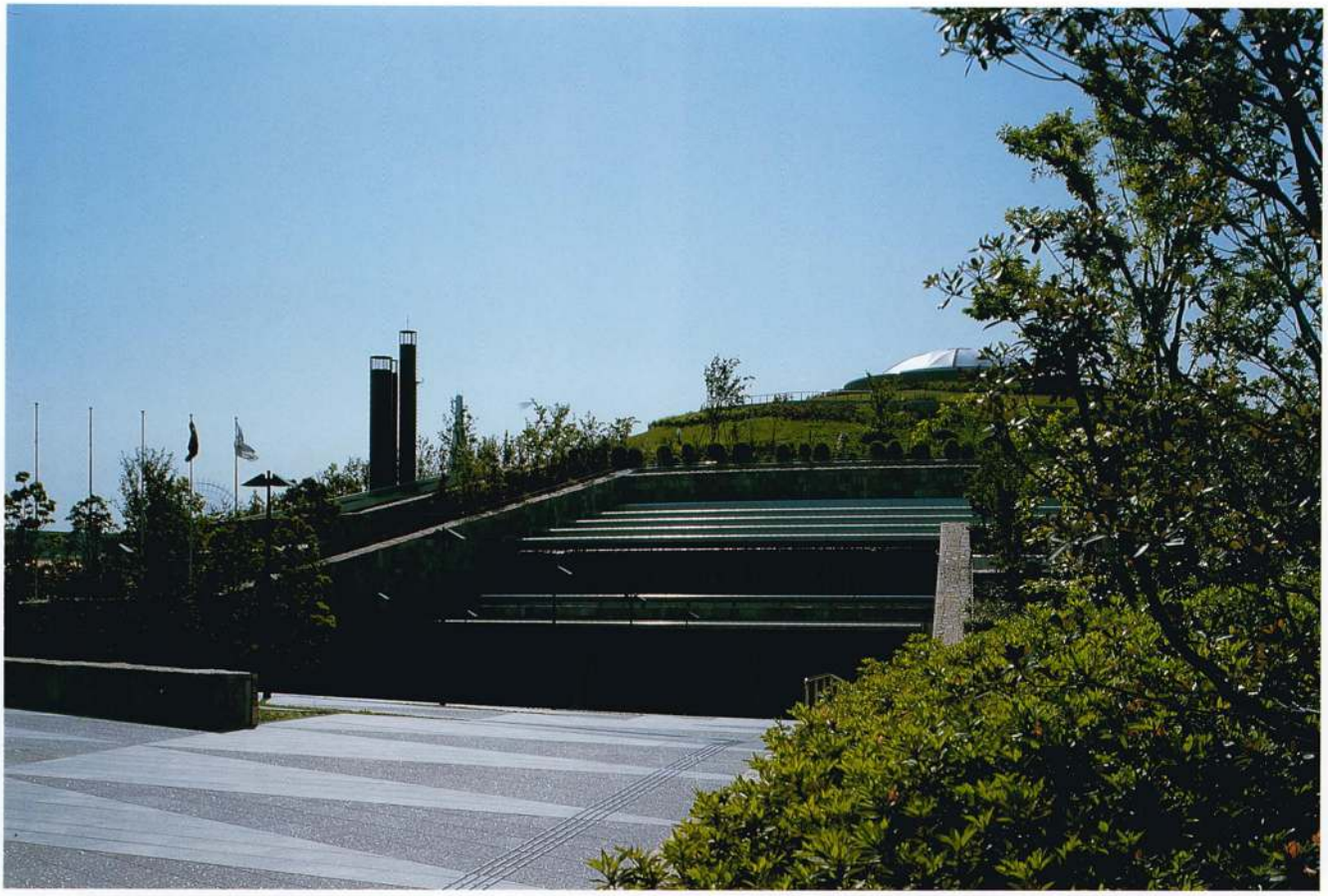

LUCIAS


ブラジルワールドツアー
「日本代表 対 ブラジル代表」





長居陸上競技場









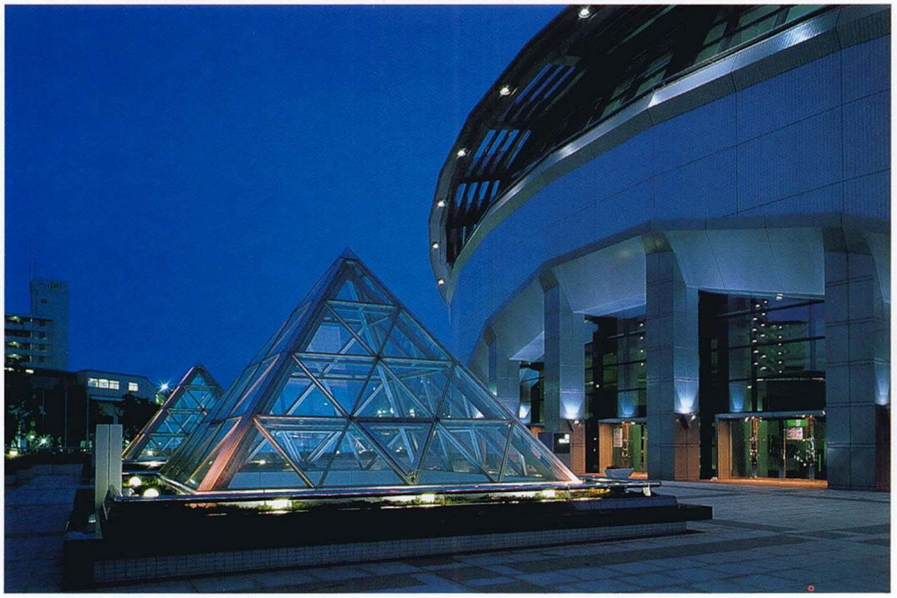
中央体育館

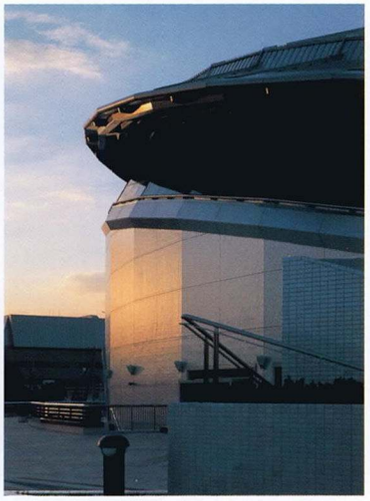






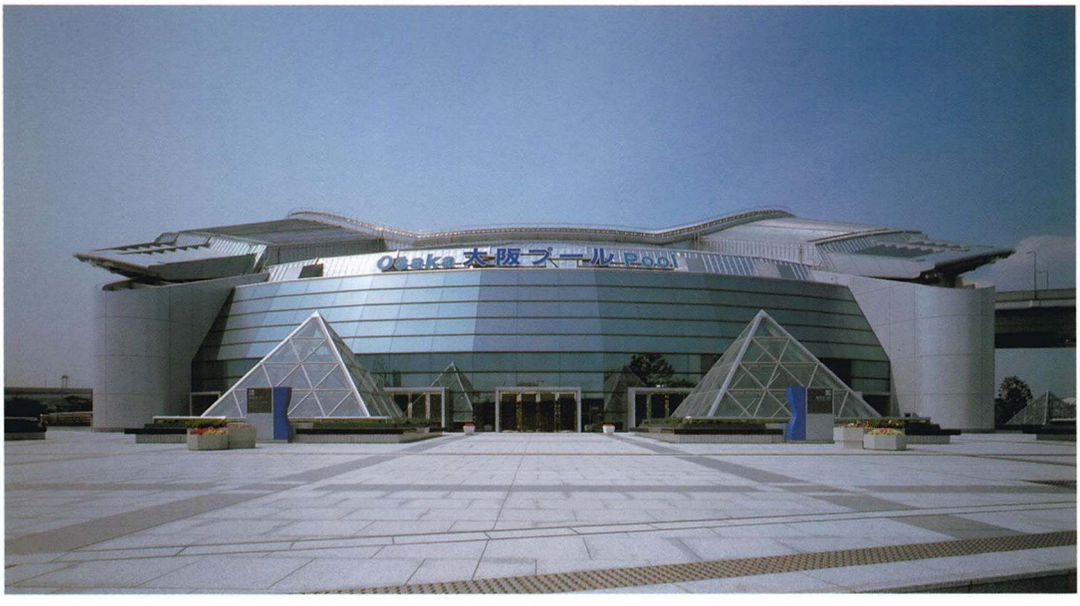




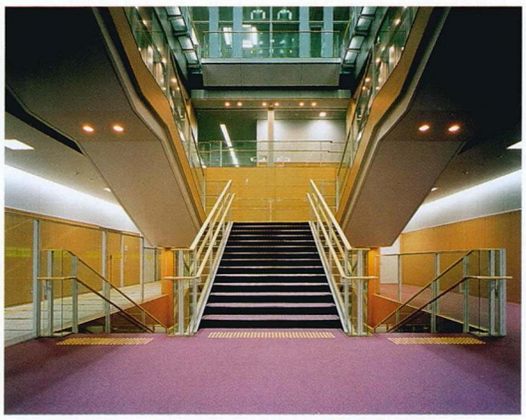


大阪プール




Osaka 大阪プール Pool







大阪市立大学学術情報センター







中央図書館







天王寺スポーツセンター・真田山温水プール







生き生き地球館





古市中住宅



酉島住宅21号館

手前よりおとしよりすこやかセンター、東成スポーツセンター、東成温水プール





東成スポーツセンター

東成スポーツセンター



おとしよりすこやかセンター東部館



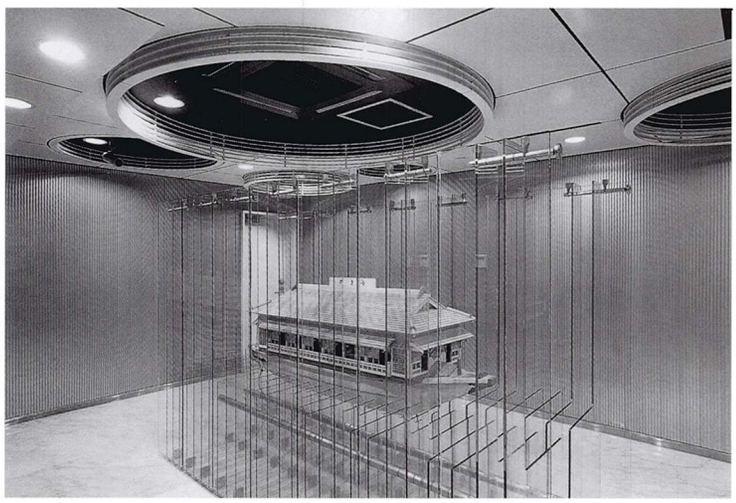
東成温水プール

おとしよりすこやかセンター東部館·東成温水プール





平野区民センター







道頓堀複合施設



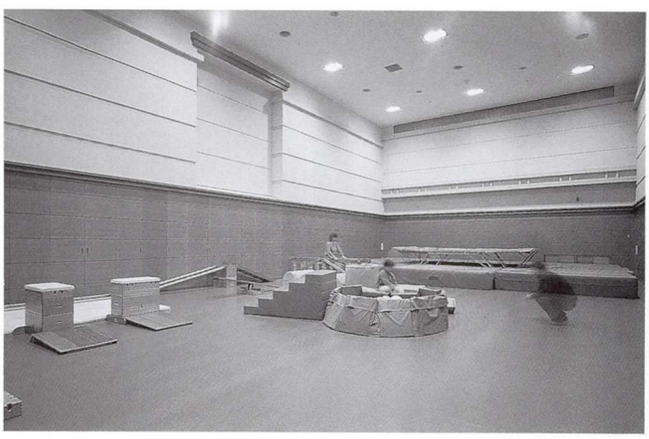


提供　大阪建設工業新聞

鶴見温水プール







舞洲障害者スポーツセンター（アミティ舞洲）





会議室（APEC開催時）



休憩室（APEC開催時）

大阪城公園休憩所

建築概要

あべのルシアス
所 在 地　阿倍野区阿倍野筋1
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上16階、地下５階、塔屋３階
建築面積　5,804.05㎡
延床面積　68,286.53㎡
工　　期　平成６年12月～平成10年９月

天王寺スポーツセンター・真田山温水プール
所 在 地　天王寺区真田山5（真田山公園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上３階、地下２階、塔屋１階
建築面積　5,279.716㎡
延床面積　13,291.425㎡
工　　期　平成７年３月～平成９年５月

東成温水プール
所 在 地　東成区東中本2（神路公園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）
階　　数　地上２階、地下１階
建築面積　1,602.20㎡
延床面積　2,551.13㎡
工　　期　平成８年９月～平成10年３月

長居陸上競技場
所 在 地　東住吉区長居公園1（長居公園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上５階
建築面積　26,692㎡
延床面積　52,300㎡
工　　期　平成４年９月～平成８年５月

生き生き地球館
所 在 地　鶴見区緑地公園2（花博記念公園鶴見緑地内）
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上２階、地下１階
建築面積　2,108㎡
延床面積　3,319㎡
工　　期　平成７年９月～平成９年３月

平野区民センター
所 在 地　平野区出戸5
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上２階、地下１階
建築面積　1,936㎡
延床面積　5,437㎡
工　　期　平成５年９月～平成７年６月

中央体育館
所 在 地　港区田中3（八幡屋公園内）
構　　造　屋根　コンクリート球面シェル構造
　　地上　鉄筋コンクリート造
階　　数　地下３階
建築面積　408㎡
延床面積　42,664㎡
工　　期　平成５年６月～平成８年５月

古市中住宅
所 在 地　大阪市城東区古市2
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上14階、11階、７階、５階
建築面積　3,284.29㎡
延床面積　21,183.218㎡
工　　期　平成７年３月～平成９年６月

道頓堀複合施設
所 在 地　中央区道頓堀1
構　　造　地下鉄筋コンクリート造、地上鉄骨造
階　　数　地上２階、地下８階
建築面積　176.77㎡
延床面積　1,661.48㎡
工　　期　平成８年10月～平成10年７月

大阪プール
所 在 地　港区田中3（八幡屋公園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造
　　（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、プレキャストコンクリート造）
階　　数　地上２階、地下２階
建築面積　7,779㎡
延床面積　25,137㎡
工　　期　平成５年９月～平成８年３月

酉島住宅21号館
所 在 地　此花区酉島4
構　　造　鉄筋コンクリート造
階　　数　地上15階（一部12、13、14階、塔屋）
建築面積　1,478㎡
延床面積　17,138㎡
工　　期　平成６年３月～平成８年８月

鶴見温水プール
所 在 地　鶴見区緑地公園1番（緑地公園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造
　　（一部鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造）
階　　数　地上２階、地下１階
建築面積　3,741.84㎡
延床面積　4,449.32㎡
工　　期　平成７年３月～平成９年３月

大阪市立大学学術情報センター
所 在 地　住吉区杉本3
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上11階、地下４階、塔屋２階
建築面積　2,865㎡
延床面積　37,151㎡
工　　期　平成５年６月～平成７年11月

東成スポーツセンター
所 在 地　東成区東中本2
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上４階、地下１階
建築面積　1,846.18㎡
延床面積　5,693.86㎡
工　　期　平成８年９月～平成10年３月

舞洲障害者スポーツセンター（アミティ舞洲）
所 在 地　此花区北港白津2
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上６階
建築面積　8,672.49㎡
延床面積　14,374.08㎡
工　　期　平成７年９月～平成９年７月

中央図書館
所 在 地　西区北堀江4
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上６階、地下６階
建築面積　4,223㎡
延床面積　34,532㎡
工　　期　平成４年12月～平成８年１月

おとしよりすこやかセンター東部館
所 在 地　東成区東中本2
構　　造　鉄筋コンクリート造
階　　数　地上４階、地下１階
建築面積　1,507㎡
延床面積　6,277㎡
工　　期　平成７年９月～平成10年１月

大阪城公園休憩所
所 在 地　中央区大手前4（大阪城公園内）
構　　造　鉄骨造
階　　数　地上２階
建築面積　608㎡
延床面積　694㎡
工　　期　平成６年12月～平成７年９月

写真撮影

島　修一
絹巻　豊
樋口尚俊
Katsuaki Furudate
松村芳治
エスエス大阪
伸和

（仮称）住まい情報センター（子育ていろいろ相談センター併設）

住まいに関する総合的な情報発信拠点として

はじめに

平成11年度の竣工を目指して現在工事が進められている（仮称）住まい情報センターは、大阪市の住まいに関する総合的な情報発信拠点として計画された。大阪市では市民の居住水準の向上と人口の市内定着を図るため、市内の住宅及び住環境の整備と合わせ、住まいに関する情報を一元的に扱い都市居住を支援・促進する施設の整備を進めることとなった。

住まい情報センターは、住まいに関する各種の情報サービスを集約し、人々がそこを訪れれば、民間住宅も含め各種の募集に関する情報提供や住まいや暮らしに関する相談・コンサルティングを受けることができ、さらに大阪の都市住宅の歴史などについても知ることができる総合的な住情報拠点として建設される施設である。

官民による共同開発計画

当建物は大阪市と住友銀行が共同で開発するもので、官民による区分所有ビルである。敷地は、地下鉄及び阪急の天神橋筋６丁目駅に隣接し、梅田から一駅のJR天満駅も近く交通の便に恵まれている。また日本一の長さを誇る天神橋筋商店街アーケードの入り口部分に位置し、商店街のゲート的な性格を持った立地でもある。大阪市所有地と住友銀行天六支店の敷地を一体化し、総合設計制度を活用して建物周囲に公開空地を確保し良好な都市景観を形成することを目指している。

建物の構成

建物は地上10階、地下１階、延べ床約20,000㎡の複合ビルで、地下部分で地下鉄駅コンコースと連絡通路で接続している。施設は、低層部を住友銀行の天六支店及びテナントが占め、３階のホールを含めた４階から上階を大阪市が専用する構成で、４階に住まいに関する情報提供を行う住情報プラザ、８階から上階には住まいに関する博物館が入り、５、６階には大阪市住宅供給公社が入居する予定である。また、７階には子育てに関する相談や情報提供を行うため、情報提供コーナーをはじめ、保育室や調理実習室なども備えた、大阪市民生局施設の（仮称）子育ていろいろ相談センターが入る。（図１）

上下に積層した各施設は展望用を含めた４台のEVで連結し、１階及び４階、８階に３層の吹抜けを設け、関連する機能をこの空間を中心に展開し、機能ごとにまとまりのある構成とした。階ごとに機能が異なるため、20mの大スパンを採用して自由な間仕切りと将来の変更に対応できるフレキシビリティーの高い平面計画とした。この施設の中心となる４階の住情報プラザは、窓口カウンターが一列に並ぶ一般的な機能優先のレイアウトを避け、木質系の材料や曲線をモチーフとしたカウンター、オープンな雰囲気の事務室部分、開放感の高いルーバー天井などのインテリアにより、誰もが楽しく利用でき、気軽に立ち寄れる市民のためのオアシス空間を目指した。

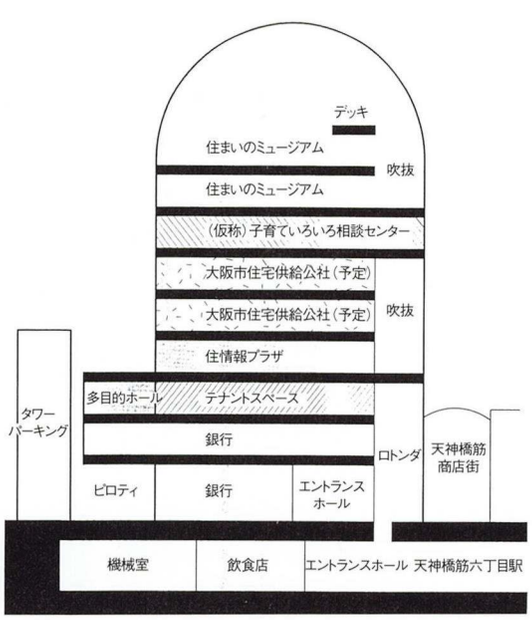


図1　フロア構成

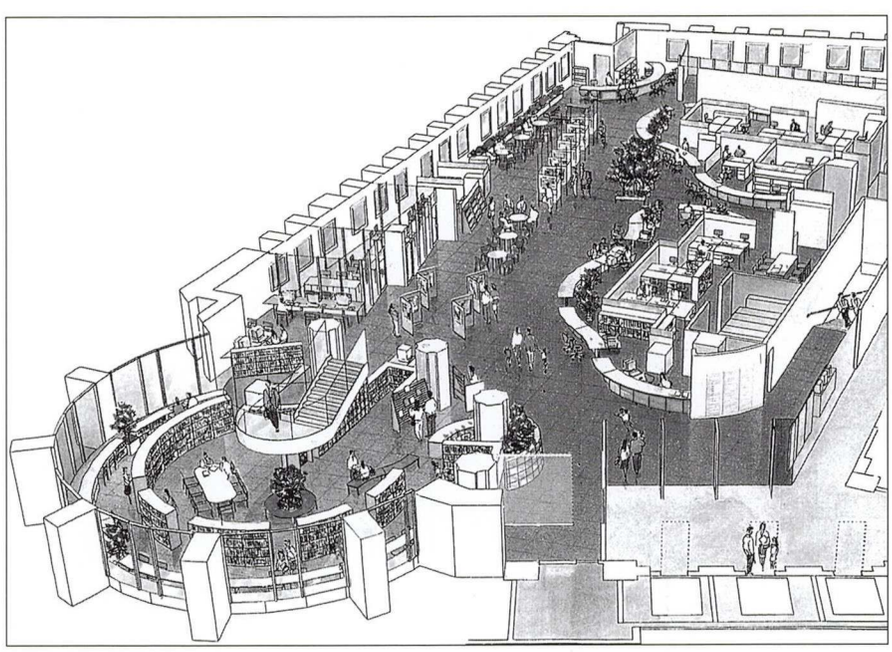


図2　住情報プラザ（4F）

約11mの高さを持つ吹抜け部分には、ライブラリーを設置し、明るい雰囲気の中で外に広がる景色を楽しみながら、住宅に関する資料・図書の閲覧や、大阪の町と住まいに関する歴史を学ぶことができる空間とした。

近世大坂の町並みを再現する展示室

高層部の８、９階には住まいに関する博物館が計画されている。９階の常設展示室は全面に近世大坂の船場の町並みを実物大で展示し、当時の町と住まい・衣食をふくめた暮らしなど、季節感や一日の移り変わりをトップライトからの採光と遮光幕、演出照明などで演出を行い、活気あふれる庶民の町大坂を体感させるフロアーとなる。実物大の町並みは当時そのままの材料、工法で復元されるため、大地震時の高層階における揺れに対する安全性を考慮し、約1,000㎡の展示室全体を床免震とした。また木造建物の火災時における安全性を確保するため、開放式スプリンクラー設備を展示室天井部及び一般型スプリンクラー設備を木造建家内に装備し万一の火災にも即座に対応できる計画とした。（図３）

これまで国内では、複合ビル内に重要文化財級の展示を行う博物館を併設する事例が少なく、厳しい複合化の条件をクリアーするため、他施設との完全な分離や防火区画、専用動線の確保及び万全の防犯対策、ケースや収蔵庫の免震化、スプリンクラーに対する浸水対策など、災害時における貴重な展示物への被害を最小限にとどめる配慮を行なっている。

外観を特徴づけるロトンダ

外観は、１・２階の低層部を御影石張り、中高層部を施釉スクラッチタイルのPC版打ち込みを基本として構成し、クラシックな雰囲気のなかに明るい色彩を基調とした外壁とすることで良好な街並みづくりに配慮した。外観を特徴づけるアーケード入り口側のシリンダー状の部分は、ロトンダと称する室内の吹抜け空間とし、内部の雰囲気が外部にわかる開放的な表情の外観とした。またこの特徴的な形状は施設の顔として、さらに地域のランドマークとなることを意図した。（図４）

おわりに

施設は平成11年度に完成し、遅れて約１年後には高層階の博物館もオープンする。天神橋筋商店街のアーケード改築工事も建物のオープンに合わせて完成が予定されており、今後住まい情報センターを中心にこの地域が活性化することが期待されている。また、会社員やウィークデイには利用しにくい人々の便を図るため、休日及びアフターファイブの開館も予定しており、ハード、ソフト両面で市民に対するサービスの向上を検討している。施設完成後は住み心地の良い町大阪をアピールできる情報発信拠点として、市民に親しまれ続けることを願っている。

（大阪市都市整備局建設部）



図3　近世大坂の町並再現ゾーン（9F常設展示室）

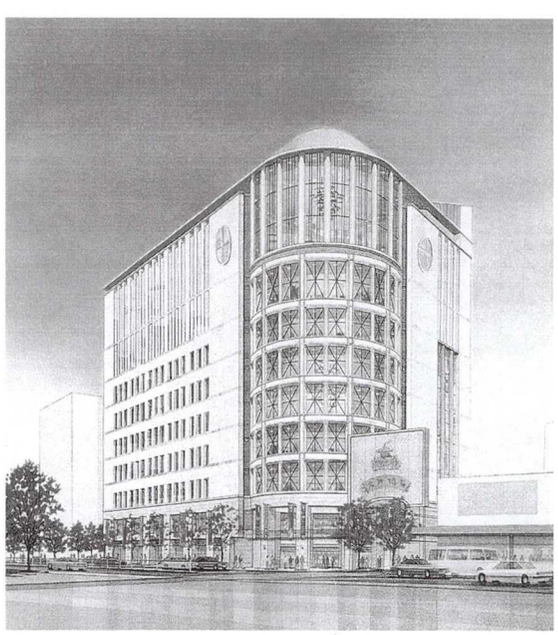


図4　外観パース

（仮称）大阪市立博物館・考古資料センター建設

大阪の過去と未来を結ぶ新しい歴史系総合博物館

はじめに

現在の大阪市立博物館は、大阪城公園内に昭和35年に開設されたが、この施設は昭和６年に博物館以外の用途として建設されたものであり、老朽化が進むとともに手狭になったことと、大阪市の「難波宮跡と大阪城公園の連続一体化構想」の一環として、旧中央体育館跡地に現NHK大阪放送会館を移転することになり、新しく考古資料センターを併設して一体の複合施設として建設することとなった。建設に当たって、学識経験者に新しい博物館、考古資料センターの在り方について検討を依頼し、平成７年８月に「大阪市立博物館（仮称）基本計画報告書」、「考古資料センター（仮称）基本計画報告書」を策定して公募型プロポーザルを実施した。審査の結果11月に設計者を選定し、平成８年度までに基本設計及び実施設計を行い、平成10年１月に工事に着手した。

計画趣旨

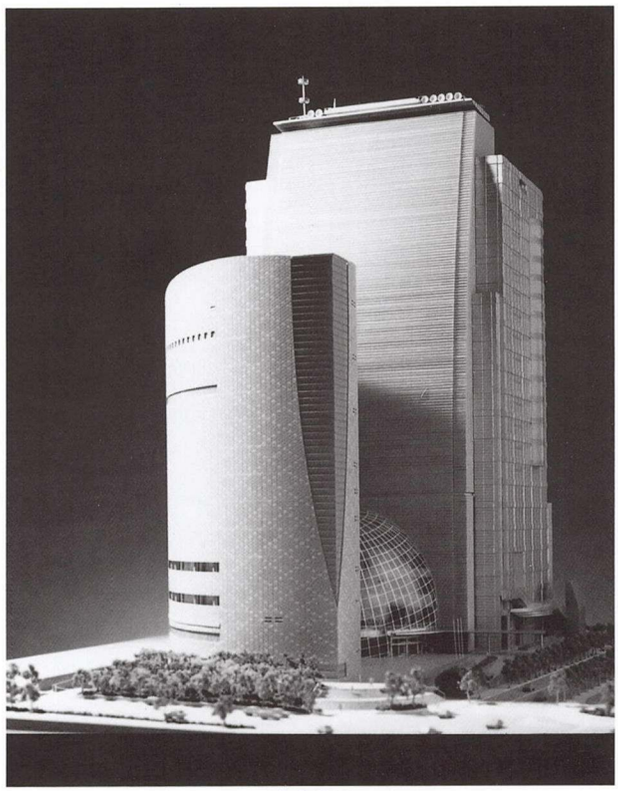
新博物館の計画に当たっては、これまで大阪が歩んできた歴史と文化を再評価し未来の創造を図るための新しい歴史系総合博物館であること、国際都市大阪のアイデンティティを示し大阪の歴史と文化を紹介する代表的な施設として機能すること及び、大阪の都市文化をさまざまな学問領域の視点から総合的に研究する「大阪学」の情報センターとしての機能を合わせ持つ施設であることをめざした。

考古資料センターとしては、古代難波宮を中心に近世大坂城にいたる「都市遺跡」をとおして、大阪発展の原動力や大阪が果たした国内及び国際的な役割を明らかにし、文化と都市機能を考えるセンターとして、また、都市遺跡発掘の手法や考え方、さらに当時の大阪の姿を体験的に学ぶことのできる考古学の専門博物館をめざした。

計画地内には難波宮の貴重な遺構が多数確認されており、これらの遺構の永続的な保存と活用を図りつつ、難波宮のサイトミュージアムと21世紀の情報発信基地であるNHK大阪新放送会館との機能を整備し、複合施設として一体的かつ有機的に相乗効果が発揮でき、大阪の過去と未来を結ぶ市民に開かれた文化シンボルとなる建物とした。施設規模としては延床面積約89,800㎡（博物館専有約23,600㎡、NHK専有約47,500㎡、共有約18,700㎡）のツインタワーとして計画した。

設計の概要

設計における基本方針として、新博物館・考古資料センターの計画趣旨に従うとともに、①施設機能の違いによる独自性と、複合施設としての一体化を示すデザイン、②敷地周辺の歴史的、文化的環境を生かしたデザイン、③遺構を永続的に保存し、有効に活用可能な建物配置・構成、④複合施設にふさわしい豊かで賑わいのある共有空間、⑤利用者の快適性と周辺環境に配慮した計画の具体化を図ることとした。



完成模型

計画地条件

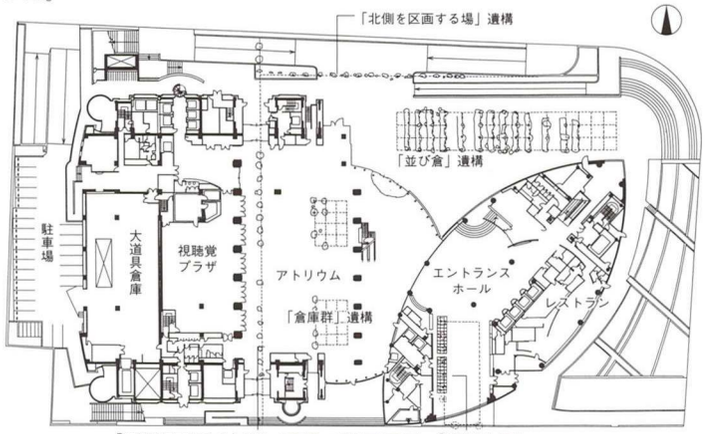
計画地は、大阪市域のほぼ中央部の上町台地頂部付近にあり、東側は広大な緑に包まれた大阪城公園や難波宮跡公園に近接し、遠く河内平野や生駒山地が遠望できる。主要幹線道路の上町筋と本町通りの交差点南西部に位置し、地下鉄中央線及び谷町線の谷町四丁目駅の出入口が計画地南側の公園に接しており、交通の便利のよい位置にある。周辺施設には、大阪府庁、大阪府警、家庭裁判所、国の合同庁舎等の官庁施設があり、計画地南側は難波宮跡公園として今後整備が進む予定である。

計画地内の難波宮遺構としては、「並び倉」、「管理棟」、「倉庫群」、「北及び西側を区画する塀」が計画段階で既に確認されていたが、平成９年の調査で新たに「排水用の石組み溝」が発見された。

施設の配置計画

難波宮跡、大阪城公園等の歴史的、文化的環境を考慮して、敷地東側に博物館棟を、ボリュームの大きなNHK棟を西側に配置し、２つの施設を結ぶ位置に共有のアトリウムを設け、賑わいを演出する複合施設全体のアプローチ空間とする。建物は難波宮の古代都市軸に合わせ、１階レベルは遺構の保存、活用のための土かぶりを適

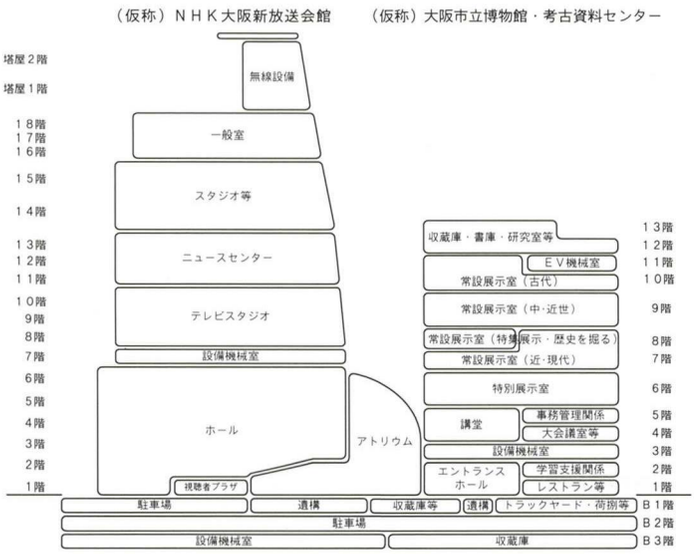
正に確保するため、現状地盤より１ｍ上げることとし、「管理棟」、「倉庫群」、「西側を区画する塀」、「排水用の石組み溝」遺構は、現位置で保存するための特殊な工法を用いて建物内に取り込み、これらの遺構を公開することにした。また、敷地東側の上町筋沿いに幅15mのグリーンベルトを設け、都市レベルのアメニティーに配慮した。



配置・1階平面図

施設の構成

博物館施設としては類のない高層の積層型建物となるから、各フロアの機能を明確にしている。１階は、敷地内外の遺構群を一体的空間として見渡せる開放的なエントランスとし、低層部に学習支援ゾーン及び管理ゾーンを設けて来館者の利便性、管理の合理化を図り、中層階にこの建物の中心である展示ゾーンを配置した。上層フロアは収蔵庫の一部と研究ゾーンとし、落ち着いた環境を確保している。地下部分には、地下１階に搬入スペース、収蔵ゾーンの一部を設け、地下３階に耐震性と収蔵環境の安全性に優れた点を生かして収蔵庫を配置している。また、NHK新放送会館との共有の設備機械室及び駐車場等を地下に効率よく確保している。



複合施設の概略構成図

建築意匠計画

NHK棟は収容するスタジオ、ホール等の施設の機能性を表現する矩形、博物館棟は公共施設として印象に残る紡錘形で構成し、２つの棟をつなぐ全体のエントランスであるアトリウムは球形とし、それぞれの機能の違いを表現する。

複合施設としての調和を、水の都大阪を思い起こさせる「風をはらんだ帆船」をモチーフとする博物館棟の曲面に花崗岩打ち込みPCカーテンウォール外壁、NHK棟東面の上に向かって拡がる曲面のガラスカーテンウォール及び西面は曲面外壁で表現している。これら２つの棟の曲線、曲面の外壁形状は、周辺環境への視覚的な圧迫感及びTV受信障害、ビル風等の影響を和らげ、地域環境と調和し、環境向上に貢献することを目指している。

おわりに

本工事は、地下部分で遺構保存工事を伴う逆打工法を採用し、地上部分でも、博物館棟で遺構により無柱となる部分のためにメガトラスの採用、また、NHK棟では低層部のホール部分をまたぐため、スーパーフレームの採用等、工法、構造共に非常に難易度の高い工事となっている。この難しい工事が無事故、無災害で平成13年４月の完成をみることを願っている。

工事概要

所 在 地：大阪市中央区大手前４丁目６番35
用　　途：放送局、劇場、博物館
地域・地区：商業地域、防火地域、駐車場整備地区
敷地面積：12,999.93㎡
建築面積：　7,415.20㎡
延床面積：89,823.98㎡
　　博物館専有部分／23,649.06㎡
　　ＮＨＫ専有部分／47,518.03㎡
　　共有部分／18,656.89㎡
工事期間：平成９年12月～平成13年４月
建物の規模：博物館棟＝地下３階、地上13階、塔屋１階（高さ83m）
　　ＮＨＫ棟＝地下３階、地上18階、塔屋２階（高さ134m）
設計・監理：大阪市都市整備局営繕部
　　・ＮＨＫ技術局開発センター（建築技術）
　　・㈱日本設計／㈱エヌ・ティ・ティ　ファシリティーズ／シーザー・ペリ　アンド　アソシエーツ　ジャパン㈱
　　設計共同企業体
施　　工
建　設　工　事：大林・竹中・戸田・三井・安藤特定建設工事共同企業体
電気設備工事：きんでん・東光・栗原・大栄・近工特定建設工事共同企業体
空気調和設備工事：ダイダン・新日空・高砂・日比谷・川本特定建設工事共同企業体
衛生設備工事：三晃・斎久・一工・川崎・西原特定建設工事共同企業体
昇降機設備工事：フジテック㈱
ガス設備工事：大阪瓦斯㈱

（大阪市都市整備局営繕部）

大阪市中央公会堂保存再生事業

中央公会堂

平成７年のプロポーザルに始まる「大阪市中央公会堂保存・再生事業」も今春ようやく設計の段階から着工のはこびとなった。今回のレポートでは、まず初めにこの事業の概要を３つのポイントから論じ、続いて幾つかの問題・話題を、アットランダムにレポートさせていただく。

保存・再生事業の基本的な方針

１）必要な耐震性能を確保するための構造補強

中央公会堂の華麗な外観や内部意匠は、歴史的建造物として極めて重要であるとの評価を受けているが、この建物を将来にわたって使用していくための最大の問題点は、現在の水準で必要とされる耐震性能を満足させていない点である。

保存・再生計画では、建物の外観だけでなく内部空間もできるだけ保存した上で必要耐震性能を確保することが重要な課題である。

そのため、既存部分の構造補強範囲を内部空間の保存に支障のない範囲で行うこととし、それを可能にする構法として、建物に及ぼす地震力そのものを弱める免震構法を建物基礎部に採用する。

２）建設当時の姿への復元を基本とした外観の保存

中央公会堂は、建設以来約80年を経過する間に、正面玄関廻りの庇の付加や、大集会室舞台後部の空調設備室の増築など、さまざまな手が加えられ、創建当時の建築意匠を損ねている部分がある。一方、現在行われているライトアップは近年のものではあるが、大阪の夜景のシンボルとして市民に親しまれている。

このように、外観の保存にあたっては、中央公会堂を保存する主旨を踏まえ、創建当時の姿への復元を基本としつつ、適切な改修・修景を行う。

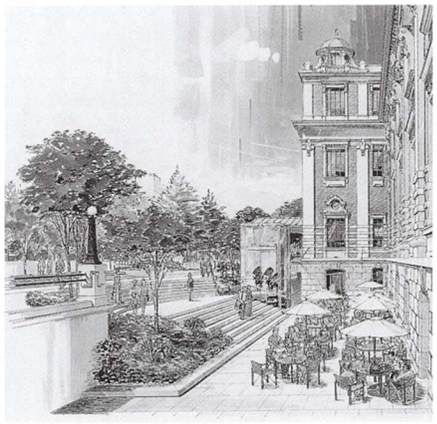
３）内部空間の保存及び活用のための機能性向上

中央公会堂の内部空間は、後に手が加えられ、創建当時の意匠を損ねている部分に関して創建当時に近い姿に復元することを基本とした改修を行う。同時に、中央公会堂を将来にわたって活用していくために必要な、機能性の向上のための改修を行う。

また、多様な公会堂の利用に対応するため、音響、照明、舞台設備の改善等を行う。さらに、空調設備の改善により快適性を向上させ、身体障害者の人々や高齢者等にとって、安全で使いやすい施設とするための改修を行う。



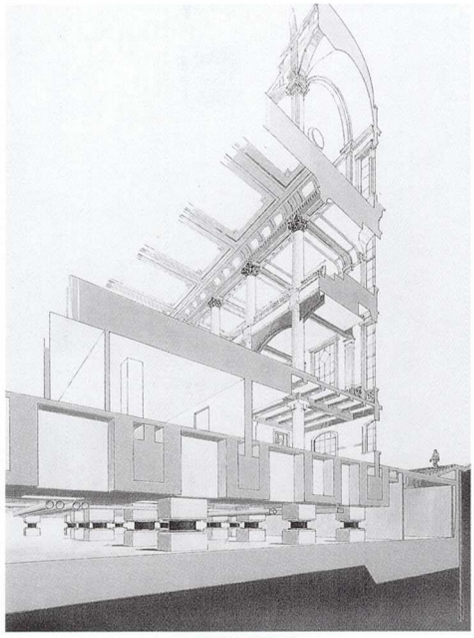
創建時の彫像



サンクンガーデンテラス



保存再生工事後の外観状況



免震断面構成

大集会室は、創建当時のふんいきを大切に、活用をひろげる

公会堂の主役的存在である現在の大集会室は改変されている。昭和12年の大改修では、創建時の大天井およびその大小シャンデリアが失われ、プロセニアムまわりに壁・天井が付加、2階席後部中央に映写室が増設され、1階客席平床には勾配床が導入されるに至っている。（この結果、玄関ホールに階段が出現）又、仕上においても塗り替えで色調や材質に改変が生じ、擬大理石塗りであった列柱にはペイントが施されている。

創建時の図書が残っていないため、創建時の内観写真数葉をたよりに復元的意匠の実現に努めることとしている。他に例をみないこのホールとしての空間にふさわしい活用性をひろげるため、舞台設備の全面的改修を図ることとした。即ち、昇降床としての前舞台と舞台上を前後に走行してプロセニアム開口を壁にできる正面反射板とによって、窓のあるシューボックス型の音響ホールが誕生できる。しかも、客席前半部が平床であることを生かして移動収納可能とし、会議場として、ダンスフロアとして、ファッションショーの設営等、利用の範囲が現状より格段にひろげられる。これらに対応できるよう復元的意匠の大天井には、大小シャンデリアの他、舞台客席の照明設備やホール音響設備、空調設備等が整備される。特に、音響条件については、窓開口他の遮音性能の向上をまず第1に、サッシおよびガラスの取替え、演奏者のはねかえりや客席への一次反射音を強化する工夫、客席椅子の音響特性への配慮や音場支援への検討も視野において、現代水準に対応するホールとして再生される。



大集会室復元後（コンサート形式）

より開かれた公会堂をめざして諸室を再編成し次代につなぐ

公会堂の基本的なかたちは、明治45年に岡田信一郎案が選出されるに至った意匠提案に対する指名コンペの与件として、辰野金吾が提示した基本プランに基づいている。当然のことながら、その時代を反映したプランニングの制約によって、80年を経た今日までの諸要求が無理な変形を加える反面で、頑固な不変の部分も残ることができた訳だが、これをどう再編成して次代につなぐか。

保存・再生事業では、地階の基礎免震構法の導入を受けて、この半地階の特性をより開かれた主階として位置づけることを試みる。創建当初より市民に人気があった食堂は今後も中心にすえ、その前面をサンクンガーデンテラスとしてひろげ、ここから直接建物にアクセスできる大階段とEVとを整備する。標準階1、2、3階に廊下がないことによる使いづらさは、往来自由な地階の市民利用諸室の集約化によって補完され、利便性が大巾に向上する。又、公会堂創設を起案し、多額の寄付によって実現した岩本栄之助の記念室や、舞台と同サイズの練習室兼多目的小ホールを新しく整備する。東西南北の離れた4つのコアは、上部構造補強にあわせてEVの新設、トイレの整備により全館バリアフリー化の実現が図られる。

正面彫像の復元について

創設当時、正面玄関アーチ頂部にあった像「メルクリウス」と「ミネルヴァ」とは、昭和18年の金属供出で撤収されて以来、その姿は建物全景での写真と、松岡壽画伯による下絵、および「建築雑誌」（大正8年）記述の「銅板にて打ち出したるものなり」からその製作を推し図る他なく、オーセンティシティをふまえた復元には手だてが不足しており、情報・資料等心あたりの方はぜひ御一報いただきますよう、この誌上をお借りてお願いする次第です。

煉瓦のこと

「煉瓦とは片手で持てる重量に大きさを統一した通常無機質の直方体の建材である」と書いてしまうと味もそっけもないが、なんともいえぬ親しみと、ぬくもりを感じさせる素材である。我国では、1850年佐賀藩の反射路に耐火煉瓦が使用されたのが最初であり、建築用煉瓦は、1850年長崎製鉄所で使用されたのが最初で、長崎の瓦屋で製造されたといわれている。

明治初期、煉瓦造建築は、実用本位、工場・倉庫・兵舎等々からスタートした。それが大正時代に大変貌、大正ロマンの香り高い大阪市中央公会堂の誕生となる。東の東京駅と双璧、貴重な存在である。大正デモクラシーとも無縁ではなかろう。公会堂のこれからを考える時、こういった文脈を大切に、今回の保存・再生を出発点に、未来永劫、大切に保存・再生を重ねてゆく覚悟が必要です。

（大阪市都市整備局営繕部／（株）坂倉建築研究所）

（仮称）住吉スポーツセンター・温水プールの建設

スポーツパラダイス大阪の実現をめざして

はじめに

近年の高齢社会の進展、市民の生活様式の多様化などにともない、余暇の過ごし方も様々になっており、その一つとしてスポーツを健康維持や増進、生き甲斐を求める手段として楽しもうとする市民ニーズは一層高くなっています。またスポーツの楽しみ方も、誰もが身近に楽しめる「競技するスポーツ」への積極的な参加と併せて、「見て楽しむスポーツ」まで多様化しています。

大阪市では、市政の重要な施策の一つとして、世界のトップレベルの競技者から市民まで幅広くスポーツに参加できる「スポーツパラダイス大阪」の実現をめざし、各種競技大会の招致と様々なスポーツ施設の整備を進めています。特に子供からお年寄りまであらゆる市民が身近なところで手軽にスポーツやレクリエーションを楽しんでいただくために、地域に密着したスポーツセンターと温水プールを各区に整備しています。

また市民の皆様の大きなご支援、ご協力をいただき本市では、これまでのまちづくりの上に花開く世紀の大事業として、「地球市民のオリンピック」を基本理念に掲げ、2008年第29回オリンピックの大阪招致に全力を上げて取り組んでいます。昨年12月には、政府の閣議了解を得て今後早急に政府関係や競技団体、経済界など幅広い方々に参画をいただく全国的な招致委員会の設立を進め、全国の支援を得て、国内はもとより世界を舞台にさらに積極的な招致活動を展開し、オリンピック開催都市としての「栄誉と責任」が本市に与えられるよう全力を尽くしています。

その様な背景のもとに、平成９年９月より（仮称）住吉スポーツセンター・温水プールの建設に着手しています。またこのスポーツセンターは、大阪オリンピックが実現するとバスケットボールの会場として予定されています。

施設の概要

建設地は、住吉区浅香の元交通局我孫子車庫跡地の一角にあり、浅香中央公園、我孫子南中学校、AOTS（労働省外郭、海外技術者研修所）、特別養護老人ホームセンターなどの建設とともに跡地利用の一環として計画されたものです。市域の南側大和川沿いに位置し、本市の中心を南北に貫くあびこ筋の最南端に位置しています。

設計にあたっては、次のことをコンセプトとして計画しています。

１、区民に親しまれる、明るく、開放的で賑いのある施設
２、様々なスポーツニーズに対応できる施設
３、スポーツイベントに対応できる施設
４、ひとにやさしい施設
５、地域の拠点（核）となりうる施設

以上より、外観計画としては周辺の環境から突出することのないよう直線とグリッドをモチーフとしたシンプルなデザインとしています。また外装材も施設ボリュームからの威圧感を抑えるため、ガラスとアルミパネルを用いて透明感と軽快さを演出しています。

さらに敷地東側に歩道と一体となる広場を設け、エントランス廻りに拡がりのある空間を演出し、建物周辺の緑化と合わせて周辺環境に配慮した計画としています。

内部構成としては、地階に温水プールやスタジオなどその関連諸室、１階に第１・２の体育場、２階には観覧席用のエントランスを設け３階までを観覧席としています。

施設のメインとなる第１体育場は、最大4,000人収容可能で天井高さも14mを確保するなど、あらゆるスポーツイベントに対応できるものとなっています。大規模なアリーナは地域利用として複数面に分割して使用することもあることから、器具庫を東西面に分散配置するなど大規模施設にありがちな使いにくさをなくす配慮を行っています。また第２体育場は、公式バレーボールのほか、柔剣道などの武道場としても活用できるようにしています。

温水プールは、25m×８コースのプールを中心にスタジオ・マシンジムなどを設けています。プールでは、子供からお年寄りまで誰もが利用しやすいプールとするために、プール槽内に車椅子でも入水可能なスロープを設置するほか、２コースを昇降式の床としています。

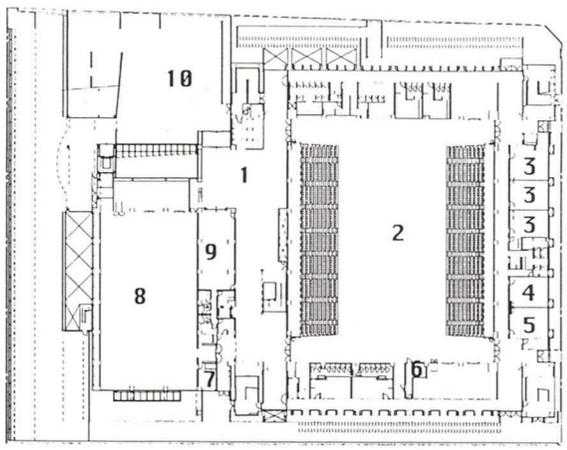
おわりに

現在、来年度の完成に向け工事を進行しています。

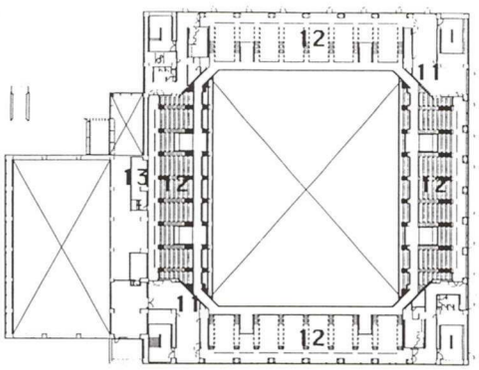
この施設が、地域の皆様に愛され、にぎわい、積極的に活用されることによって、市民の健康増進・維持に役立ち、ひいては本市の進める「スポーツパラダイス大阪」の実現に大きく寄与することを願っています。また多くの市民の応援やご協力を得て、2008年大阪オリンピックを実現し、大会の成功に寄与することができればと願っています。

（大阪市都市整備局営繕部）

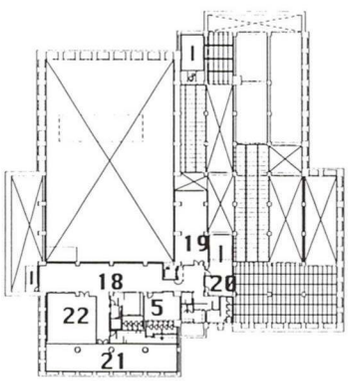
〔建築概要〕
構造規模　SRC造一部S造　地下２階／地上４階
建築面積　6,025㎡
延床面積　14,003㎡
杭 工 法　場所打ちコンクリート拡底杭アースドリル工法



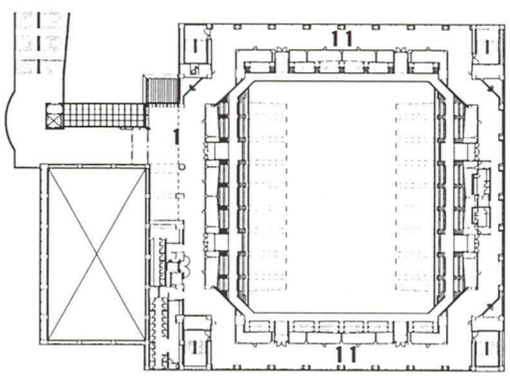
1階平面図



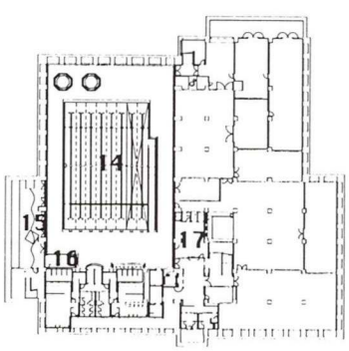
2階平面図



B1階平面図



2階平面図

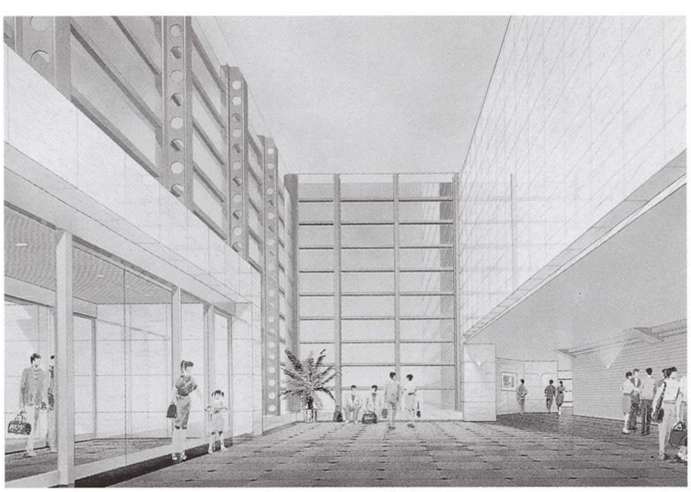


B2階平面図

1	エントランスホール	12	観覧席
2	第一体育場	13	調整室
3	多目的室	14	プール
4	ミーティング室	15	ドライエリア
5	会議室	16	採暖室
6	放送室	17	監視員室兼事務控室
7	指導員控室	18	談話室ギャラリー
8	第二体育場	19	体力測定室
9	事務室	20	指導員室
10	広場	21	マシンジム
11	ホワイエ	22	スタジオ



外観（パース）



エントランスホール（パース）

工芸創作活動施設・（仮称）クラフトパーク

出会い・学び・創る

はじめに

計画地は大阪市の南東、八尾市との境界に近い平野区長吉東部土地区画整理事業区域の中心に位置し、「大阪市総合計画21」では「平野郷などの歴史的資産をまちづくりの中に生かした個性豊かな環境づくりを推進する地域」と位置づけられている。本施設は「地域に根ざした個性豊かなまちづくりの中核施設」として、工芸創作活動施設＝（仮称）クラフトパークを隣接する公園と一体的に整備し、土地区画整理事業の先導役としての役割を担っていくものである。生涯学習ニーズの中でも工芸創作活動に対する市民のニーズは高く、より多くの市民がクラフトパークで“出会い”“学び”“創る”ことで、市民発の新しい大阪文化が育ち、当地域にその文化を核とした個性豊かなまちが生まれることが期待されている。

クラフトを核としたまちづくり

当地域では長吉遺跡に見られるように、旧石器時代から道具づくりの集積があり、中世には独自の工芸技術を背景に商工業が栄え、堺と並ぶ自治都市“平野郷”を形成した。これらの歴史的資産をクラフトパークに改めて結実させ、クラフト文化による個性豊かなまちづくりの中核施設とすることを目標とした。

まず、隣接する公園と合わせて平野郷をイメージした濠状の水路を外周に巡らせ、中央には丘状の盛土と植栽を行い、公園と建物の一体的な景観形成を心がけた。さらに建物のエントランス広場から大階段でつながる2階テラスまでを市民広場として利用できるものとする。一方、公園内にはナチュラル・オブジェ等のクラフトが点在する森のようにしつらえるなど、相互に仕掛けを行うことで、クラフト活動が公園に広がる。また、遊びの中でクラフトに出会うといった相乗効果を狙った。

また、まちのランドマークとして、手づくり感溢れる粗仕上げの石積の大シリンダーをエントランス広場に面して配置した。大シリンダーの内部はギャラリーとして、長吉遺跡から出土した土器、大阪が育んできた伝統工芸品、現在のクラフト作品を展示することとなっており、内外ともにクラフトパークの象徴として位置づけている。

クラフトの世界にいざなう

市民がクラフトパークを利用して新しい大阪文化を育むためには、クラフト作品を見るだけでなく、創作過程の人と場面に出会い、創作意欲を強く触発されることが望まれる。そのような視点から、建築空間も来館者をクラフトの世界へ誘うような計画とした。

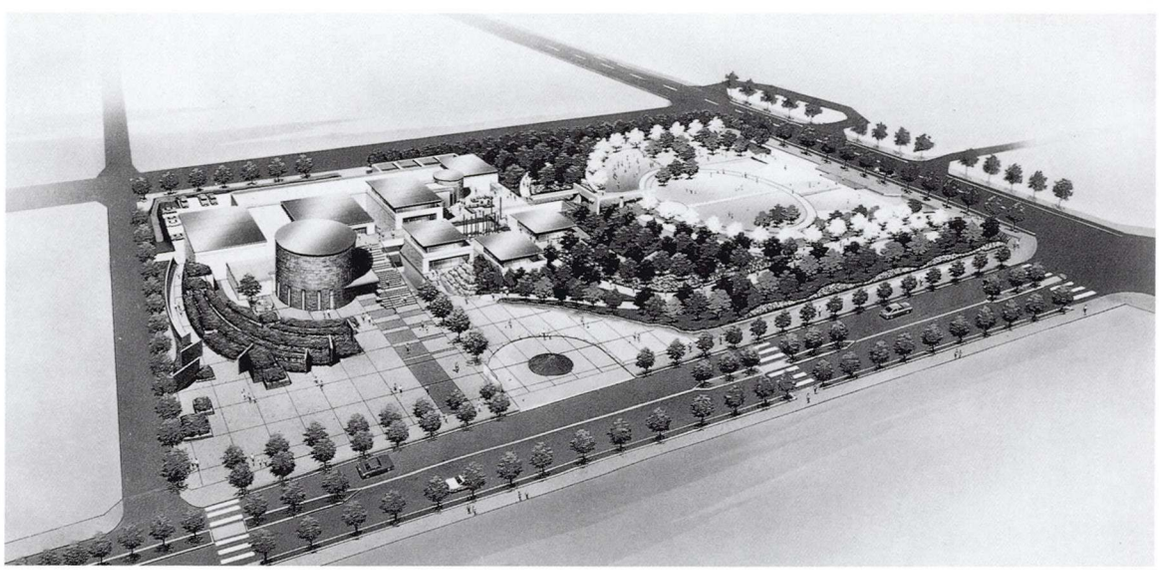
①景観計画～丘の上につらなる工房のイメージ～

公園と建物は一体化して丘状の景観を形成する。様々な形で創作場面に出会えるよう丘上に立ち上がる各工房のボリュームを分節し、リズミカルに点在化した。縦動線はシリンダー形状とし、丘に力強く貫入する表現とした。

②空間構成～6つの工房をめぐるシーン展開～

一筆書きで施設内を巡る動線を設定し、陶芸、ガラス、金工、木工、織り、染めの6つの工房と出会い、変化に富んだ様々な空間（シーン）を展開することによって創作意欲を刺激することを基本方針とした。

最初にクラフトに出会うギャラリーを兼ねた大シリンダー内は高く吹き抜き、光井戸の底にいるような敬虔さの感じられるインテリアとした。



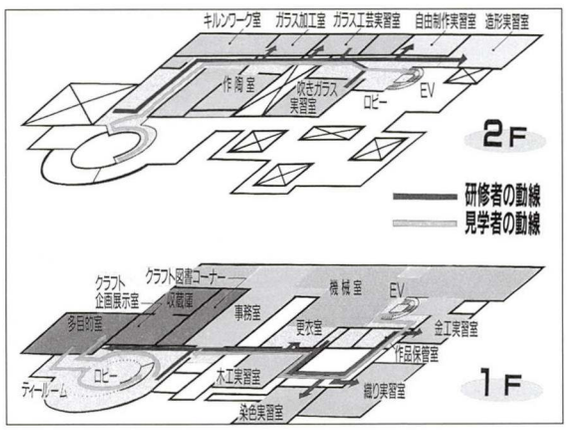
外観パース

各工房には見学窓を設け、製作風景を見学するとともに、素材や道具、技法など実物を通じてクラフトの魅力を体感できる仕掛けとした。

動線の結節点には光、風、水、緑といった自然の刺激が外部から貫入するようにトップライト、テラス、中庭、ライトコート、池をわたるブリッジ等を設けた。

③材料計画～人の技で仕上げる～

手づくり＝クラフトに相応しく、仕上材は大量生産品でなく石工、金工、陶芸左官などの手加工の材料、又は人の手の跡が残る仕上方法を採用した。特にランドマークとなるシリンダーの外壁を錆石のこぶだし仕上とし、内壁には、左官材を用い金物類も極力素材感の出るものとした。



自然を活かす建築を

自然の素材やその摂理を最大限活かし、工業生産のように過剰に機械に頼らないのがクラフトの精神—これはそのまま環境共生の精神に通じるものとなる。

そこで、建築設計もこの精神に則り、この地で得られる自然の力を受け入れ、内部に活かすと共に、環境に負荷を与えるものは極力控えるよう検討した。

折しも、大阪市では地球環境にやさしい設計指針として「市設建築物設計指針（環境編）」を策定したところであり、その試行プロジェクトと位置づけて以下の工夫を行った。

①熱負荷の低減

・盛土、屋上植栽、庇等の建築的な手法によって、主体的に熱負荷の低減を図る。

・全体熱負荷に対する比率の大きい屋根面の断熱を強化し日射負荷の低減を図る。

②自然通風・涼風の導入

・効果的な開口計画によって通風を確保し、自然の風を施設内に導入する。

③パッシブ空調

・外気の取り入れ方法の工夫によって自然の熱を施設内に導入する。

（暖房時は金属屋根面で暖められた外気を施設内に導入。）

（冷房時は木陰及び土中埋設ダクトにより冷やされた外気を施設内に導入。）

④太陽光利用

・採光ダクトにより自然採光を直接取り込めない部屋に対し中庭等から光を呼び込む。

・障害者用の音声案内装置及び自動灌水装置の電源に太陽電池を利用する。

⑤水資源の有効利用

・自然エネルギーの利用として「雨水」の再利用を行う。利用先は池・小川等の親水施設の補給水や施設内の雑用水系統としている。

⑥水防及び雨水の地下浸透の促進

・雨水抑制槽及び浸透性舗装等の設置

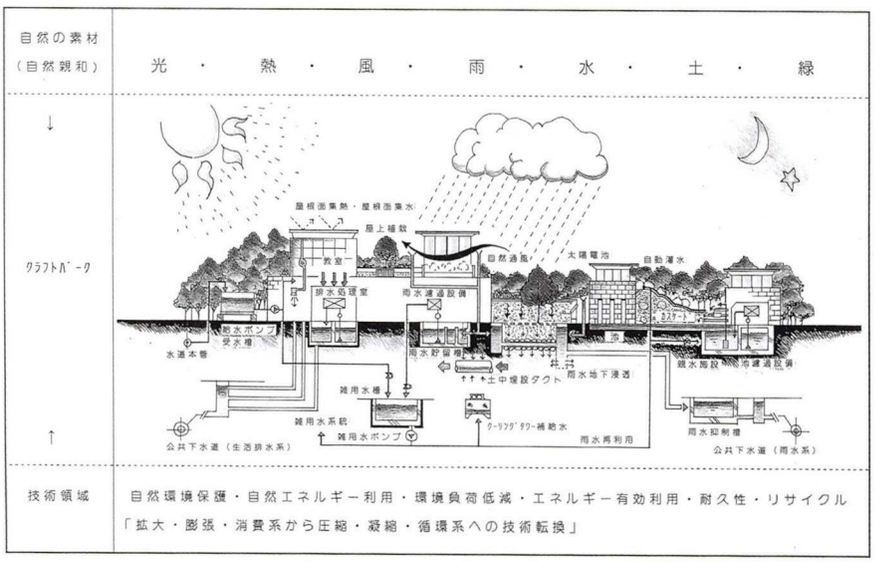
⑦水質保全のための排水処理設備の設置

・陶芸用の釉薬（重金属等）排水、及び染色排水については、排水処理を行った後、公共下水道に放流する。

⑧施設運用時の廃棄物対策

・屋外にガラス・石膏・金属・陶器等の種類毎に廃棄物を保管する場所を確保し分別収集・リサイクルに配慮する。

・陶芸部門においては粘土屑を粘土に再生利用するための設備を設ける。



自然に活かされる建築のモデル図

おわりに

本施設は平成11年６月完成予定で、同年秋から教室事業を開始する計画である。クラフトパークがオープンし、クラフト心のある市民が往来することで、まちにもクラフトにまつわる様々なネットワークが広がり、“まちを歩けばクラフトの雰囲気が感じられる”ようなまちづくりにつながることを願っている。今後とも、個性あるまちづくりや文化創造活動に寄与する施設計画に取り組んでいきたい。

（大阪市都市整備局営繕部／(株)類設計室）

大阪市環境事業局（仮称）舞洲工場

環境にやさしい次世代のごみ焼却場

はじめに

ごみ焼却工場「（仮称）舞洲工場」では、平成９年３月に着工し平成13年４月の完成を目指して、此花区舞洲に建設中である。

本市における近年の産業経済活動の進展と市民の生活水準の向上はごみの量的増大と質的多様化をもたらしている。これらの大量のごみを適正に処理することは、快適な生活環境を守り公衆衛生の向上をめざすうえで極めて重要である。本市のごみ排出量は、本市が所有する10焼却工場の能力の限界に近づいている。また10工場の内６工場は老朽化が進み早急に建て替えを求められている。しかし、建て替えのために現在の焼却施設を停止させることは、ごみ処理能力の限界から不可能な状態である。これらの６老朽化工場は敷地も狭く、稼働しながら改築することも困難である。処理能力の余裕を確保しなければ、老朽化工場の更新はむずかしい。そうした状況を解消するため、当（仮称）舞洲工場は計画された。

本工場の建設される舞洲は招致推進中の2008年オリンピックのメイン会場に予定されており、南隣の夢洲とともに「環境創造型モデル都市」として、都市と環境の共存を目指して計画された。舞洲の西地区には、市制100周年記念事業のひとつとして、130ヘクタールの敷地を活用した市民の健康増進や余暇活動のためのスポーツアイランドとして、大規模名スポーツ・レクレーション施設等の整備が進められている。すでに、国際級のスポーツイベントにも利用できるアリーナや野球場、障害者スポーツ施設、運動広場、テニスコート等が完成し、市民に利用されている。

（仮称）舞洲工場は、これまでの焼却工場以上に環境に配慮して計画された。公害防除設備はもちろん、エネルギー回収面でも最新技術を導入するとともに、トイレや清掃用の水も雨水の利用を計画して、省エネルギーをねらっている。

環境への配慮は機能面のみならず、デザイン面においても考慮され、環境保護建築プロジェクトの第一人者であるウィーン幻想派の巨匠フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏を起用し、自然と共生をテーマにユニークな外観となった。

建物の構成

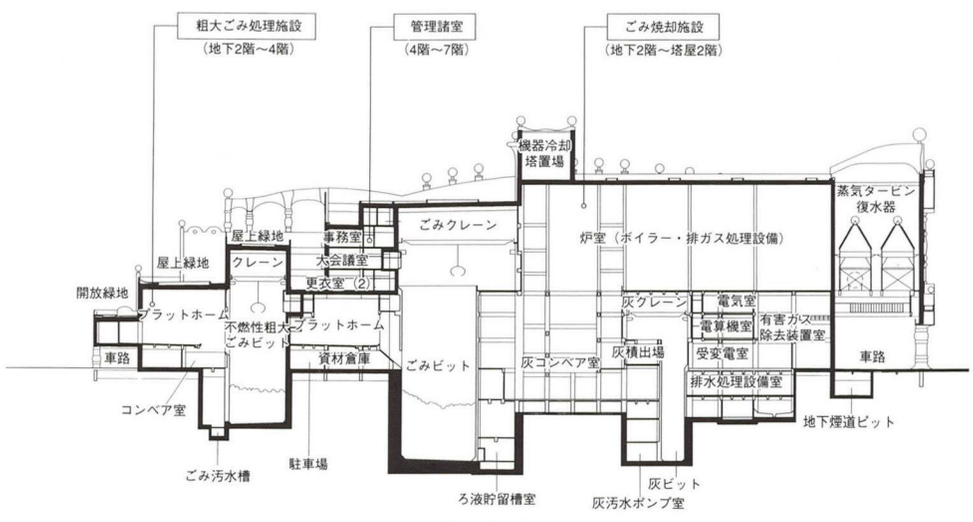
建物の配置はごみ収集車の動線から検討が始まった。ごみ収集車は主要道路からの進入を避けて、交通量の少ない南側道路から出入する計画とし、ごみ処理と排ガス処理のフローから全体の配置が決定された。

敷地外周部は可能な限り開放し憩いとやすらぎのある空間の形成に努めるとともに、一部の屋上も開放緑地とし、敷地外周部の開放緑地と遊歩道でつないでいる。大規模な開放緑地と、ごみ収集車等の通行部との間の施設管理上必要な区画も環境にやさしいデザインとし、古煉瓦を再利用した塀等によって区分している。工場棟は鉄骨鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造７階建て、延床面積は約56,000㎡。日処理量900トンと関西では最大級のごみ焼却施設であり、粗大ごみ処理施設も併設して計画された。

小学生をはじめ多数の見学者が想定されるため、見学者専用玄関を施設管理用入口とは別に設けている。見学者はエレベーターで５階に上がり、大会議室（90人収容）で概要説明を受けた後、下の階へと見学できるルートを設定した。



配置図



工場棟 断面図

フンデルトヴァッサー氏の考え方

従来のごみ焼却施設のデザインを一新する新しい施設は、「自然界に直線はない」というフンデルトヴァッサー氏の言葉通り、曲線を多用しており、創造的な色で構成されている。壁面に立ち上がる赤と黄色のストライプは焼却のプロセスを象徴し、建物内で都市の廃棄物を燃やす炎を表現している。人に人種があるように窓にも様々な種類があるとの考えに基づき、多用な窓が外壁面に不規則に配置されている。また空に突き出した煙突は、頂部に玉ねぎ状のドームを持っており、幸福、豊かさを表現している。さらに起伏のある波状の石畳の大地から伸びあがるセラミックの柱は、美しく、色彩豊かに輝いており、柱の側にいると木の側にいる様な心地よさを感じさせるものとしてデザインされている。

ごみ焼却工場は煙突と共に周辺地域も含めて一体のものであり、人間らしさを取り戻すことが重要である。建物の外観は内部で何が行われているかが表現されている。屋根や外壁の緑化は、自然と調和した人間生態学的コンセプトを象徴するべき新しいランドマークを作り出す必要があると同氏は説いている。また煙突は、遠くにいる人にも近くにいる人にも充分楽しむことができる芸術作品として計画され、これからの1000年間に芽生えてくる新しい生命のシンボルとなるものであると彼は結んでいる。

無機的なごみ焼却工場というよりは芸術作品の延長、そんな印象の完成模型を目の前にして、実際の建物を建設するに当たり、従来の画一的・機械的・工業的な考え方を見直し、より人間的な建物を実現するための柔軟な設計・監理・建設手法が求められたプロジェクトでもある。

（仮称）舞洲工場プラント設備の特長

工場棟内には、１日900トン（450トン×２炉）の処理能力を持つストーカー式連続ごみ焼却設備と、１日170トンの粗大ごみを破砕して金属を回収する粗大ごみ処理設備とが併設される。

公害防除面では、排ガス処理設備としてバグフィルタ、有害ガス、除去装置および脱硝装置等を装備している。燃焼ガスは、ばいじん、塩化水素、硫黄酸化物および窒素酸化物等の有害物質を効率的に除去されたのち煙突から排出される。なお、排ガス中のダイオキシン濃度は、0.1ng/N㎥（毒性等価換算値）以下を遵守する。また、バグフィルタで捕集された飛灰に含まれるダイオキシンは加熱脱塩素化装置で分解処理される。この装置は、ヒーターを巻いたドラムの中に飛灰を入れて加熱することでダイオキシンを効率的に分解するものである。

エネルギーの回収面では、高温、高圧ボイラを採用することで発電効率を高め、ごみ焼却施設では国内最大級蒸気タービン発電機（32,000kw）が設置されている。発電した電力で工場内の消費電力を賄い、余った電力は電力会社へ売却するほか、島内の競技施設にも利用できればと考えている。さらに、蒸気の余熱を島内の施設で利用することも考えている。

このように本工場は、ごみを焼却処理するという基本性能面では最新鋭工場であるとともに、島内の電力源および熱源として活用できるエネルギー発生工場として計画された。

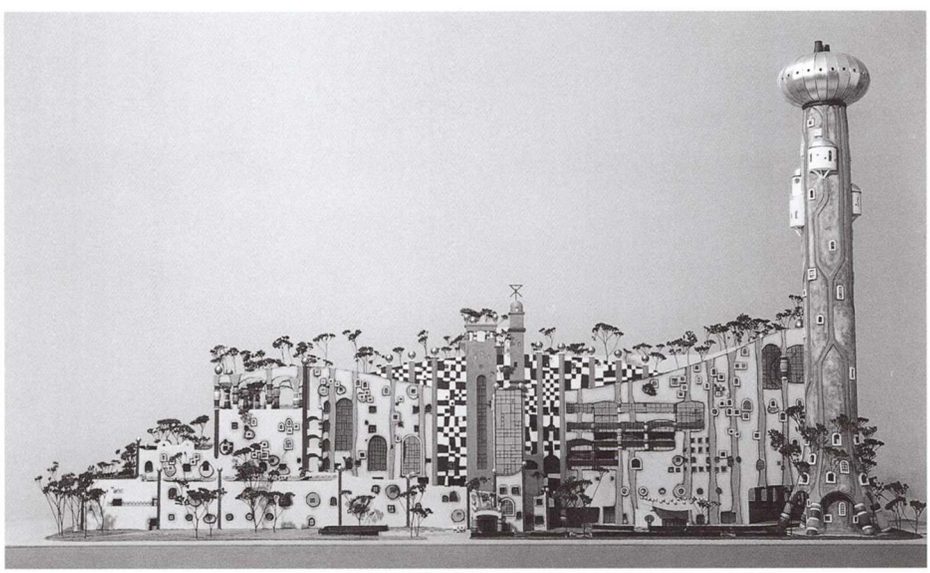
おわりに

一般にごみ焼却工場は迷惑施設と見なされがちであるが、本来都市の基盤施設として必要不可欠なものである。

フンデルトヴァッサー氏は次のように言っている。「巨大かつ冷たい表情を持つ建物は、人間各々が持っている創造性を生かすことにより人間らしさを取り戻すことができる。またそれは環境、技術及び芸術との融和のシンボルである。」

市民生活の上で欠かせないごみ焼却工場は、そんな次世代の環境都市の象徴ともいえ、今回の（仮称）舞洲工場における試みが、新しい時代へのひとつのごみ焼却施設としての提案になれば幸いである。

（大阪市都市整備局営繕部／㈱昭和設計
大阪市環境事業局施設部／日立造船㈱）



完成予想模型西面

特集によせて

舟橋國男
大阪大学大学院工学研究科教授

“公共建築への日頃の存念のほどを”述べよとの仰せを賜った機会に、かねてより感じているいくつかの感想を記させていただき、責めを果たしたい。

まず第一に、建築は「作品」ではなく、「施設」でも「物件」でも「商品」でもない。それは多くの人々による生活の質の向上を目指して行われている絶えざる営みのその努力の歴史的・社会的総体により生み出された場である。

もとより建築物は自然のままに成るものではなく、目的の設定と方法の選択に基づいて制作されたものであるから、「作品」と言って間違いではない。しかし、建築物を「作品」と呼ぼうとする場合には、これを文学・芸術作品のように観念する態度が潜んでおり、作家自らの意図によるオリジナルでユニークな制作物を指し、日常性を超えたものとして、建築を把握することになる。

例えば、多くの作家・建築家が説く言説は、自らが設計したエキセントリックなモノの力を過信した作り手の勝手な主張、いわゆる建築決定論とその亜流であることが多く、人間の意識・行動と環境との関係にかかわる批判的検討に立つものは少ない。さらに、多くの建築誌における「作品紹介」のスタイルに見事に象徴されている建築のフェティッシュな扱いも、恐らくそこから派生するのであろう。当該建築物周辺地域の状況や立地条件にも触れず、時には配置図さえ欠いて、もっぱら人影のない写真に終始し、建築主も使用者も不在である。建築物をこのように表現することやその背景にある建築観がもたらしてきた建築界はじめ一般社会への、特に後進学生等への悪影響は計り知れない。

建築界に蔓延するこのような観念の誤りと、いわば「作品主義」とでもいうべき風潮の弊害に対する指摘は、勿論目新しいものではなく、特に近代主義建築における諸問題については、直ちに思いつくだけでもBrolin(注1)やブレイク(注2)等からも指摘され、あるいは、ジェンクスがその“ポストモダンの建築言語”(注3)に紹介したPruitt-Igoe 団地の物語など枚挙に暇がない。また建築におけるこのような作品主義的発想がもたらす科学性の欠如は、RapoportやSanoff等からも繰り返し鋭く糾弾され続けてきた(注4)。

Rapoport は、例えば、世界を救う第１段階として建築教育からデザインステューディォを一掃し、建築家の消滅が早ければ早いほど良いと言い、Sanoff は、建築家の設計経験が科学的蓄積の全く効かない毎回最初からのやり直しに過ぎないと言う。

彼らの主張が直ちに妥当とは言えないとしても、建築界において未だに作品主義の動向が止まないのは極めて不幸なことと言わねばならない。それは明らかに、造られたスター建築家システムによる一種の消耗品としての「建築作品」を良しとする虚構であり、それを暗黙裡に作りだし受け入れている我々建築大衆の責任である。

次に、構想や企画の段階から実現に至るまで、さらには維持管理や運営に関わる長い年月の推移において、市民による決定の実態を初め各種の委員会や審議会や議会等を含めて、どのような組織がどのような手順で何を決定し実行しているか等の諸側面について検討されるべきであろう。このような諸側面には、地方自治・財政制度を初めとする無数の矛盾や問題があると考えられ、それらを等閑にしたままの建築論議には意義がない。

都市整備局とは、大阪市という組織の中でどのような役割を担って何をするところなのか、局内の組織・人員や仕事の仕組み等も、不明にして何も知らない。また本誌に紹介掲載が予定されている建築物も殆ど知らない。編集子には、自ら調査に行く努力をすべきであるとの前提がお有りかも知れないが、その意義を私は感じない。建てられている建築物が見るに値しない等という不遜なことを言うのでは決してなく、それらは重要かつ有意義な社会的資産として永く市民生活の場として生かされ続けて行くであろう（ことを願っている）が、内外の姿形を眺めるような見方しか出来ないとすれば、俗流八卦と同じく、殆ど意味がないと考えるからである。都市整備局はその名称からして、建築物やまして建築作品を作るのではなく、市民生活の仕組みやその豊かさの向上を志していると考えるならば、例えば、「図書館」を建てるのではなく、市民の情報への欲求をどのように解き放ち満たしていくか、その中で在来図書館と呼ばれて

きているものを今後はどのように位置づけ整備して行くか、おそらくは真剣に検討されたであろうそのような経緯と運営の現況等を知らないままには論議はできない。

もっとも、いくつかの建築物の中には、ただ部外者として訪れ眺めるだけでも、その場を立ち去り難く感動した経験がない訳ではない。しかし、その体験が恣意ではなく他の多くの人々も同様の感興を覚える保証はない。今、千里の樹々の紅葉が美しく感じられ、樹種を選び配置を決めたデザイナーに深く感謝し敬意を表したいが、樹々の紅葉という自然自体のもたらす例えばこのような美的感動は、一定の範囲においては、誰にでも、また時代や地域を越えた、普遍的な共通の感覚であると言えよう。骨董の目利きは「良い」ものを見続けることで養われるとか聞く。人々の作る建築は、例えそれが「良い」建築であるとしても、特定の文化と固有の環境を超えた普遍性を持ち得るのであろうか。

以上のような問題における特に今日的な課題として、公共建築の計画・設計における目標価値の決定のあり方、ならびに、いわゆるＰＯＥやＦＭ等による建築物の利用実態把握と改善方策の必要性が挙げられよう。

前者について付言すれば、あらゆる行為とものと人とが錯綜し、かつ激しく変化し続ける今日の状況において、さらにまた、人間と環境との不断のトランザクションにおける人間の働きと環境の総体性が重視されつつある中で、建築が持つべき（持ちたい・持っている）価値とは何か、それを一体我々はどのように定め得るか、が問われている。ポストモダニズム論議はあったものの、今猶我々の発想も思考も、基本的には近代主義の呪縛から抜け出せず、不透明で不確実に思われている世界に向かう方途を見出せないで居る。このような事態において、未来に向かって投企する行為としての設計計画の論理と可能性を我々は探し求めている(注5)。さらに、公共建築を考えるとき特に留意される公共性について、それはいうまでもなく我々市民のすべてに開かれていることであるにもかかわらず、日本では、公がオオヤケと読まれて天皇を含意する不幸から、また近代市民革命不在ゆえの市民性の欠如ないしは未成熟から、オカミとの混在のまま、未だpublicということの真意を知らないと言われて久しい。

後者については、最近の新しい建築物のみではなく既存の古い建築物（群）が今までどのように地域の人々の生活に関わり、生活の向上に寄与してきたか、あるいは寄与できなかったか、そのような視点で分析することが望まれる。これは、すまい方調査・使われ方研究等公共建築を中心に展開されてきた建築計画学を主とする諸分野が果たしていた筈の役割であり、今更ながらの指摘とすれば、明らかに建築学界の努力不足であり、歴史学や社会学的視点等とも結合した研究の展開が望まれる。また、資源・エネルギー・環境汚染等々地球環境に関わる長期的かつグローバルな観点からの検討が求められていることは多言を要しない。

最後に、日本建築協会は、日本の建築界に数多ある各種団体の中でも社会的／歴史的存在感の、言うまでもなく最も強い在野の団体である。その機関誌「建築と社会」の特集号において、相変わらず「作品紹介」が行われ続けていることに私は懐疑の念を抱く。大阪市をはじめ多くの公共団体の様々な公共建築は、市民生活の向上を願う関係者の輻輳した協力によって極めて入念に作られようとしているに違いない。それにもかかわらず、それらを「作品」などと呼んで貶める愚を犯すべきではなく、むしろ、市民や関係者等のこのような真摯な努力や願いを疎外する状況を摘出し、それらの解決への方向を検討することこそが、「建築と社会」誌に期待されるところである。

（ふなはし　くにお）

（注１）Brent Brolin, The Failure of Modern Architecture, Van Nostrand Reinhold Company, 1976.
（注２）ピーター・ブレイク、近代建築の失敗、ＳＤ選書150、鹿島出版会、1979.
（注３）チャールズ・ジェンクス、ポストモダニズムの建築言語、A+U、1978.10.臨時増刊号
（注４）舟橋國男、「設計教育」の科学性、建築雑誌、109巻1362号、p.31, 1994.9.にも簡単に紹介しているのでご参照いただければ幸いである。
（注５）舟橋國男、設計計画を巡って、建築の研究、124号、pp.1-3, 1997.12.

なにもない町の、なくてはならない公共建築

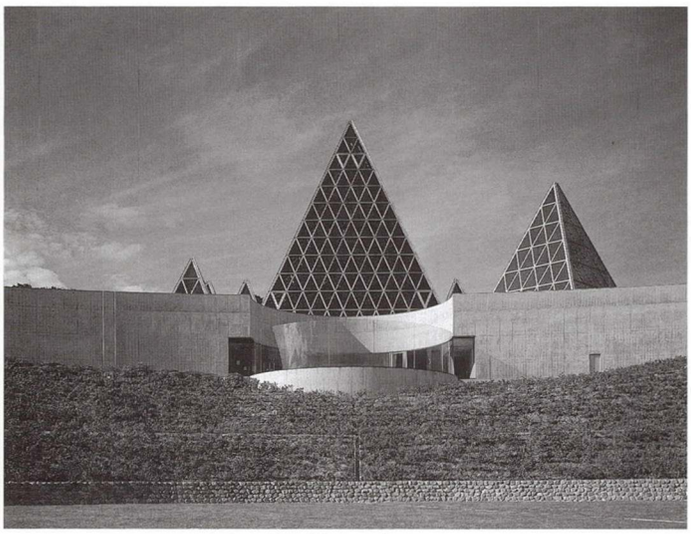
髙松　伸
建築家・京都大学教授

庁舎、ホール、美術館、学校などなど、通常のビルディングタイプの種別から判断しても様々な種類の公共建築があります。なおかつ、そのような形式的な枠組みも、時代の変化に伴う社会的なニーズの変動によってその都度問い直すことを余儀なくされており、事実昨今では生涯学習センターやマルチメディアセンターなどの横断的なタイプや、従来の枠組みを大きく逸脱する施設が実際に陸続と建設されつつあるのが現状です。加えて当然のことながら、実施母体即ち行政サイドのスタンスや市民参加の在り方も大きく変動を迫られています。煎じ詰めるならば、公共建築はもはやそのひとつひとつが全く異なる特殊な条件下において、特殊な与件に即応しつつその都度個別に論じざるを得ない状況に突入しており、これを一般化して言及するには少なからず困難と危険が伴うであろうことは想像に難くありません。

かかる視点に基づき、本稿では私の数少ない経験の中から極めて特殊な小さな事例を繙き、その構想から完成までの過程を振り返ることによって、公共建築の可能性のひとつに言及してみたいと考えます。その名も「サンドミュージアム」。誰も知らない小さな過疎の地の、誰も知らない小さな美術館の事例です。

10年前、全長200キロメートルの細長い島根県のほぼ中央、出雲市と浜田市の中間に位置する半農半漁の町、邇摩郡仁摩町に元朝日新聞社会部記者の新町長が誕生しました。着任したその町長は、少子化と高齢化が加速的に進行しつつあるふるさとの窮状を前に、かつて日本海漁業により隆盛を誇った町の再生を期して日夜苦悩すること数年。半ば唐突に「サンドミュージアム」なる奇想を打ち出しました。町には、広汎な日本海海浜汚染によって既に全国で３ヶ所を残すのみとなった「鳴き砂の浜」が古くから町民に親しまれています。大方の「町おこし」の例に洩れず、いわゆる「ネタ」探しに血眼になった俄町長、悲嘆の余りうなだれた足下に、なんとその美しい砂浜が横たわっていたというあたりが着想の発端であったとのこと。皮肉というか逆説というか、これは「なにも無い」という圧倒的な認識こそがもたらした僥倖と言わざるを得ません。ともあれ町民にとって「砂即サンドミュージアム」などという牽強付会以外のなにものでもない唐突なる着想は、文字通り晴天の霹靂。当然のことながら、かかる非論理的アイデアを前に議論百出、反論噴出。しかるに「霹靂こそ力なり」との町長の逆説的信念は微動だにせず。ところでここで「サンドミュージアム」そのものについて少々。これが実に単なる「砂の美術館」ではありません。読んで字の如くそのままに「砂」を陳列に及ぶ愚行に走るならばこれこそまさに砂上の楼閣。ここが跳躍思考をものする新町長の真骨頂。極微粒子の砂で世界一の一年計砂時計を製作し、その砂時計をもって起死回生の本塁打を狙おうとの代物。なおかつ当初は一年計ならぬ百年計、つまり一生計を思い詰めたというからして、その事実無根的思考たるや追随を許さぬものがあった由。加えて当時の竹下内閣（ちなみに当の竹下氏も島根県出身）が唐突に打ち出したところの、これもまた非論理的施策の極めつきとも言える件の「ふるさと創生一億円」即ち全国津々浦々への国家的大盤振る舞いが、かかる異業の火に油を注ぐことにもなった由。ともあれ町長は、我々の作成した模型とCGを懐に忍ばせ、本来全く必要性の無い代物の絶対的必要性につき、驚愕する町民を説伏すべく、昼夜兼行の行を敢行されたとのこと。その甲斐あってか、轟々の非難の嵐もいつしか全町民挙げての怒涛の如き建設推進へと変じ、誰も知らない小さな町に、誰も知らない小さな美術館がその産声を上げたという次第です。開館後８年、来館者は引きも切らず、今やその数110万人に昇る盛況。ちなみに二週間ごとに町民とほぼ同数の人々がこの地を訪れた計算になります。なおかつその機能もまた、いつしか今や本来の姿を大きく逸脱し、町民主催の「クラシックコンサート」や「結婚式」、盆踊り大会や花火大会、果てはボランティア活動で収集した廃ビンを原料に、ガラス工芸大会まで飛び出して、もはや美術館というなまじのビルディングタイプなど全く用をなさない始末。公共建築に携わる設計者の金科玉条「プログラムの正確な完遂」などあったものではありません。つまりは我々の予知予測はもとより、町長自身の思惑さえ大きく裏切って、今や小さな美術館がほとんど名付けようもない公共建築へと変貌を遂げ、かつまた疑心暗鬼などどこ吹く風の活況を呈しているという次第。有り態に申し上げるならば、かかる事態は建設というよりもはや運動、いやいや激動という以外にありません。

ところであらゆる現象には科学的根拠が存在する…と信じざるを得ないのが技術者たる我々の宿命と愚昧。であるからして、かかる



サンドミュージアム　撮影：小林俊之

不測の運動の起因するところを敢えて問うならば、それはただ一点、やはりかの「非論理的思考」なる非科学的根拠に行き着かざるを得ません。なおかつその非論理性たるや、町長自身の非論理性はもとより、かかる個人的非論理的思考に輪をかけた非論理的竹下内閣と町民の非論理的変節による壮大な非論理性の塊、いわば連鎖的な非論理性の結果であると言わざるを得ません。つまりは全く脈絡を欠いた超科学的思考の半ば偶然の連鎖が、かくの如き結果に収斂したということのなのです、しかしながら、果たしてこのような連鎖的非論理性が動因であるところの事態を、一概に巧まざる僥倖と言い捨ててしまうことが可能でしょうか。およそ不測の連続ではあったにしろ、かかるダイナミックな運動の達成を、偶然のたまものであると断言してしまうことが可能でしょうか。その脈動のただ中で呼吸をした者として、私はその点に大きな抵抗を覚えざるを得ないと同時に、かくの如きダイナミズムこそ、件の複雑系の創発的秩序そのものの具現であると考えてみたい誘惑にかられます。ともあれ、なにも無いという苛烈な認識を契機として、およそ公共的とは言えぬ私的な思考回路の幾つかを経由し、非現実的なプロセスを経て、しかしながら小さな町に現実に小さな建築が誕生し、そして今もまだ日本海の荒波の傍らで連綿とその不測の生命を紡いでいます。もとよりこの事例は至極特殊なものでしょう。しかしながら、この建築もまたれっきとした公共建築であるという事実が我々に語りかけている小さな声に、できるならば耳を傾けていただきたいと思うのです。多少自画自賛気味ながら、おそらくそこには、これまでの公共建築建設プロセスの妥当性には抵触しつつも、その在り方を巡る新たな思考のあり様の契機が潜んでいるように思えてなりません。ところで、かくの如き特異な症例には伝播性、否、伝染性があるのでしょうか。

あろうことか、時を経ずして私達はほとんど同様の臨床を体験することになりました。すっかり疲労困憊の私達にとってはかろうじて有り難いことに、そのプロジェクトもまた、仁摩町に負けず劣らず小さな漁村からの依頼でした。鳥取県との県境に近い辺境の漁師町・美保関町に、なんとある日突然「隕石」が飛来したのがその発端です。もはや読者諸兄のお察しの通り、町はこの小さな漬物石ほどの奇跡に即座に飛びつき、仁摩町に追いつき追い越せとばかりに「隕石（メテオ）・ミュージアム」なるものを考案し、当然の如く（？）私達に白羽の矢が飛んできたという次第です。そうしてまたもや全面的な非論理的思考の怒涛の如き連鎖を巡り巡って、誰も知らない小さな町に、誰も知らない小さな公共建築がこうしてまたひとつ誕生したという次第です。そしてその後数年、この伝染性の症例は、病根の確定などどこ吹く風とばかりに、山陰のいたるところに飛び火し、その幾つかの発症に、私達はまるで救急医の如く馳せ参じることになりました。なおかつ実に恐ろしいことに、その都度我々は全く無為無策の態。いや、無為無策こそが策であると開き直っての出動。果たしてその数12棟、小さな誰も知らない公共建築達が、時にひっそりとかろうじてその本来的な役目を果たしつつ、時に思いもかけぬ試練にその使命をすっかり忘れ、それでもまがりなりにも小さな町々の中で細々と生命を紡ぐのを見る限り、およそ常識的な公共建築にとっては無理無態のなにものでもないにしても、ある意味では無策こそその実最も巧妙な策略ではなかったかもしれぬとも思うのです。

あらかじめなにひとつ持たず、あらかじめなにひとつ思わず、触れ合う人々の思考の流れとそのふつつかなジャンプにただただ身を任せ、荒唐無稽な与太話に進んで乱入し、まるでアクシデントの連続の如き出来事に好んで身を投じ、それでも突発事故ならではの奇想天外の煌めきを決して見過ごさぬ、まるで宮沢賢治の如き働きが、夢もなく、希望もなく、目的もなく、理由もなく、そして人もなく、あらゆる既成の治療が全く役にも立たない見捨てられた小さな町に、それでも「なくてはならない建築」を創るための、ひょっとしたら唯一の方法であったかもしれないと今は思うのです。

それぞれが全く孤独の中に佇んでいました。それぞれがそのよるべさの中で独白をつぶやいていました。そんな建築達も、今、日本海の鉛色の海岸に沿って、ほぼ30キロメートルの間隔で連なり始めています。手と手を結び始めています。建築家である限り、そのあわいにまたひとつまたひとつと新たな建築を象嵌し、その手と手の連なりをより一層堅く結び合わせてみたいと誘惑にかられてもいます。しかしそれはもはや私の仕事ではないのかもしれません。ともあれ、かつては孤独をこそ霽（ひさ）ぐ以外にはなかった建築達も、まるで「点景」の如き建築達も、もはや決して孤独ではありません。私はその「点景」のか細い連なりを、今、「線景」と呼び始めています。たとえ限りなくかすかであろうと、たとえ限りなく小さくあろうと、決して孤独ではないという認識が、なにもない辺境にいつかは夢や希望を育むであろうという想いが、いまこそ私には確実にあります。公共建築、それは「孤独ではない」ということを知るための空間です。そしてそれは私達が、思考する力と想像力以外のなにものをも有しないという極く極く当たり前の、しかし極めて苛烈な認識から生まれるのではないでしょうか。

（たかまつ　しん）

「Lonesome No More」…カート・ヴォネガットによるマクガヴァン大統領候補の選挙用キャンペーン

ハードとソフトの間

林　信夫
21世紀ディレクターズ・ユニオン代表

最近、わたし自身の仕事として、大阪市関係のプロジェクトでハードのからんだモノといえば二つほどある。ひとつは1997年７月にオープンした子供のための体験型博物館「キッズプラザ大阪」であり、もうひとつはまだ計画段階であるが、中之島の阪大跡地に構想されている三つの劇場コンプレックス「(仮称)舞台芸術総合センター」である。いずれもプロデューサーとして、ソフトの提案と実施を先行させるなかでハードの与件を確定させていくという手法をとっている。

当たり前のような手法ではあるが、これはこれで語るべきことは多い。まずソフトを構築していく立場からいえば、施設の目的、目的を実現するために必要な予算、組織体制、演出計画、オープンまで及び最低オープン一年後までのスケジュール計画を事前に立てておく必要がある。平たくいえば、プロジェクトのイノチ、カネ、ヒト、イロ、ジカンを総合的に編んでゆく仕事である。仕事自体の受け方としてはいろいろあるが、ソフトに責任をもつ立場からいえば、設計・建築サイドと違い竣工式をむかえて無事一件落着とはいかないのが気分的にはつらいところである。むしろ、事前に立てた計画が有効であり、意味をもっているかどうか試されるのは竣工式以後であり、現実に対応してさまざまな補助線を引き直す作業がそれからまた積み重ねられる。

ソフトの提案を先行させると書いたが、たとえば劇場オープンの半年前に泥縄でプロデューサーを決めてあとはよろしく、などという無責任な自治体も現にあることから、これは必要な手法であると考えている。いやしくも劇場を建設するなら、まずどのような演目を中心にすえようと考えているのか、それは専用劇場なのか、多目的劇場なのか、その立地と中心的な演目からいって適切な観客席構造・観客数はいくらなのか、演目を舞台化するのに必要な演出機構・機材のボリュームと性能はどの程度か、それらの基本的な方向を定めたうえでの実施計画の策定であり基本設計の作業であるはずである。

最近もある自治体から、郊外都市に1500人キャパシティのホールをつくるがどうしたらいいか、というこちらとしては絶句する相談があった。どんな演目を中心にすえるかというソフトプランはいまだないのに、立地、キャパシティ、客席機構・構造は逆にすべて決まっているのである。無茶な話である。同時にどんな設計企業がこのプロジェクトに関与しているのか知らないが、図面を見ると機構・設備面で明らかに過剰なプランになっており、その姿勢には不愉快な思いがした。現状におけるハードがからんだソフトプロデュースの仕事は、極端にいえば多くの場合素人である発注者と、玄人であることで予算的にも嵩にかかってくる建築系業者との間にあって、コンセプトおよび経費効率を守り磨く戦いであり、同時に限られた時間のなかでの調整作業であるといえる。

キッズプラザ大阪は、大阪市の土地信託事業として開発された扇町のビルのなかに、1997年７月に開設された。オープンの２年以上前から、事務局である大阪市教育振興公社がPD（プロデューサー・ディレクター）会議を設定し、継続して館基本コンセプト、展示演出計画、運営計画、ボランティア計画などを論議、検討してきた。基本出席メンバーはプロデューサーとしてわたし、ディレクターには宮本大阪芸大助教授、それに全体の製作物を統括している大広スタッフおよび事務局メンバーであった。オープン１年前からは、ジカンとカネの限界がリアルに見えてくるなかで、週２、３回のかなりハードな会議の連続であったが、そんななかで「体験型こども博物館」という基本コンセプトが明確になってきたのである。

このコンセプトを見出すについては、宮本と二人で視察してきた先進的な海外子供文化施設がたいへん参考になった。ボストンのチルドレンズ・ミュージアム、パリのラ・ヴィレット、フランクフルトのキンダー・ミュージアムなどであるが、そのかなでも、オープンいらい76年の歴史をもつボストンのチルドレンズミュージアムで教えてもらった標語は、決定的な影響を我々に与えた。

「聞いただけでは忘れてしまう。見ていれば覚えていることはできる。体験すれば理解できる」キッズプラザをつくるにあたって、むしろ学校関係者のほうから学校教育の延長でないものを、といわれてきた我々にとってこの言葉のインパクトは強かった。知識を詰め込むことで教育の中身としてきた日本の学校現場とは違って、このミュージアムでは徹底して子供たちを遊ばせ体験させていた。海運倉庫を改造した2620㎡の展示スペースに、モノの遠心力・慣性・重力などをボールを転がすことで理解させる「レースウェイ」、実物大の二階建ての家そのものを枠組みだけ残してすべて裸にして、普通は見ることができない家の仕組み、また家につながる下水道・上水道など都市インフラの仕組みを理解させる「シティスライス」など、手を触れ、体を動かすことで初めて面白さがわかる展示物が目白押しであった。

体験型博物館、言葉を変えていえばIn Learning By Doingの基本コンセプトがしっかりとハードとしての製作物におとされていたのである。ボストンを中心的に参考にしながら、スタッフとともに練りあげたキッズプラザの実施計画、実施設計は、1997年7月10日のオープンから1998年3月31日までのあいだに、有料入館者478,056人を迎えることで、立ち上げ時の成功はかち取ることができたのである。

舞台芸術総合センタープロジェクトは、完成予定が21世紀初頭とまだ先のことではるが、磯村大阪市長よりハード建設に備えて、まずソフトを積み重ねるようにとの指示があったことから、「創造のための劇場Creative Force」として1995年から毎年プレ事業を積み重ねてきた。このプレ事業では、ソフトを積み重ねる手法として95年は国際シンポジウムとワークショップ、96年から98年まではワークショップのみという形式で、優れた舞台芸術家とその卵たち、そして観客をつなぐ形で実施してきた。

芸術家として招聘したのは坂東玉三郎、ディック・リー、ジム・クラーク、宮本亜門、野田秀樹、デヴィッド・ルヴォー、市川猿之助、そして大阪を中心とした若手劇団である遊気舎、惑星ピスタチオ、劇団☆新感線の諸氏であった。この間9回のワークショップに全国から応募した若い人たちは3000名以上、難関を突破してオーディションに合格、それぞれのワークショップに参加した人は243名を数える。

特に、今年の「市川猿之助歌舞伎ワークショップ」では会場として道頓堀中座を使用し、その会期の3日間とも客席に一般客を招待、ワークショップ参加者36名だけではなく、一般客総数2400名にも歌舞伎という古典芸能のもつ面白さと、その理解を助ける約束事を実演で見てもらうことができた。この時の模様はNHK・BSで12月に連続5日間延べ10時間にわたって放送されたのであるが、これほどの精度でこのワークショップが成立した裏には、なによりも歌舞伎を、今に生きる芸能として「瑞々しいエネルギーの燃え上がり」であるとする、市川猿之助さんの熱い情熱があったということをいっておかねばならない。

このように世界の、日本の舞台で現に活躍している芸術家を、まだ見ぬ劇場「(仮称)舞台芸術総合センター」の名のもとに招聘し、なおかつ出演という一過性のみにとどめず、基本計画委員会小松左京委員長の私的アドバイザーという立場で、舞台に立つ側からハード面にもアドバイスをもらうという構造もつくっている。また人材育成という視点ももつワークショップに参加した若い芸術家の卵たちには、21世紀の劇場の舞台で再び会おうと呼びかけている。このようなソフトの積み重ねのなかから、世界に発信できうる大阪の舞台芸術の殿堂をハードとしても構築していきたいと考えている。

常にソフトを充分に先行させて、という自分自身の考え方と手法の一端をいままで述べてきたが、ハードプロジェクトを進めるにあたって社会システムとして脆弱であるのは、実はハード側ではなくソフト側にあることは認めざるをえない。一言でいえば、日本の総合大学また芸術系大学においても、建築学科はあっても特に国立大においてはソフトを構築・検証すべきアートマネジメントの単独学科はいまだ存在しないということである。先進諸国、アメリカやヨーロッパの大学にはこの学科が存在し、社会にとって基本的に必要な学問として認知されているにもかかわらず、日本では紛う事なき社会の必要性がありながらも片隅に追いやられているのが現状である。

最近ではさすがに一部の芸術系私学において学科創設の動きはあるが、まだまだボリュームとしては小さいし、本屋にならぶソフトプロデュース、アートマネジメント系の本も多くは個人の奮闘記であり、これからソフトの仕事を目指す人にとって勇気づけにはなっても、その全体像を示すものにはなっていない。いずれにしてもアートマネジメントは文化を仕事の対象として扱う性格から、緻密な流通・消費者等のデータ、深い教養、そして時代を読みとる直感が本来必要なジャンルであり、一定の大学教育のなかでこれらの能力を持ち得た人材の登場は、より良きハードプランをつくる上において建築系にとっても幸せなことといえるだろう。

現在、委員会副座長として、大阪市が新大阪に建設を計画している「(仮称)青少年文化創造ステーション」を論議している。音楽をキーワードに施設全体を編んでいこうとしているが、少なくとも従来の青少年施設にありがちな、目的は崇高でも大人管理、行政的管理による施設の自然死だけは避けたいと思っている。若い連中の大好きな音楽を通した、自育力の向上がソフトとして内在し、ハードがそれを支えてくれればと願っている。　(はやし　のぶお)

44 小林政一

being

being

手作り解体業

古民家再生普及会&古木屋





小林の住む昭和村は、福島県の南西部にある。昭和天皇即位を機に2ヶ村が合併し昭和村と称する。本州の真ん中にあり、東京からは鉄路でまず3時間余、さらに最寄り鉄道駅から車で30分かかる。文字どうりの山の中。そこに小林は北海道生まれの美人妻と3人の子供と共に、ペンションを営む。その名も古民家ペンション「美女峠」。130年前に建てられたという小林の生家を解体、建て替えたものである。「美女峠」の名前は近くにある実在の美女峠に由来している。小林が古民家の解体に興味を持ち、今では毎年4～5棟の古民家解体を請け負うようになったきっかけは、10年前にはじめたこのペンションづくりからであった。

生い立ちの記

茅葺きの屋根のした、炉があって火が燃えていた。雪に閉ざされた冬は、ばぁさまの昔話を聞いて育った。春や秋には爺さまと山に入った。人間は身の回りの文化を吸収して大きくなって行く。それが悪しきものであれ、懐しいものであれ。小林にとっては、それが古き善き知恵の集積であった。昔話は、地方文化の結晶であり、知恵の宝庫である。山には、ぶな、なら、みずなら、白樺、楓、色々な木が、自然のままに生え、倒れ、動物と人がそれぞれに知恵を出しあって生きていた。爺さまは、こんな風に、ぶなの倒木にはかのした（ぶなはりたけ）が生え、大きな松林の陽当たりの良いところに松茸が、舞茸はこのようにと、理屈を教えてくれた。決して自分のおいは（狩場）を教えはしない。父も子に教えることはないという。山は自分だけの山であり、みんなの山なのである。自分のおいはを作ることが、みんなの山を作ることになる。

小学校時代に写真を覚えた小林少年は、自然を撮り、あちらこちらの年寄の話を聞いてまわった。柳田国男に教えられるまでもなく、東北地方には昔話が詰まっている。高校時代には、本格的に民話の採集を始めた。高校を終え、上京した小林は、写真専門学校を出ると、フリーターをしながら、方々に民話を訪ねて歩く。民話採集をされる諸先生との交流も始まる。それらは後年、「奥会津のざっと昔」「消えゆくからむし」「東白川郡のざっと昔」「まさいちのむがし」等といった、本人や仲間、同僚研究者の著作となり、小林の主宰する「ふるさと企画」の本として10数冊が出版されている。

古民家解体のこと

このところ古民家再生をよく耳にする。倉敷には古民家再生工房というグループもあり、その作品は高く評価されている。京都や奈良をはじめ、あちこちに古材バンクと呼ばれる組織ができた。ヨーロッパの古い家に住まう伝統が見直されてきた。若者が集う街角には、アンティークショップが若者によって運営されている。経済的破綻が、逆に良い効果も生んでいるのではないか。

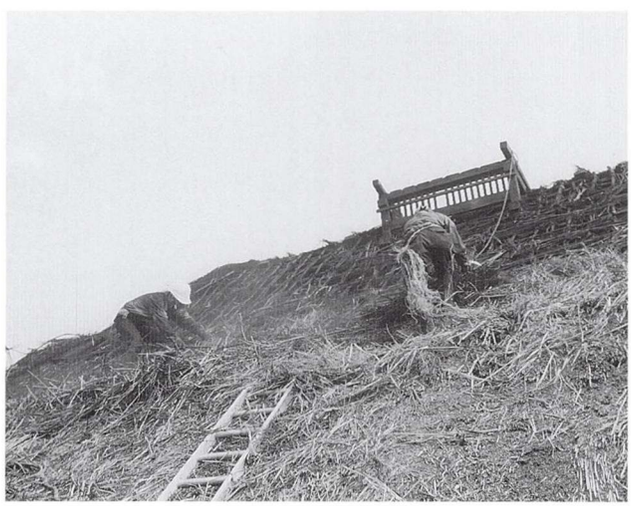
小林は昨年から古民家解体の学校を始めた。今年3月には、第3回が10日間の予定で開校される。40～50坪の古民家を解体するのに、おおよそ10日から2週間かかる。解体に興味をもつ人や好きな人が集まってくれてボランティアでやってきたが、なかなか暖簾わけを希望してくれる人がいないのが残念で、いよいよ後継者探しを積極的に展開することにした。過去2回の学校はなかなかの好評で、15名程度が集まってくれた。解体現地に合宿が原則であるから、その





世話も大変だが校長の責務として覚悟している。古い民家は釘が使われていないことが多い。複雑な組み手であっても外せないことはない。慣れるにしたがって、外し方は自ずから判るようになるという。小林も最初は大工さんに習いながら解体した。今では見て、触れて、あげくにしがみつけば、木のほうから外し方を教えてくれるような気がするという。百年の間、囲炉裏の煙で燻蒸された材木や竹は実に丈夫である。茅葺きは、囲炉裏に火が消えて、いたみが早くなった。一軒解体すれば百の知恵を授かる。解体を頼まれて、古い家を見に行くと、その場で解体をシミュレーションする。最後の木栓を抜いた鴨居や梁が抜けて、一本だけ残った柱をレッカーで吊り上げ、完了、皆の歓声が聞こえる、これがあるからやめられない。昔の知恵はすごいと、つくづく思う。昔の民家は、使う材木を乾燥させることなどなかった。元山と呼ばれる樵兼材木仕立業とでも呼ぶ男が、山に生えた木を見て、長さ・断面を決め、木を伐り、ヨキで丸太を荒削りする、それを山から曳きずり降ろす。それを大工が番付して、ちょうなで仕上げ、建て方する。生木だから乾燥すれば歪む、縮む、それらを予測するのが元山と大工の息のあった仕事だ。木組はそうした不測の変形に融通を効かす。釘やボルトにはない知恵の発露である。今でも大火事があれば山から伐ったばかりの木を使って家を建てなければならないこともあろう、しかし今では元山や大工の知恵はもう無い。文明は進化し、古い技術は新しい技術や材料にとって替られる。けれど、文化は継承されなければならないと思う。小林は、身を以てそれを実行している数少ない爽快な男だと思う。

(インタビュー：北村恭一)



小林政一（こばやしまさいち）

1952年、福島県大沼郡昭和村に生まれる。県立喜多方高校を卒業後、上京し東京綜合写真専門学校で学ぶ。17年間のフリーアルバイター暮しの後、1988年昭和村にUターンし、実家を解体移築しペンションを経営。

個人出版社ふるさと企画代表、フリーカメラマン、古民家再生普及会主宰、會津古木屋代表

現住所／福島県大沼郡昭和村大字野尻字東2

TEL0241-57-2870(ペンション美女峠)



[座談会]

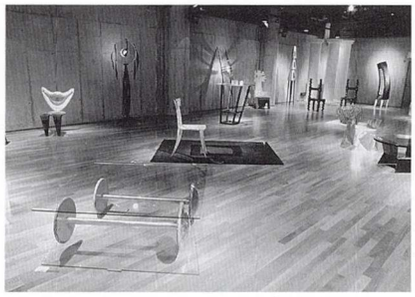
Welcoming

ヴィジュアル関係者に聞く
―建築とデザイン―

――自己紹介及び今の仕事の内容は。

松原　商業施設を中心に設計活動を行っている㈱インフィクスからインテリアコーディネート部門を独立させた㈲インで飲食店を中心にコンセプト作りから家具・装飾・テーブルウェア・ユニフォームまでトータルコーディネートの仕事をしています。13～14年前からインフィクスのデザイナーと一緒に仕事をする中で仕事の幅が広がり、単にインテリアだけではなく、このロケーションには何が必要か、時代に応じたものは何か―を探るなどオーナーとともにコンセプト作りに関わるところから始めています。でも基本にあるのは、同世代を代表する自分たちの目線。人が集まってこんな風に楽しめるこんな環境があればいいな、というのが基本の考え方でものづくりをしてきました。それはほとんど“感覚的”といってもいいと思います。私たちのオフィスも南船場にあるのですが、ここも以前から気になっていた場所でした。飽和状態で騒々しいアメリカ村から離れて町の勢いが感じとれる町で仕事をして行きたいと思っていたのですが、至近距離にありながら昔の商業のニオイが感じとれる南船場の町が感覚に響いたのです。当時はぽつぽつジーンズ屋が開店したり、という状況でしたが、南船場で新しく開業したいという人の相談も受けるようになったり、その頃から町がどんどん賑わいだしたのです。インフィクスで、アウトドアクッキングレストランや美容室とカフェが合体したショップなどを手がけたのですが、町のあり方が見えるような店づくり、町のコアとなる空間を作りたいと思っています。

大島　ヴィジュアルコーディネーターという肩書きです。もともと大手のディスプレイの会社に入社したのですが、大阪にはデコレート室がなく、プロのデコレーターのアシスタントとして勉強を開始したのが20年前のことです。当時は、洋服が宙に浮いていたり、というような突飛で派手で話題性のあるウィンドウディスプレイが受けている時代でした。そのためのテクニックを中心に現場経験を重ねたのですが、その後独立してやっていくうちにテクニックだけに頼る仕事のやり方に疑問を感じるようになったのです。もっとクリエイティブな仕事をしたいと思い、それまでのクライアントを知人に引き継ぐなど１年間の準備期間の後、ニューヨークに留学しました。以前訪れた都市の中で最も気に入った所だったこともあります。それ以上に、ディスプレイを志す者にとっては80年代半ばから後半のニューヨークは最もエキサイティングな都市でした。語学留学でスタートをきり、F.I.T（ファッション工科大学）とパーソンズの２つの大学で履修。教授でもあったディスプレイアーチストからもアルバイトの仕事を依頼されるなど、同期生にうらやましがられるような貴重な体験を重ねました。競争社会の先端をいくニューヨークでは当時すでにV.M.D（ヴィジュアルマーチャンダイジング）というシステムが確立されており、物の見せ方、売り方のディスプレイの基本的な考え方としてエモーショナル、つまり胸にグッとくるディスプレイが行われており、(日本の場合はカタチから入るのでエモーショナルとはなかなか言い難いのですが) ２年間でエモーショナルビジュアルマーチャンダイジングを実践的に勉強できたのです。日本へ戻ってからは、百貨店などのクライアントがディスプレイというビジュアルを通してより良いコミュニケーションを果たせるような方向へ仕事を広げています。具体的には、年間コンセプトが提示される会議に出席するところから始まり、シーズンテーマ、オケージョナルテーマの設定、ウィンドウディスプレイ、最終フィニッシュまで関わります。また最近は、社員が自分たちで売れるシステム、物のスタイリング、オペレーションなどを実践できるように育てていく企業教育なども行っています。



NY,「ファンクショナルアート展」より（大島氏）

――共通して流行の最先端と接しておられますが、現代のキーワードもしくはお仕事をする上でのキーワードは何でしょうか。

松原　オランダのドローグデザイン、これはデザイナーのコンセプトが非常に明確に表現された家具やプロダクトのコレクションで今注目を集めているものですが、暫新な素材の扱い、また新しい素材への挑戦などの傾向が見られます。そのコレクションに作品を納めているデザイナー、リチャード・ハッテンの展覧会をこのほど私たちの事務所と併設したE&Yというショップとギャラリーで開催したのですが、アイデア性と強いコンセプトを秘めたデザインでありながら、人間的な優しさを感じるものでした。そんなデザインの新しい流れを感じつつも、現実には、シンプル・モダン・ナチュラル、この３つのキーワードが好きな人々が大半です。あとカジュアルというのもありますが…。でもこれらのキーワードが何を表すかを探るのが自分たちの仕事ですし、具現化する際の質感や存在感、まわりとのバランスを考えて表現することが大切です。奇をテラッたものを求めるのではなく、その時、その時、新鮮に感じる素材、ディ



大島厚子

VMD コーディネーター／㈲パラゴノイズ代表

1974年㈱乃村工藝社入社。２年後退社し、３年間のアシスタント後に独立。1986年渡米。ニューヨークで VMD を理論的に学びつつ、TOSHI STUDIO でエスティーローダ、ロエベ、MCM 等のディスプレイに携わる。1988年帰国後はウィンドウディスプレイにとどまらず、展示会等のディスプレイ、リゾート施設環境ビジュアル、VMD 教育、ニューヨーク VMD 視察研修ツアー企画、コンセプトショップの商品開発等、ビジュアルコミュニケーションデザインに関する幅広い活動を展開。阪急百貨店、ミキモトインターナショナル、ダーバン、アクアスキュータム、ワコール、キリンビール等を手掛ける。



松原眞由美

OFFICE IN 代表

1982年㈱ステュディオ　ダルチザン入社。ヨーロッパインポートウェアのバイイングと販売を担当。退社後、㈱ランドスケープディグリィを経て、㈱インフィクス入社。商業施設のコンセプトづくり、店内コーディネイトなどに携わる。1997年インフィクスより独立。インテリア空間におけるトータルコーディネイトオフィス、ＩＮを設立。翌年、南船場ラポビルにて、モダンファニチャーショップ「Ｅ＆Ｙ」、ジャパニーズティサロン「チャロン」の運営開始。

企画／会員企画小委員会
Director/MASAKO. TSUKAGUCHI
1998年11月26日　於本会会議室

W

テールに気を配ってということでしょうか。例えばラポビルでは、床のフローリングに足場板を塗装して使うなどということもしていますが、乾燥して時々ドーンと割れる音がする、反ってつまづくこともある、隙間にホコリが入る、でも場合によってはそれを支障と考えない、という私たちの感覚というのもあってよいと思います。

大島　ディスプレイはスクラップアンドビルドを繰り返す非常に短サイクルの仕事です。だからクイックリスポンス。クイックに感じとってクイックに答える、すばやくエキスを抽出するインスピレーションが求められます。年２回、クリスマス前と初夏の展示会のシーズンにニューヨークを訪れることにしていますが、新しい空気に常に触れておくことが大切だと思っています。エモーショナルなビジュアルコミュニケーションによって、見る人の心をグッとつかむ短期間のファンタジーを作り出す。そんなところが楽しい部分であり、何より映像や画像と違って実物を見たり触ったりできる世界を演出する魅力があります。もちろん、きっちり売れるシステム、集客効果も求められます。そんな面まで含めてキーワードはクイックリスポンスでしょうか。さらにニューヨークでは、大きい所から小さい所まで含めてクライアントが直接、御指名で各クリエイターに仕事を依頼する、クライアントがビジュアルコーディネーターを自分のクリエイティブブレーンとしてつかまえているといった状況があります。クリエイティブワークについて有名、無名を問わずきっちり評価してもらえるオープンなシステムが確立しているということですが、それだけに活躍の場が広がるわけです。

松原　それにつけてもまだまだ関西はローカルとつくづく思います。今回の展覧会の際にも、せっかくヨーロッパの中心で活躍している人が来ているのに質問する人がいない、交流の場をセッティングしても、いつも知り合い同士で集まっているだけ、という状況です。東京だとプレスもきっちりインタビューしますが、大阪では単にファッションや食べ物のように“お店ができました”紹介記事でしかない。同じ世代の人の思考やクリエイティビティの交流という視点での紹介がほとんどないのは残念なことです。



大阪・南船場にある「ラポ」ビルより（松原氏）

大島　私が一番影響を受けたニューヨークのディスプレイアーティストが言ったことですが、“ニューヨークにいると世界が見える、日本にいても世界は見えない”というのがあります。私は基本的に“体験型”。ニューヨーク以外にもアジアの国々など訪れて実際に生活を体験することで、抽出できるものがたくさんあります。そういう体験を仕事に反映させていくことで、クライアントには大島に依頼したメリットをきっちり感じてもらわなければいけないと考えています。

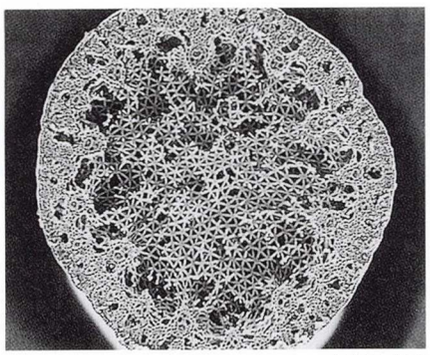
松原　体験ということで言えば、確かに音楽・ニオイ・気配・そこで話されること・時代の背景などすべてそこで“体験したこと”が人々の記憶になっていると思います。人がいて回遊し時を過ごす、ただ単に空間を作って整備するだけでなく、人がどう感じるかということですが、私たちがプロデュースし、自社もテナントとして入っているビルですが、デザインと生活が同じ線上にあるというか、オーナーとそこで活動する人々の生活スタイルが反映された場所なのです。これは大企業にはできない部分と自負しています。集合体としての環境に魅力のあるそんな背景づくりができればと思っています。

大島　そう、カチッとしたハコではなく、風や空気の流れを感じさせる、五感に訴えるような表現がもっとでてくるといいですね。

素材から環境へ

畑　正俊　安井建築設計事務所
Hata　Masatoshi

素材、技術の源流へのre-approachによって新たなる創造性に向かうことを企画するシリーズ第14回は「草」について考える。多種多様な材料が使われ、建築技術も複雑化する今日、古代より身近に存在し、人の生活を支えてきた自然素材について、その可能性を探ってみたい。
（「素材と技術が生み出すdesign」幹事会）


イグサの断面


軒付け作業中の茅葺屋根

身近な材料

人類は穴を掘り木の柱を組み、身近にあった草を葺いて、竪穴式住居をつくった。農耕社会の成立とともに、耐久性のあるすすきやよしなどの茅によって民家の屋根が葺かれはじめる。茅葺屋根は、断熱性、保温性、雨仕舞、通気性、吸音性を兼ねそなえ、現代のどんな屋根材でもこれらの性能をつくることは並大抵ではない。個性的で魅力ある草葺屋根の住宅は、ヨーロッパや東南アジアなど世界各地にも存在する。

畳は平安時代、貴族のベッドやイスのようなものとして歴史に登場する。肌に触れる畳表は、草の中でもずばぬけてすべすべした肌ざわりをもつイグサによってつくられ、畳床は、稲ワラを何重にも重ねあわせて、保温性、弾力性、復元力を高めている。16世紀の終わりごろには、京都地方で規格サイズの畳があらわれ、これを室に敷きつめるようになる。この規格サイズの畳の大きさが、住宅の寸法の基準となり、日本の住まいに大きな影響を与えて現在につながる。

民家に多く土壁がつかわれるのは江戸時代になってからである。それ以前は壁も屋根と同じく草葺であったようだ。土壁のスサとしてもワラを使う。粘土にワラを切り込んで水をはってねかせ、ワラを腐らせて肉質と繊維質を分離させる。肉質が腐って蛋白糊となり、ワラの細いやわらかい繊維にからんで乾燥し、土壁をより強いものにする。

日をよけるすだれには水に強いよしが使われている。また、農村に豊富にある稲ワラによって、なわや、わらじ、ふごなどの容れものとあらゆる生活用品がつくられた。このように身近に存在し、扱いやすい材料である草は、古くから住宅のあらゆる部分に使われ人々の生活を支えてきた。

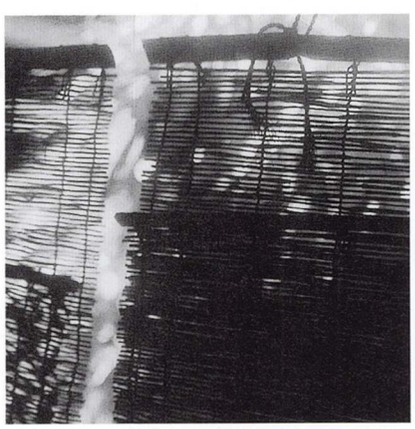
消え行く材料

茅葺屋根につかうすすきなどの茅は農村ごとに茅場とよばれる場所で栽培されていた。村ぐるみで茅を栽培、採集、運搬し、葺替作業も村人総出で短期間に一気におこなわれた。農村の村人同志の相互扶助があったからこそ、ほとんどお金をかけずに、つくり維持することのできた茅葺屋根も、それが得にくくなった今日、草と職人を遠方から買い求めねばならず、大変高価なものとなってしまった。また、建築基準法によって茅のような燃えやすい材料で屋根を葺くことは禁じられており、茅葺屋根は減ることはあっても増える見込みはない。

ワラ床の畳は、感触や丈夫さなどにすぐれている。ワラのかわりに、ポリスチレン樹脂と発泡材からなるポリスチレンフォームや、木材繊維を原料とするインシュレーションファイバーボードをつかう畳床を化学床と呼ぶ。最近では、化学床の畳が、軽くてダニの心配がないという利点から、年に約2万畳以上つくられている畳の約5～6割をしめている。

土壁はその工程が長びくこと、工程のほとんどを手作業に依存し、省力化できないこと、熟練技能者が得難くなったこと、材料の多くが天然産品でその品質にばらつきが多いことによりあまり姿を見なくなってきている。

このように自然素材である草は、社会の変化と新材料の登場により、その姿を消していこうとしている。


光を透かし風に揺れるすだれ



生命力

工業によって生産される材料を減らし、自然の材料を用いることは、化石燃料の使用を減らし、地球温暖化の防止に大きな意味をもつ。生命力が強く、成長の早い草を栽培、又は、草が自然に育つ環境を残してやり、それを建材として利用することは、二酸化炭素の吸収源をつくることにもなり、地球環境のケアに大きく貢献する。例えば近年繊維クロスや、ビニールクロスに、木材パルプや、ビニールのかわりに、一年草のケナフという草をつかったものも出始めている。ケナフは一番成長の早い時期には、1日で10cmものびる成長の早い、生命力の強い草である。

都会の人々はうるおいを求め、なんとか緑を身近におこうと懸命である。観葉植物を買い求め、休日にはゴルフにでかける。このように人の都合にあわせて飼い慣らされた緑で、自らをなぐさめようとしている。少し前まで都会の中にも、あちこちに原っぱがあった。子供達は、人によって整備された公園などよりも、原っぱで朝から夕方暗くなるまでこの街中の自然を相手に遊んだ。この原っぱのような自然を、屋根や屋上、また、地上のほんの少さな場所にも再現させたい。草屋根や、つたのはう壁、雑草が自由に育つオープンスペースなど、自然が街を占領し直す。人の意に反してでも、生え育つ生命力の強い雑草のような自然こそが、大自然の一端として人々に力を与えてくれるのかもしれない。



石垣を覆う草

「人と材料のかかわり」

畳は保温性、弾性、感触などにすぐれているが、非耐久、汚染、吸湿などの欠点をもっている。しかし、住む人が自ら手入れをすることで住まいへの愛着を感じ、また、畳表を取り替えることで、清新な気分も簡単に得られ、畳として半永久的に使用できる。少し前まで畳干しや、障子の張替は、一家の年中行事のようなものであった。

茅葺屋根は、10年～40年に一度の葺替が必要である。しかし、その耐用年限をのばすには、雨がしみこみ傷む表面の茅のみを取り替え手入れすることが大切で、これは住み手が自ら行ってきた。

自然の身近な材料である草は、非常にすぐれた性能をもつが、耐久性にとぼしく、住む人に日々の手間暇かけた手入れを要求する。現代人は忙しく、メンテナンスフリーの材料ばかりが尊ばれ、住まいの建設も手入れも分業化した専門家に任されている。また、生活はどんどん多様なものになり、建築技術や材料も多様化、複雑化し、素人の住み手には、いったいなにからできているのかよくわからない材料も多い。

草のように素人にもわかりやすい材料を用いることで、住み手は、その手入れを自ら行い、建物のなりたちとその材料の大切さ、すばらしさを認識することができる。このことは、少ない材料を有効に使い、自然と共存して生きていかなければならない我々にとって非常に大切なことである。また、住まいの建設にも、専門家の作業のみではなく、住み手が参加することができれば、より認識が深まるだろう。都市で強い生命力をもつ草などの自然を生活に取り入れ、共存していくには、かつての農村のような地縁、血縁で結ばれた共同体でなくても、仲間同志のワークショップや、共に住まうコミュニティのような、住み手を中心とした共同活動の形が必要である。環境をまもるのに、生活に自然を取り入れることが大切なのはもちろんであるが、助け合うというシステムがこれからの社会づくりや、地球を守っていく人づくりにとって非常に大きな意味をもつことだと考える。



BOOK STATION
ブックステーション

地球のためのデザイン
建築とデザインにおける生態学と倫理学

ヴィクター・パパネック 著
大島俊三・村上太佳子・城崎照彦 共訳
榮久庵　憲司 序文

鹿島出版会
1998.3.25刊
A5判　266頁　本体4100円



この本で著者は、最近問題にされている環境破壊や資源の浪費に対して今重要なことは、経済成長からくる物質文明の蔓延や科学技術の発展に対して反省と責任を求めることではなく、デザイナー・建築家・エンジニアと消費者が作り手・使い手として地球環境に対してどんな貢献が出来るかを早急に考えることであるとして、歴史的教訓を踏まえながら、建築とデザインの多くの考えと研究方法を12の章にわたり探求・展開している。著者いわく、「歴史は、かつて人々は自然の本質すなわちエコロジーの核心を理解し、自然に対して極めて謙虚であったことを教えている」と。過去においては、確かに我々はわざわざ口に出さなくとも、根本的に道徳観・倫理観を持ち社会や環境に対応し、地球環境を維持してきたのかもしれない。訳者があとがきで『本書は「自然に帰ろう」と主張しているのではない。エコロジーと倫理をどう考えるべきかを問い、科学技術の発展を正しい方向に制御するべく人類に本来備わっている倫理的資質を鼓舞し、明るい未来を構築しようと呼びかけているのである」との記述が、この本の内容・主張をよく表している。　（I．I）

緑空間のユニバーサル・デザイン

㈳日本造園学会 編

学芸出版社
1998.5.25刊
A5変判　256頁　本体2800円



本書は、緑の空間計画をバリアフリーの観点から検討し、整理したものである。我が国においても急速な高齢化が進み、2020年には高齢者比率が25.5%に達すると言われている。このような現状をふまえ、高齢者をも含めた全ての人々が、快適で充実した生活を送れるような空間を提供する必要がある。その為には、ハード面のバリアフリーだけでなく、公園などの緑空間を、高齢者や障害を持つ人々を含め、地域の人々が一体となって、運営し、利用するソフトな面でのバリアフリーがコミュニティの形成や生きがいの創出に繋がるのではないか、というのがこの本の主旨である。また、そのような考え方を、アメリカのユニバーサルデザインに対する試みや、大阪府・北海道・兵庫県の各公園を事例として取りあげ、紹介している。ランドスケープデザイナーを対象として執筆されたものであるが、ユニバーサルデザインは様々な分野の人々にも切り離せない考え方であり、一読することをお薦めしたい。　（H．T）

空間の深層
物語としての建築

渡辺豊和 著

学芸出版社
1998.9.10刊
四六判　288頁　本体2600円



「まるで物語を書くように建築を設計できる方法を提示した」と巻頭にある。具体的にはロマネスクやゴシックの聖堂、イスラムのモスク、モダニズムの巨匠たちの作品の数々に、文章のレトリックや映画の技法など「物語」を表現する手法をあてはめて、いかに空間が差異化され統合されているかを読み解いている。くり返し登場する古今東西の建築たちはいずれも劇的な空間を有するものであり、単なる類型の代表例というよりも、それらに対する著者の並々ならぬ惚れ込みようを感じさせる。
「来るべき21世紀こそ正統ポストモダニズムの真価が問われる」とする本書は、その根拠を立証する前段階として個々の建築形態の意味を追求する。その道程を読み進むうち、論理の説得力よりも「物語性」をキーワードとしてあらゆる手段を駆使し考え尽くすことで空間の深層に迫る、著者の建築への迫力ある取り組み方そのものに圧倒される。　（A・K）

骨董市で家を買う
ハットリ邸古民家新築プロジェクト

服部　真澄 著

中央公論社
1998.10.25刊
四六判　200頁　本体1400円



「龍の契り」などの作品で知られる作家、服部真澄さんによる自邸新築物語。しかも福井に残る古民家を東京に移築・再生するというからタダゴトではない。骨董市での民家との出会いに始まり、契約を経て着工・工事、そして引越し・竣工と（竣工→引越しではない！）、家ができるまでの経過を小説風の語りにのせて、住まい手の視点で具体的に語っていく。工期の大幅な遅れ、建築費の増加、次々に迫られる決断の数々と遅々として進まない本業の原稿など、人並み外れた馬力の著者も最後には憔悴し切ってしまう困難の連続、それでも「古民家に住みたい」という意志は家を建ててしまう。
車を購入するのと同じ感覚で家が手に入る世の中にあって、家は「買う」ものではなく「つくる」もの、建築に携わる人間としては、やはりこういう本を読むと元気になる。
（S．T）

担当：会員企画小委員会／伊藤郁郎・河崎敦子・高岡伸一・辻川ひとみ

都市計画法の改正

高谷基彦
京都市都市計画局都市企画部都市計画課地域係長

都市計画の潮流

大正８年に制定されて以来、都市計画法は、わが国における都市の骨格形成に大きな役割を果たしてきた。しかし、土地利用面からみると、昭和43年の都市計画法の全面改定に至るまで、用途地域も３～４種類と少なく、どちらかといえば道路などの都市基盤の整備に主眼が置かれていた。

昭和43年の全面改定により、いわゆる線引き制度（市街化区域及び市街化調整区域）の新設をはじめ用途地域が細分化（８種類）されるなど、区域及び地域地区の充実が図られ、無秩序な市街地拡大の抑制や建物用途の純化などに成果を上げてきた。しかしマクロな観点からの土地利用規制だけでは限界があることから、地域の特性に応じたきめ細かな対応を図るため、市民意向を反映させたミクロな都市計画手法として、昭和55年の法改正により地区計画制度が創設された。

その後も、地区計画制度の改善や住居系用途地域の細分化、都市計画マスタープランの創設など、都市計画の詳細化や市民参加を重視した法改正が行われ、都市計画の対象領域も身近な生活空間を対象としたものへと拡大してきた。一方、近年は行政改革の一環として地方分権に関する検討が行われており、都市計画の分野においても、地方への権限委譲が俎上に載せられている。

このように最近の都市計画の方向は、「国から地方へ」「都市から地域へ」「行政から市民へ」というのが一つの潮流となっている。今回の都市計画法の改正（平成10年11月20日施行）により、特別用途地区制度の改善や市街化調整区域における地区計画制度の拡充等が行われたが、これらもその潮流の一環として位置付けられる。

都市計画法改正の概要

(1) 特別用途地区制度の改善

土地利用の整序や誘導の根幹をなす建築物の用途制限については、用途地域制度を基本としているが、必ずしも用途制限の種類と実際の市街地類型とが合致している訳ではない。良好な市街地環境を確保するためには用途規制に修正を加えることも時に必要である。

特別用途地区は、用途地域内において特別の目的からする土地利用の増進や環境の保護を図るため、用途地域による用途制限の強化または緩和を行うことができる制度である。しかし、従来の特別用途地区は、都市計画法及び政令の規定により、特別用途地区の種類が中高層階住居専用地区、商業専用地区、特別工業地区、文教地区など11種類に限定され、その運用についても国の通達により詳細に規定されていた。そのため、法令や通達の要件に合致する場合しか活用できないという問題を有していた。

今回の法改正では、これまでの種類の限定が廃止され、地方公共団体が多様な目的に応じて柔軟に種類の設定をできるようになった。これにより、市町村の創意工夫のもと、地域の実情に的確に対応して市民等の意向も踏まえつつ多様なまちづくりニーズに対応できることとなった。

(2) 市街化調整区域における地区計画制度の拡充

市街化調整区域は通常、用途地域指定が行われていないが、このような地域における土地利用の整序を図る上で地区計画制度の活用も有効である。市街化調整区域においては、これまでも集落地区計画や良好な計画的開発区域における地区計画の適用は可能であったが、今回の法改正により、小規模な開発を誘導する区域やスプロールが予測されるような区域にも地区計画を適用できるようになった。その活用事例としては、次のような場合が想定されている。

①周辺にある程度の公共施設等が整備されており、良好な居住環境を確保することが可能な地区で、ゆとりある緑豊かな郊外型住宅地として整備を行う場合

②既存集落とその周辺や沿道地域ですでに住宅が点在しているような地区において良好な環境の確保を図るため、住宅や居住者のための利便施設等の建設を認める場合

また、同時に市街化調整区域における地区計画に適合する開発行為は、開発許可の対象となった。

(3) 市町村の都市計画決定権限の拡大

都市計画の決定主体については従来、都道府県知事決定案件と市町村決定案件とに区分されているが、地方分権の促進を図る観点から、今回の法及び政令の改正により知事決定案件の範囲が縮小され、道路や公園、市街地開発事業等に関する市町村の決定権限が一部拡大された。

法改正後の課題

特別用途地区の改善は、地方自治体による建築物の用途制限の自由度を高めることになるが、無秩序な乱用は、かえって市街地環境の混乱を招くおそれもある。ベースとなる用途地域との関係等を十分に考慮しつつ、目指すべき市街地像を明確にした上で活用を図る必要がある。

また、今回の都市計画法の改正と軌を一にして、いわゆる大店法が廃止され、それに代わる大規模小売店舗立地法が制定された。これにより大型店の出店問題については、従来の商業調整から交通環境等の調整の方に主眼がシフトした。商業者サイドからは、特別用途地区を活用して大型店の出店規制ができないかという声が上がっている。この問いかけに対する判断は難しいが、いずれにしても地域の総合的なまちづくりの観点から考える必要があろう。

地区計画制度の改善については、市街化調整区域における良好な居住環境の維持・形成を図るための手法の充実がなされたものであるが、市街化調整区域は積極的に市街地の形成を図るべき区域ではない。地区計画等による整備手法の充実は、従来の市街化区域と市街化調整区域の関係を曖昧にするおそれがあり、地区計画の活用に当たっては各都市の特性や人口動態等を慎重に勘案しつつ、市街化調整区域における土地利用のあり方を明確にする必要がある。

今回の都市計画法の改正は、地方分権の潮流の中で、地方の自主性を尊重し、地方が主体的に都市計画に取り組めるよう法制度の充実が図られたものである。このことは地域の実情を一番よく知っている地方自治体にとって、その実情を勘案しながら創意工夫のもとにまちづくりを進めることができる反面、地方自治体の力量や責任が問われることになる。同時に、そのようなまちづくりを進めるためには、行政だけではなく、市民や設計者、開発事業者等においても「まちはみんなのもの」という意識の共有が求められる。

（たかや　もとひこ）

木質準ラーメン構法の家

伊東洋路
㈱エヌ・シー・エヌ技術部部長

先の阪神大震災は、さまざまな課題を社会にもたらすこととなった。建築に携わるわれわれにとっては、社会的責任を再認識する機会となった。とりわけ木質構造を供給する側の立場として、在来木造が倒壊した報道写真は、日本の木造文化のこれからの在り方について問い直す機会となった。

自然と共存するエコ的な思想の日本木造文化を残して、住み手である消費者の視点で、安全で納得できる木質構造を提供しようというのが「ＳＥ工法」の開発コンセプトである。まず構造体系と供給体系、そして施工・経済性の三つの視点で開発を進めた。また法第38条認定を取得するなどして地域の工務店が誇れる木質工法として、大手メーカーに十分対抗できる差別化も必要であると考えた。また町並みの自由性が必要であると考えて、一般認定を選択した。

最初に考えたのは、木質構造の立体解析（接合剛性と面剛性）による構造計算プログラムであった。それは、大断面木造（セブン工業）の経験から、フレームのみの構造設計では住宅コストに適応できないと判断したからである。また在来軸組工法と枠組壁工法の弱点を補完する形で、工務店の木造文化の延長になるよう同時に配慮した。構造計算書は誰でも安全性が見えるカラー出力を考え、施主や施工する職人さんにも構造がわかりやすいものとする工夫をした。またすべての建物を構造計算する体制として、意匠設計ＣＡＤから構造計算・プレカット加工までネットワークで結ぶことで、情報の品質と省力化を実現することも開発コンセプトにした。施工管理については、登録制度として工務店の実務者を実施研修と試験によって資格を与える方法とした（図１）。

このように「ＳＥ工法木質フレームシステム」は、構造設計プログラムからプレカット供給、そして施工についてまで、安全な木質構造を提供するシステムとして、日本建築センターの木質構造委員会の一般認定を取得している。

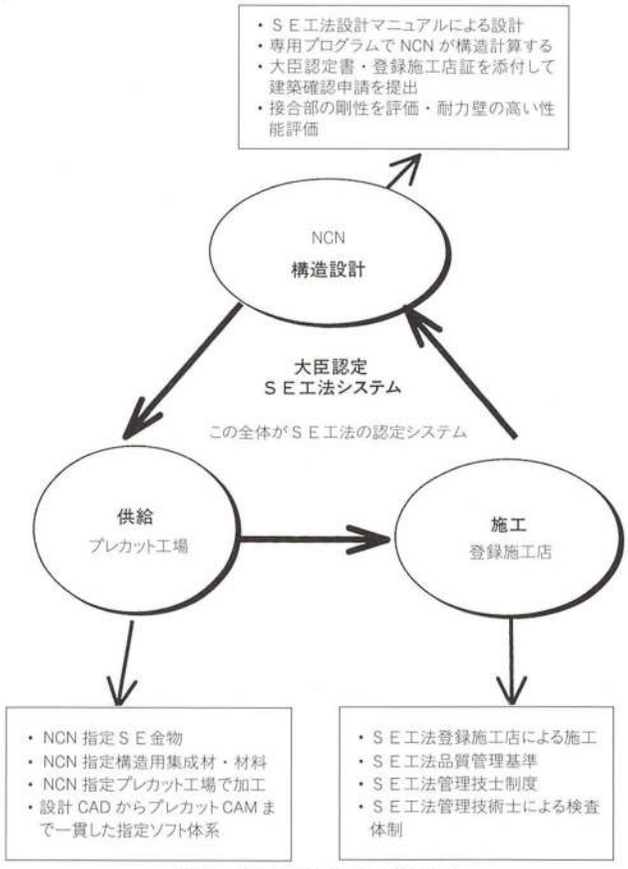


図１　ＳＥ工法の大臣認定とは

構造の概要

「木質準ラーメン構法の家」という表題は、少し過大な表現であると思っている。ＳＥ工法は、「木質半剛節ラーメンフレームと面材架構との組み合わせ架構」というのが、認定申請に使用している構造形式である。地震等の水平力によって生じる柱脚への引張力は土台があるため、基礎に十分伝達できないのが在来軸組工法の弱点である。また伝統的な仕口を105㎜角の柱でも在来軸組工法は採用しているが、柱の断面欠損が大きく曲げに抵抗できず地震で折れた現場を見かけた。さらに狭小間口の店舗や車庫併用住宅は前面開口部があるため、耐力壁の配置のバランスの悪い建物が多い。このような市街地木造住宅の安全を考えるとき、これらの対策が急務であると考えた。加えて木筋交いの材質についての仕様が、公庫・建築基準法にも定めてないため、節の多い木筋交いが多く使われている現状も問題だと考えた。当然、片方しか入っていない筋交いは、たとえ補強金物が入っていても効くとは思えない。

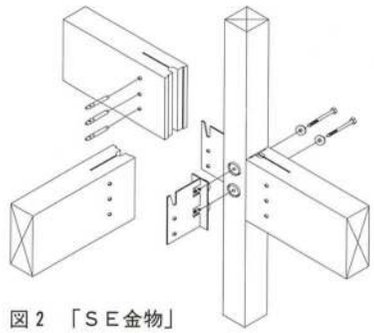


図２　「ＳＥ金物」

こうした在来軸組工法の現状を考察して、ＳＥ工法の構造材には、性能表示され構造計算ができるエンジニアリングウッド（構造用集成材）を採用することにした。また接合部には断面欠損が少なく、かつ接合剛性を確保できる「ＳＥ金物」を採用する構造とした（図２）。接合部の剛性はすべて実験によって評価し構造計算するようにして、耐力壁フレームという柱２本と梁のフレームを設けることで、狭小間口開口部のある建物の安全性を確保するようにしている。また耐力壁には面材のみを使用している。耐力については、従来は30%程度しか構造用合板の耐力が発揮されていなかったが、ＳＥ工法では柱脚の引張り耐力が大幅に向上したことで、釘の最小間隔を50㎜にするなど、構造用合板等の面材の耐力を十分発揮できる構造としている。

水平剛性については、床に構造用合板28㎜を標準として採用して剛性を確保している。また屋根には省エネルギーを考慮してSE-Rパネル（複合断熱パネル）によって屋根剛性を確保している。同時にSE-Fパネル（複合遮音パネル）によって上下階の遮音性能も考慮した剛性のある床パネルを追加している。

供給の概要

ＳＥ工法オリジナル構造計算プログラムを開発して、すべての構造計算を㈱エヌ・シー・エヌで行い確認するようにしている。構造解析は立体解析で行い、接合部の剛性を忠実に評価している（写真１）。また耐力壁はブレース置換・水平剛性については等価部材置換方式で剛性マトリックス解析できるようになっている。構造計算の

出力は検定値一覧として、安全率がカラーで判定できるものを提出している。これはすべての荷重ケースによる曲げ変形・たわみ変形・層間変形・MQNの許容応力に対してカラーで表示するものである（**図3**）。このような情報はプレカット工場と連動して、変更情報が正確に供給するプレカット工場に伝えられるシステムとなっている（**写真2**）。プレカット工場は全自動コンピューター制御で材料精度が良い集成材を加工するため、接合部の加工精度は高く品質管理されて出荷している。プレカット工場は全国4工場で供給しており、関西地区では兵庫県三木市でも稼動している。現場施工性を重要視しているため、プレカットした柱部材には金物が取り付けられて出荷されているので、現場施工は一日で建て方完了できるように工夫されている（**写真3**）。

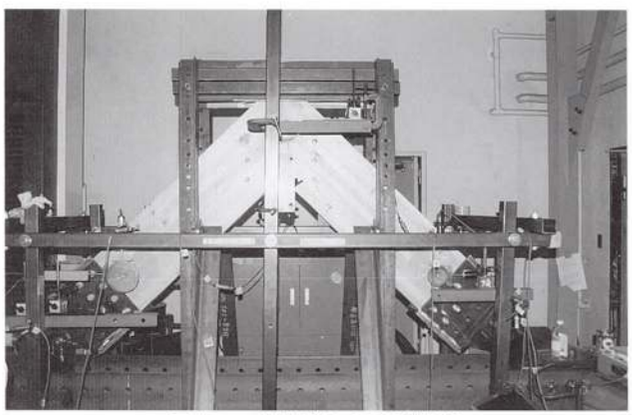
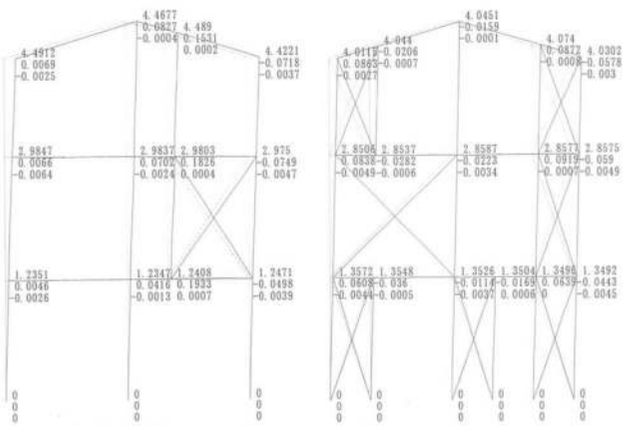


写真1　立体解析による構造解析



節点変位（地震Y：Y5）
－X，Y，R変位（cm，rad）

節点変位（風圧＋Y：Y1）
－X，Y，R変位（cm，rad）

図3　節点変位図



写真2　プレカット工場

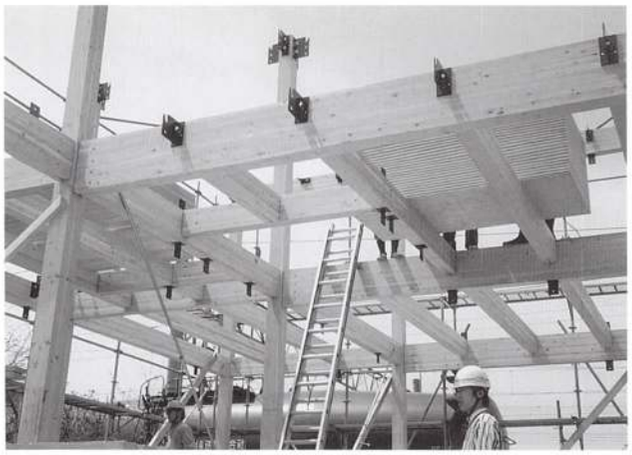


写真3　一日で建て方完了

SE工法を施工するには、エヌ・シー・エヌに登録をしてSE工法施工管理技士の資格試験合格者がいないと登録できないようになっている。またSE工法施工管理技士は定期的に開催される研修会に参加する必要がある。また毎月最新の情報が機関誌「ネットワークSE」で届けられるようになっている。

木質構造に期待される自由と責任

住宅業界の中では代願による建築確認申請が存在している。この代願制度があるため、建築士の存在が住宅業界に浸透していないと思っている。このためSE工法では直接施工する技術者にSE工法施工管理技士としての施工責任の自覚と誇りを持てるように考えた。それは、施主に工事完了時に提出する性能報告書（軸体の検査写真とカラー検定）にSE工法施工管理技士の名前と責任を明確にするシステムなどである。

性能表示時代に、はたして木構造は生き延びられるのかという不安があった。認定申請の苦労は木質構造の性能規定化となるデーターが少なかったため、実験の種類と数が多くなってしまったことである。データーが少ないのはわが国の木造の歴史が長かった故の怠慢ではなかろうか。また性能を評価する方法について公開されている情報が少ないため、民間先発型の「SE工法木質フレームシステム」の開発にはさまざまな障害を乗り越えるエネルギーが必要であった。

今までの「勘と経験」による木造の匠の技術は、いつしかプレカット工場に取って代わってしまっている。最近「欠陥住宅」に関する記事を目にするが、うなずかされることが多い。それは最低の基準として定められている建築基準法が、最高水準として取り扱われている実状や、建築士をはじめとする建築業界のプロ意識の欠如と同時に社会から信頼されていないことが多い。

社会的財産であり一生の最大の買い物である「我が家」を供給する建築業界の不勉強さを反省する時にきている。

建築基準法が抜本改正され、住宅品質確保促進制度が実施されれば、自由と自己責任のもとに消費者は住宅を取得するときには「地震のときにどうなるのか？」などの高度な性能表示を要求することが一般的になるであろう。日本の「木の文化」を残しつつ、ニーズに合わせた安全性・性能表示された木質構造を、工務店を通して「木質準ラーメン構法の家」SE工法を提供したいと考えている。

SE工法は木質構法の一つの方法であって、今後自由と自己責任によるさまざまな木質構造の出現を期待している。

（いとう　ひろみち）

パブリックトイレの“これからのかたち”

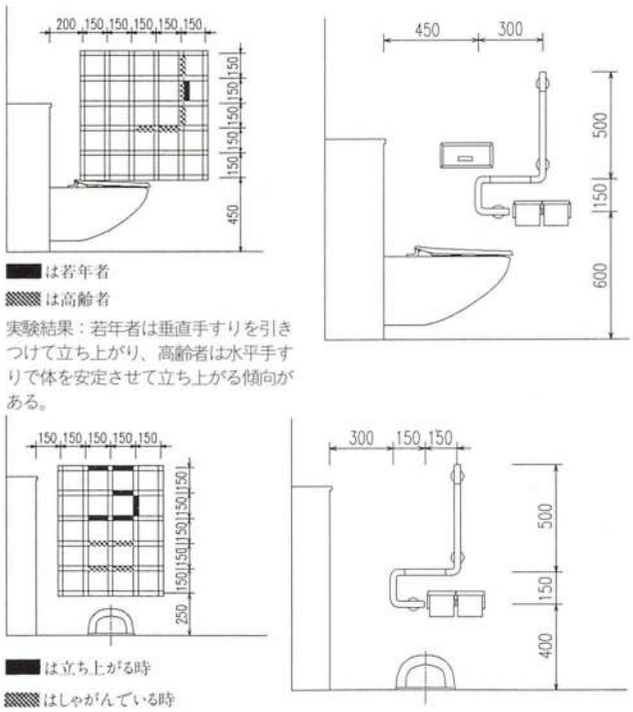
堀本　奉
㈱INAX 設備商品開発室衛陶開発担当課長

これからの公共的トイレづくりにはどのような視点が求められるのであろうか。ここでは一昨年秋に東京・錦糸町駅北口に竣工オープンした「すみだトリフォニーホール」（設計／日建設計東京本社）の事例から、そこで提案されているパブリックトイレの考え方と、ひとつの実験ともいうべき試みについて報告する。

手すりはひとつでよいのか

公共施設のトイレというと誰もが思い描く姿がある。ずらっと並んだ小便器の一番端に手すり付きのストール小便器が設置されているものである。「本当にこれでいいのだろうか？」すべてがこの疑問から始まった。４人に１人が高齢者という時代を迎えようとしている今、健常者に対する特別な人としての“高齢者配慮”という視点から、“高齢者＝ノーマル”という考え方への根本的な転換が必要なのではないだろうか。「ちょっとつかまるところの欲しい方はここをご使用下さい」ではなく、どの器具もどのブースも選択することなく使えるようにしたい。このような設計思想から、トリフォニーホールではすべての器具に手すりを設けるという方針がとられた。

しかし、これまでのようなステンレスの手すりが並んださまは、まるで人を拒否するかのような印象を見る人に与える。つかまるところを必要とする人に過不足なく役立ち、視覚的にも触覚的にも“やさしい手すり”が求められた。開発に際しては、実際に高齢者の方に被験者になってもらい、検証実験を繰り返した（図１）。



実験結果：若年者は垂直手すりを引きつけて立ち上がり、高齢者は水平手すりで体を安定させて立ち上がる傾向がある。

実験結果：和式便器では、立ち上がるときに必要な手すりと、しゃがんでいるときに体を安定させる手すりが、別に必要である。

図１　トリフォニーホールにおける使いやすい手すり位置の検証

便器の洋式化を促すもの

これからの公共的トイレでは、手すりの問題だけでなくさまざまな場面で、ハンディキャップを持つ人に対する視点の転換が求められる。大便器の洋式化もそのひとつである。住宅では一般的になっている洋式便器も、公共トイレでは今ひとつ評判がよくない。問題は“清潔感”である。しかし和式便器主体のトイレは、これから迎えようとしている時代に決して満足できるものではない。和式便器では“使えない”人が増えてくるからである。

このような状況を解決する糸口として興味深い調査結果がある。ある百貨店のトイレでは、洋式を使用することに抵抗感が強い女性の39%が「きれいであれば洋式でも構わない」としており、「絶対和式が良い」の30.5%を上回っている（当社調査より）。メンテナンスの行き届いた清潔なトイレこそが便器の洋式化を促し、高齢化社会への足掛かりとなるはずである。

床置き式便器を問い直す

では洋式便器は掃除がしやすいのだろうか？　残念ながら答えはNOである。一般的には器具周辺の状態も含めて、和式便器は“汚れやすいが掃除はしやすい”、洋式便器は“汚れにくいが掃除はしにくい”と言える。便器と後ろ壁との間のモップも入らないような隙間や、便器と床が接する所に溜まっていく汚れなども普段の掃除では落としようがない。何よりも便器によって切り取られた床の形状そのものがモップなどでは掃除しにくい（図２）。

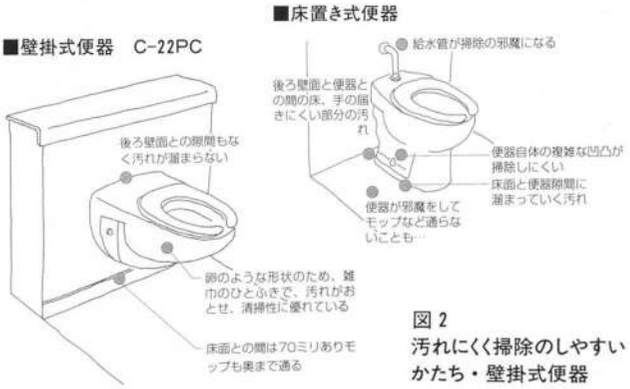


図２
汚れにくく掃除のしやすいかたち・壁掛式便器

トリフォニーホールでは、新型の壁掛式便器（C-22PC）を設置することにより、この問題をクリアしている（写真１）。“汚れにくく掃除しやすい”というメンテナンスのしやすさこそ、トイレにとって基本的でありながらも普遍的な課題であると言える。そして“清潔感”を左右するのは、かなりの部分“床”の状態である。あらためて「床置き式でいいのか？」と問いかけてみる必要がある。



写真１　トリフォニーホール洋式便器ブース

大人も子供も使える壁掛小便器

小便器にも壁掛式と床置き式のものがある。オフィスなどの大人しか使わないところでは壁掛式、大人も子供も使う公共的トイレでは床置き式というのがこれまでの常識であった。本当にそうなのだろうか？　実は小便器下の床こそが最も汚れやすく、男性用トイレにとって清潔さの生命線ともいうべきところである。本来なら公共的なトイレでも壁掛式にして、すっきりと気持ち良く掃除したい。そんなジレンマが、壁掛小便器の中にひとつだけ床置き小便器を設けるという、よく見かける小便コーナーのかたちをつくってきた。しかしこれでは、小さな子供はそのひとつの小便器を使うしかない。

トリフォニーホールでは、東京都庁などで採用され床を汚さないことで定評のある小便器を、可能な限り低い位置に取り付けることによって、この問題の克服を試みた。すべての小便器に手すりを設けることと合わせて、小さな子供から高齢者まで、より多くの人に使いやすい快適な小便器まわりになっている（**写真2**）。



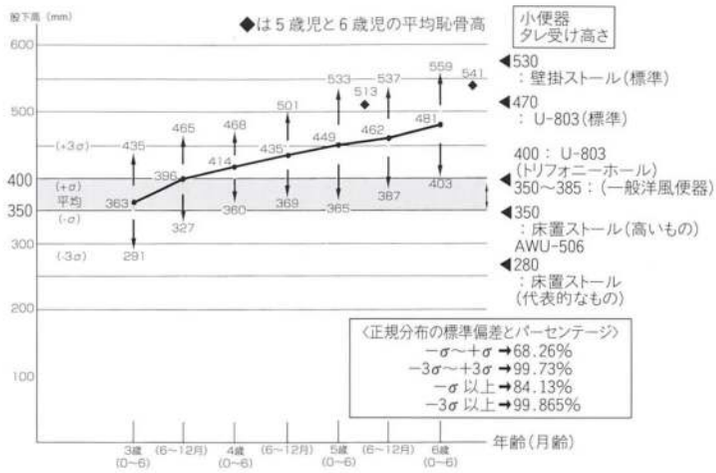
写真2　トリフォニーホール小便器まわり

AWU-506が提案するかたち

トリフォニーホールでの試みをここだけで終わらせてはならないという思いが、この小便器の開発へとつながっていった。①小さな子供から高齢者までが使いやすい、②床を汚すことの少ない、③機器自体もメンテナンス性に優れた小便器の開発である。

①子供でも使える小便器タレ受けの高さは？　トリフォニーホールでは、既製の器具を使うという制約の中、コンサートホールという施設の特性を考慮して400㎜とした。しかし目的はハートビル法などで言う「床置き式」に代わり得るものである。そこでこの小便器のタレ受け高さは、既存の床置き式にも採用している350㎜とした。これにより、ひとりで小便器を使用できる年齢の幼児をほとんどカバーできる（**図3**）。

②床の汚れに関しては、何よりもまず“こぼさない”ことであり、“近付きやすい”ことが必要となる。小便器下のこぼれは最初の一滴から“近付きたくない”→“さらにこぼす”の悪循環へとつながっていく。そのためにタレ受けは、先端のとがった確実に受けてくれる形状とした。それでも汚してしまうことはあるが、その時に効果を発揮するのが“壁掛式”つまり床から浮いていることである。ステップタイルなどと組み合わせれば、清掃作業によってほぼ元のきれいな状態に回復することができる。



- 3歳前半の幼児において、半数を超えるものが350㎜以上の股下高をもつ。
- 4歳前半以上の幼児では、ほぼ100%が350㎜以上の股下高をもつ。

図3　幼児の股下高と小便器のタレ受けの高さ
データ：「人体を測る」（日本出版サービス）

③機器自体のメンテナンス性については、リム無しスプレッダー洗浄方式とすることにより、清掃が不十分になりがちで尿石の付着しやすいリム裏をなくしている。



写真3　小便器 AWU-506

つまり、この小便器が提案するものは、“小便器下の汚れが少なく、それでいて、小さな子供も器具を選ぶことなく使える小便コーナー”という新しいかたちである（**写真3**）。

“これからのかたち”をつくるもの

高齢化社会を迎えるにあたって、さらには子供なども含めたユニバーサルデザインの時代へと向かおうとしているトイレの“かたち”について考えてみた。このほかにも、環境とトイレの問題などもこれまで以上に多くの知恵を必要とし、そこからもまた新しい“かたち”が生まれてくるだろう。しかし、トイレは清潔であること、より多くの人がより気持ち良く使える空間でありたいことが、いつも変わることのない“かたち”の基本だとあらためて思う。

（ほりもと　すすむ）

リサイクル真空断熱材

入江　潤　　谷本康明
松下電器産業㈱設備営業本部　松下冷機㈱冷機研究所

はじめに

近年、建築物の建設とその資材に対して、様々な切り口で社会的な要請が高まっている。中でも、民生エネルギーの低減、建築廃材の分別リサイクルなどの問題が顕在化しつつある。特に環境に配慮した住宅建材は急速に増加しており、VOC対策建材やリサイクル建材を採用したモデルが住宅業界の1つのトレンドになってきている。

硬質ウレタンフォームのリサイクル

硬質ウレタンフォームは、その断熱性能と製造コストから極めて優れた断熱材であるため、建築分野では住宅の高気密高断熱化に貢献してきた。しかし一方では、発泡剤としてのフロン利用、燃焼ガスの発生、廃棄処理性能などの問題があるのが実状である。工業分野では、これまでおもに、冷蔵庫の断熱材として大量に使用されてきたが、西暦2001年の特定家庭用機器再商品化法（通称、家電リサイクル法）の施行により、業界全体で約3000t／年ともいわれるフロンを含んだ硬質ウレタンが排出されると懸念されている。

当社グループは、従来リサイクルが難しいとされてきた硬質ウレタン廃材からフロンを回収し、同時に新開発のプロセスで加工処理、真空断熱材の芯材として適用することにより、工業分野における硬質ウレタンの再利用をほぼ可能にすることができた。

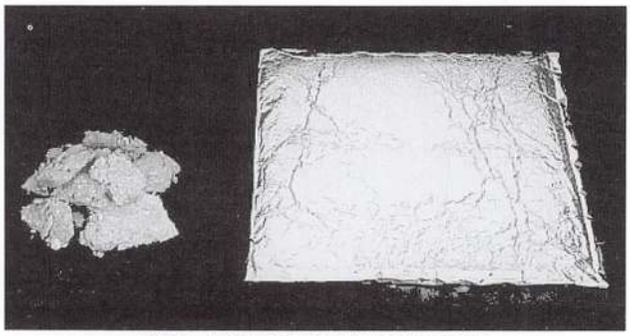


写真1　回収ウレタン（左）と真空断熱材（右）



図1　リサイクル真空断熱材の概略図

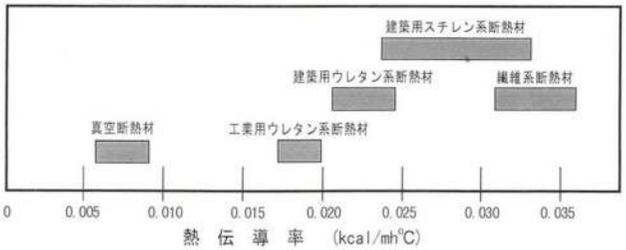


表1　断熱材とその性能比較

リサイクル真空断熱材の概要

今回開発したリサイクル真空断熱材（**写真1**）の構成を（**図1**）に示す。最大の特長は、断熱性能が（**表1**）に示す通り、建築用グラスウールの対厚み比で、約5倍の断熱性能を有するというものである。これにより、薄さを活かした高断熱が可能となる。また、本方式により製造した断熱材も将来、繰り返し利用できるなどの利点がある。

使用の範囲

本断熱材の使用範囲としては、通称サブロクなどの一定モジュールにウレタン再成形することで、外断熱工法や屋根断熱、基礎断熱に利用できる。さらに、建具などの断熱強化も考えられる。また、非居住分野では、サイディングなどとの融合により、ビルリニューアル外装材や断熱強化用リフォームパネルなどの用途が考えられる。

建築断熱材としての課題

真空破壊時に断熱性能の低下が考えられるため、真空を破壊しない施工方法や、建築との取合いが必要である。コストについては施工方法の簡略化による人件費の削減、空調ランニングコスト削減などを考慮する必要があるが、材料単体としては、現状では排出ウレタンの回収システムとその価格、製品需要量、住宅着工棟数などにより左右される。

これまでの取組み

建築用断熱材として、3つの切り口で行なっている。1つは、複合断熱パネルとして住宅用断熱材の開発（優良断熱材認定マーク（DK）を取得済）、外装材料との融合による、新築用外装材（居住・非居住）の開発、断熱強化を含めたリニューアル用建材の開発である。

現在、各方面と協同研究を行い、順次試験採用を含めた実証実験を推進している。

今後の展開

住宅の解体届出制度、次世代新省エネ基準などの具体的な法制化により、本断熱材の有用性が高まるものと思われる。また、設計事務所のISO14000番台取得に関しても、「リサイクル建材のスペックイン」などの事項が考慮されている。さらに本年度よりスタートした「スーパーエコ住宅補助制度」などにも十分対応できる材料として期待できる。今後は、建築用断熱材としての仕様の強化、例えば、真空破壊の影響が少なくなるような仕様、材料性能、寸法施工性などの検討などを行なっていく予定である。

最後に

本格的なリサイクル時代の到来に向けて、建築業界の抱える課題と責任は大きい。施工時のリサイクル建材使用率の設定や、解体廃材のリサイクル義務化など、このような素材を積極的に活用しなければならない具体的な制度、政策が整えられるであろう。家電製品のリサイクルだけでなく、建築業界全体のリサイクルデバイスの1つになりうる技術と確信している。

屋内消火栓の設置—1—

由上雅章
ヤマトプロテック㈱

屋内消火栓設備の設置(一般建築物)

■屋内消火栓はどういう建物に必要か?

消防法施行令第11条に規定されています(**表1**)。

表1　建物区分と設置必要面積

	建物区分(防火対象物)	延べ面積	地階・無窓階・4階以上の階
1	劇場、映画館、観覧場、演劇場、集会場	500m² (1000m²)[1500m²]	100m² (200m²)[300m²]
2	キャバレー、ナイトクラブ、ダンスホール、遊技場、待合、料理店、飲食店、百貨店、マーケット、ホテル、共同住宅、病院、診療所、福祉施設等、幼稚園、図書館、博物館、美術館、公衆浴場、車両停車場、工場、作業所、スタジオ、倉庫	700m² (1400m²)[2100m²] 福祉施設等の一部には(1000m²)[1000m²]のものもある	150m² (300m²)[450m²]
3	寺、神社、教会、上記に該当しない事業所(事務所等)	1000m² (2000m²)[3000m²]	150m² (300m²)[450m²]
4	地下街	150m² (300m²)[450m²]	

(　)の数値は、耐火構造の建築物または内装を制限した簡易耐火構造の建築物に適用する。
[　]の数値は、耐火構造で内装を制限した建築物に適用する。

■屋内消火栓設備をシステムとして構成させるには?

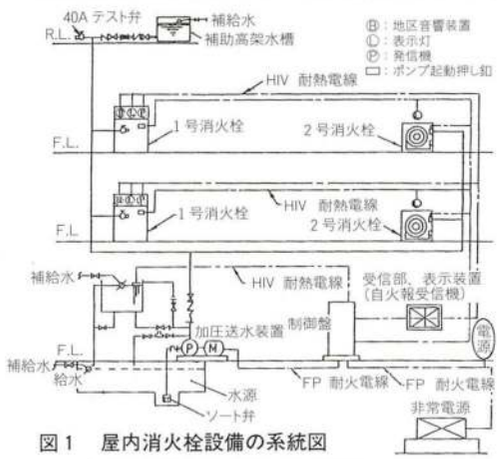


図1　屋内消火栓設備の系統図

屋内消火栓設備は、水源、配管、表示灯、加圧送水装置、消火栓箱、ポンプ起動押釦、補助高架水槽等により構成します。**図1**は、その系統図です。

■屋内消火栓設備の種類と技術基準

屋内消火栓設備には、古くから用いられている1号消火栓と、一人操作可能な2号消火栓、1号消火栓の操作性を向上させた易操作性1号消火栓があります。その設置基準は**表2**のとおりです。

表2　屋内消火栓の設置基準

項　目	1号消火栓	易操作性1号消火栓	2号消火栓
消火栓箱配置基準	水平距離25mにて包含		水平距離15mにて包含(特例適用部分は25m以下または20m以下)
水源水量	5.2m³以上(1台当たり2.6m³)		2.4m³以上(1台当たり1.2m³)
放水圧力	1.7kgf/m²以上		2.5kg f/m²以上
放水圧上限	7.0kg f/m²以下		
放水量	130ℓ/分以上(1台当たり)		60ℓ/分以上(1台当たり)
ポンプの吐出量	300ℓ/分以上(1台当たり150ℓ/分)		140ℓ/分以上(1台当たり70ℓ/分)
同時放水の台数	2台		
加圧送水装置の起動方式	制御盤にて起動や停止ができ、また、消火栓箱直近の押釦からの遠隔操作ができること	制御盤にて起動や停止ができ、また、開閉弁の開放、ホースの延長操作等と連動して起動できること	
配　管	立管は50mm以上		立管は32mm以上
操作性	2名以上で操作	1名で操作	

注1：2号消火栓は昭和62年に、消防法施行令の改正により「一人操作が可能な消火栓として」構成される。易操作性1号消火栓とは、「1号消火栓」においても一人で容易に操作が可能なもので、平成9年に自治省令第19号により技術基準が整備された。
易操作性1号消火栓や2号消火栓は一人でも操作できるように改良されたものであり、使用時は、ノズルをとりだして開閉弁を開くとポンプが起動し、ノズルに開閉装置がついているので、必要な場所にて放水開始ができる。
注2：工場、倉庫には、1号消火栓や易操作性1号消火栓を設置すること。
注3：1号消火栓を使用する防火対象物にあっても、極力、易操作性1号消火栓を指導する傾向にある。なお、基本の設置は2号消火栓が望ましい。

屋内消火栓箱の設置位置と寸法

■屋内消火栓箱はどのような場所に設置するのが良いか?

屋内消火栓箱は、階の出入り口や階段に近く、消火活動に便利な、できるだけ各階同一の位置に設け、扉の開閉が容易で、ホースなどが避難の障害とならないように設置します。

屋内消火栓箱の配置例(**図2**)と、位置表示灯の識別範囲を**図3**に示します。位置表示灯は、箱の上部または箱に、取り付け面と15度以上の角度となる方向に沿って10m以上離れたところから、表示灯が容易に識別できるよう設置します。

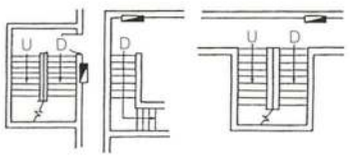


図2　消火栓箱の配置例

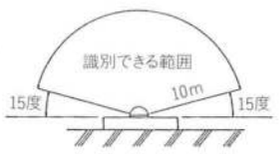


図3　位置表示灯の識別範囲

■屋内消火栓箱の寸法は?

図4に、屋内消火栓箱の形と寸法を示しましょう。

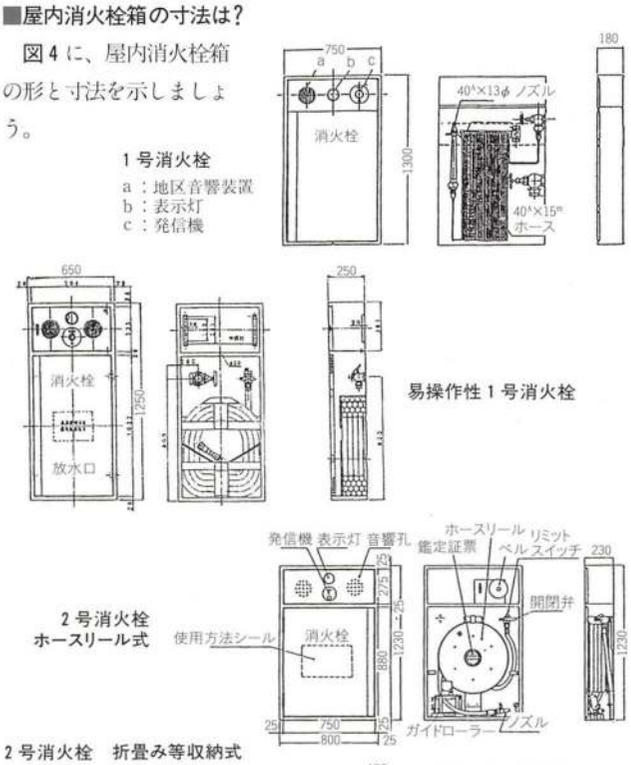


図4　屋内消火栓箱

屋内消火栓は消防法施行令に設置が免除される場合も規定されており、屋内消火栓設備の代替として設置が容易な「パッケージ型消火設備」が平成9年に認められています。これは、次号に紹介する予定です。

(ゆかみ　まさあき)

わが家の新築の記－1－

環境と共生できる家を目指して

池内　了
宇宙物理学者、名古屋大学教授

中古の家を壊して新築する決心をしてから、設計にほぼ1年、建築に約半年かけ、1998年9月にわが家が完成しました。

建築が始まった4月以来、施主としての私は、さまざまな本を買いあさっては木材や建材のことを調べ、設計士さんとは毎週のように連絡を取り合い（私の普段の仕事場は名古屋にあり、新築の家は京都にある）、夏休みには毎日のように午前と午後に大工さんたちにお茶の差し入れをしました。まさに目まぐるしい半年だったので、新築なった家に戻って3カ月以上経つのに、まだ少し興奮状態が続いています。その余韻が胸の内に残っている今、この間の私のささやかな新築体験記を書き留めておこうと思います。



どのような家作りを目指すか

そもそもの家を建て直すきっかけは、原発になるべく頼らないで済むよう、太陽光発電パネルをわが家の屋根に載っけることでした。そのために、環境への負荷の少ない省エネルギー型の家作りが当面の目標であり、始め私はそのことしか考えていませんでした。しかし、設計士さんと相談するうちに、家作りの目標はさまざまあり、もっと多角的に考えねばならないことに気が付きました（当たり前のことなのですが、実際にコトを始めるまでは深く考えなかったためです）。それらをまとめると、

(1)第1目標は、むろん環境共生型の省エネルギー住宅を目指すこと。そのために使われる素材が「本当に環境に優しいか」をちゃんと吟味すること。

(2)シックハウス症候群と言われているように、化学物質が含まれた素材が多いようです。可能な限り自然の素材を使ったナチュラルハウスを目指すこと。そして、伝統の技術の良さを活かすこと。

(3)阪神淡路大震災の教訓を活かすこと。基礎工事の強化だけでなく、地震に襲われても生活が可能となるようライフラインを自前で確保できるよう工夫すること。

(4)子どもがすでに自立した私たち夫婦ですから、やがてくる2人の老いを射程に入れた設計であること。

(5)工務店や設計士任せにしてしまうのではなく、私たちも参加して、家作りを職人さんたちも含め地域の人々との接点になるよう努力すること。

の5点になるでしょう。これらは互いに独立した目標ではなく、共通する側面があるとともに、矛盾する要求となる場合もありました。それを設計士さんと相談しながら、採用するかどうかをひとつひとつ吟味しました。といっても、すべてを考えることができたかどうか、自信はありません。

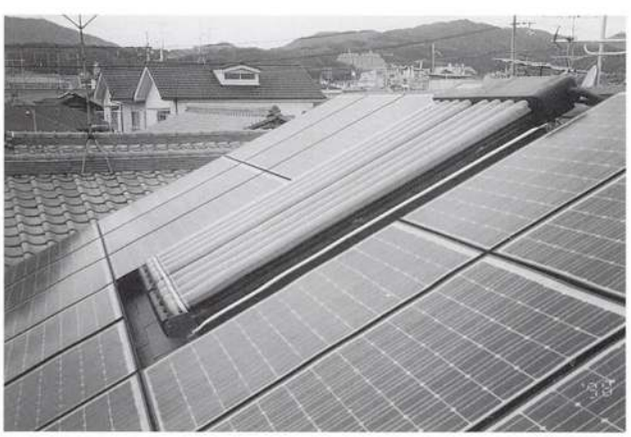
以下で、この5点について私が考え、手を打った内容や後で気付いたことを書いておきます。

環境共生のための工夫

太陽光発電パネルと太陽熱温水器を設置するのは当初からの方針でしたが、それ以外に、雨水とフロの水を溜めて中水道としてトイレに使うこと、使う資材は寿命が来て壊すときに環境が処理できる素材であること、夏の風通しと冬の断熱を良くして冷暖房機の使用を少なくすること、南側と東側は窓を大きくとって昼間の電灯を不要にすること、などを考えました。伝統的な和風住宅は、夏を涼しく過ごすために開放形が基本でした。ところが、エアコンが普及するとともに高気密の閉鎖形の家が多くなっています。そのために、結露のような新たな問題も生じてきました（前に住んでいたアパートで結露に悩まされたものです）。やはり、日本の高湿度の気候環境では、通風を良くする方が優先されるべきと考え、伝統の欄間を復活させることにしました。その代わり、断熱材を壁や天井に敷き詰めることにし、壊したときに自然が処理できる古紙を粉末状にした断熱材を採用しました。

3カ月住んでみて、太陽光発電の有効性を強く感じています。11月の太陽の光でも、ほぼ使用電力を賄ってくれるのです。それには別の理由もあります。私は希望して、パネルが発電する電力量とともに、関西電力から買っている電力量、関西電力に売っている電力量の、三つが数値として見えるモニターも設置しました。この数値を眺めていると、売る量を増やしたいのが人情ですから、私たち夫婦は知らぬ間に節電するようになったのです。さらに、冷蔵庫をはじめとして、リモコンのテレビ、電子レンジ、便座を暖めている便器など、たとえ家が無人であっても電気が四六時中流れている電気製品が多いことに気が付きました。これを計算すると、なんと全電力使用量の3分の1にもなるのです。そこで、テレビは本体のスイッチで切り、電子レンジは使用後コードを抜き、便座は本当に必要になるまでオフにすることにしました。このような節電努力が太陽光発電に伴うので、電気の使用量が激減したのです。発電量と使っている電気量が目に見えるモニター設置を、ぜひお薦めします。

まだ本格的な冬になっていないので、寒さに対し今回採用した断熱材がどれほど有効か判明していません。特に、2階と3階を吹き



抜けにした私の書斎は寒いのではと思っていますが、大工さんは、これほど綿密に断熱材を入れるのは珍しく、きっと冬も暖かいだろうとおっしゃっています。皮肉にも、真夏の暑い盛りの工事中、断熱材のために工事現場が朝になっても冷えていないことを何度も経験されたためです。アルミのサッシにガラス窓を付け、さらに障子も入れて三重窓（網戸を入れると四重窓）にしたのも断熱を考慮したためです。

いずれにしろ、前の中古の家より便利さは増したのですが、エネルギー使用は減っています。また、次の項にみるように環境に優しい素材の家になっていると思っています。

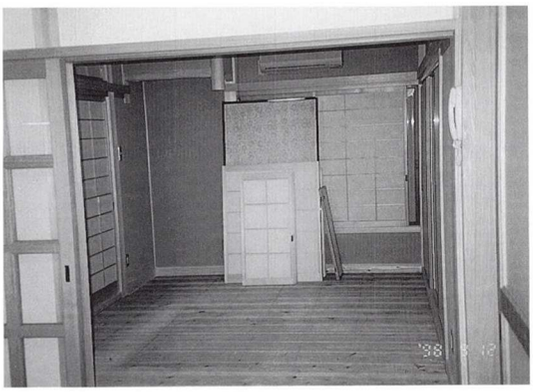
ナチュラルハウスを目指して

シックハウス症候群も環境ホルモン問題も、私たちが多種多量の化学物質に取り囲まれていることを示しています。そこで、なるべく自然の素材を使うことにしました。新建材や壁紙は避けて漆喰の壁とし、桧の床や杉の天井にして合成材は極力少なくし、ワックス仕上げも最小限に押さえました。少し高くついたのは事実ですが、幸いなことに（材木屋さんには気の毒ですが）、現在の不況で材木が値下がりしており、良い材木をまとめて買うことによってなんとか可能になりました。水回りの多い台所やトイレは合成材にしましたが、化学接着剤で貼り付ける作業を見ていると、やはり危ないのではないかと感じたものです。

水や虫に強い栗の木を土台に使ったのですが、シロアリ対策として、これに人造のクレオソートを塗るかどうかが問題になりました。大工さんはやはり防蟻剤を塗っておきたいとおっしゃるのですが、私としては常に床下から燻されているような気がして、なんとかならないものかと考えていました。そこで設計士さんが見つけてこられたのが、木を燃やしたときに出る樹液を集めた木酢タール液で、『化学用語辞典』で調べるとクレオソート同じ成分を含んでいるらしいので、これを塗ることにしました。また、ベランダの木柵（これにも栗の木を採用しました）の塗装は、ペンキではなく「柿渋」を採用したのです。香りといい、色映えといい、実に落ち着いた出来となりました。それに、柿渋はペンキよりずっと安いことも知りました。こんな良い素材はもっと使うべきでは、と思っています。

用心すべきなのは、「エコ素材」とか「環境に優しい」というキャッチフレーズにはなっていても、その製作に多量のエネルギーを使っていたり、ほんの少しだけ良くなっただけなのに過大に宣伝して高価になっている製品が多いことです。それらを万全にチェックできたわけではないのですが、一流品ではなく「1.5流品」くらいで十分なものが多いと感じました。環境問題が商売に利用されると、言葉と裏腹になることにも気を遣う必要があるようです。

後で気付いたのですが、私がチェックできた部分はそれなりに吟味したのですが、目の届かない部分では、まだまだ不十分であったと思います。1軒の家作りには、水道・電気・左官・基礎工事など10以上の業者が携わっていますが、それぞれの業者が「普通のこと」と考えていても、私から見れば「余分なこと」があったのではないかと思います。たとえば、電気のスイッチがすべて「ホタル型」、つまりスイッチに電気が流れてホタルのように光っているのです（せっかく節電に努めているのに）。電気工事の業者に「ここまでしなくても、電気が流れていない普通のスイッチで良いのに」と言いましたが、彼は「このホタル型が今の普通なんですわ」とおっしゃるのです。ここに「普通」の概念のズレがありました。電気スイッチですからすぐに気が付いたのですが、目に見えない部分の工事にも、このようなことが多くあるのでは、と思っています。工事にかかる前に全業者を集めて、私が作ろうとしている家のイメージをちゃんと話すべきであったのでしょう。あるいは、ナチュラルハウスを旗印にした業者を選ぶべきだったのかもしれません。しかし、工務店に出入りしている業者は決まっていますから、工務店としっかり話しておくべきだった反省しています。



床板が貼られたばかりの居間

伝統の技術を活かす

上棟の日から完成まで、新築工事のアレコレを見ているうちに、木造建築技法は長い歴史の中で合理的に洗練されていることを認識しました。地震対策用の筋交い、土台・柱・床・天井・梁・庇などへの材木の使い分け、夏の湿気と冬の断熱対策など、経験の上に積み上げられた伝統の知恵は捨て難いものです。これに加え、近代の知から得られた新たな技術を組み合わせれば、きっと良いものができると実感しました。西洋からの輸入型のものは日本の風土に合わない場合がある一方、伝統の技術や素材より合理的なものもあります。双方の良さが活かせれば新しいタイプの和風建築が可能なのでは、と思ったものです。

欄間や漆喰壁を採用したのも、木酢タール液や柿渋を塗ったのも、障子をすべての窓に取り付けたのも、それらを意識した結果でした。見回してみると、そのような伝統を活かす技術がいくつもありました。木のフロにしたのも、木炭入りの藺草畳にしたのも、高級和紙を使った襖にしたのも、そんな気持ちからでした。いずれも高くついたので辛かったのですが、全体から見れば大した金額ではありません（襖は5枚、畳は10枚しかないのですから）。真っ白な壁と太い柱の取り合わせは、白い障子紙と木枠の取り合わせと良く調和し、落ち着いた気分にさせてくれます。日本間は濃緑のじゅらく壁に緑の縁の畳とし、ゆったり休める雰囲気をつくりました。ここにいると「私は日本人なのだな」と実感します。伝統は私たちの心に刷り込まれているようです。

同時に、なるべく国産の木材を使うことにしました。北山杉の製造問屋に見学に行ったとき、国産材が不振で山が荒れかかっていることを耳にしたのですが、山は、雨水の調節・二酸化炭素の貯蔵のような目には見えない仕事をしている上に、再生可能な木材を提供してくれています。これをもっと大事にしなければと思いました。むろん、地元材が風土に適していることもあります。コメと同じく木材も輸入制限や助成をして国産材の使用を奨励し、生き生きとした山の復活を目指すべきだと強く感じました。

＊3月号につづく

（いけうち　さとる）

第3回ユニオン建築フォーラム

隈 研吾「近作について」を聞く

森田昌宏
竹中工務店大阪本店設計部

大阪にて、1998年11月25日㈬、馬場璋造氏が企画と運営を担当する、第3回ユニオン建築フォーラムが開催された。今回の講師は隈研吾氏で、約2時間にわたってスライドとヴィデオを用いたレクチュアと、熱心な討論が行われた。

「隈研吾の作家性」

①今日的つくりこみ

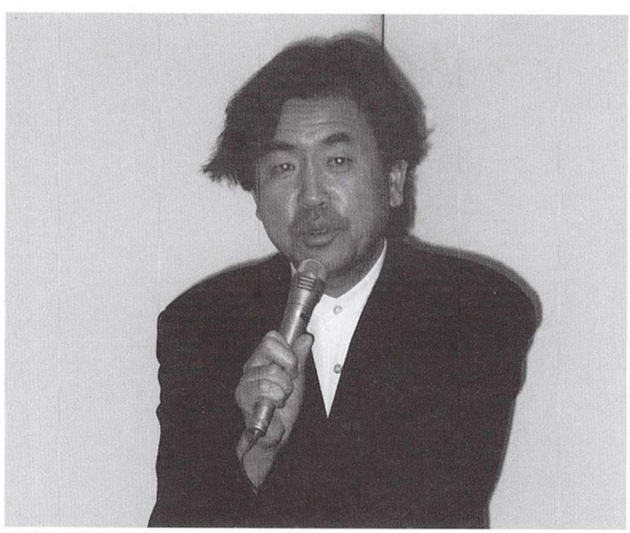
(都市)・山・水・森・川・庭・地下・森・石・木・竹・森。

いきなり唐突な出だしで、この文章をお読み頂いている方々には不親切極まりないのだが、以上がこの日、隈氏の用意したレクチャーの内容の目次である。とは言ってもこれだけでは、何がなんだか解らないはずだから、(もしここで解ったとしたら、あなたはかなりの隈研吾フリークスだろう。)冗長にはなるが、下の句をつなげて下記にもう一度お並べする。

(都市/M2)・山/展望台・水/ガラス・森/舞台・川/フィルター・庭/ベニスビエンナーレ他・地下/汐留美術館・森/慰霊公園・石/倉美術館・木/安藤広重美術館・竹/家・森/愛知万博。

こうすると、ほぼこの日の内容がお解り頂けただろうか。上の句は、私がかってに付けたものもあるのだが、どうかお許し頂きたい。しかしこうして並べてみると、約10年間の隈氏の軌跡が解りやすかろうと思われる。その中でも特に注目すべきは、最初の(都市)以降が全ていわゆる自然的なワードに切替っていることだ。そして更にお断りを入れておかねばならないのは(都市/M2)は今回のレクチャーで話題にはのぼったのではあるが、スライドとヴィデオのヴィジュアルイメージは多分意図的に抜き取られていたことである。1991年の、あまりにも強烈な作品であるM2は、環8通り沿いにスケールアウトしたイオニア式柱頭を冠した姿で、そう言えばたった一つの、都市の中での応答であったのだが、いくら本人が否定してもこの前後で、隈氏に大きな戦略上の変更(転身)があったことは明らかだ。そしてこの日は、その次の目次にある山/展望台から以降の自然的内容にしぼって、今日的につくりこまれたレクチャー(ゲーム)が始められた。

②サービスゲーム



講演中の隈研吾氏

ところで、隈氏の動き(言説)を捉えやすくするためには、この日も話題にのぼった、JT'98年9月号と11月号に寄せられた2つの論文、「脱近代的身体像/伊東豊雄」と、「「批評性」とは何だったのか/隅研吾」を読み比べてみると面白い。隈氏の論文は、伊東氏の論文に応答する形を取っている。奇しくも伊東豊雄氏は、第1回ユニオンフォーラムでご登場頂いているが、危険性を省みずに、非常に単純化してしまって言えば、伊東氏が、「批評(モダニズムのソフィスティケート)よりは、新しい身体像の獲得を」と言っているのに対して、隈氏は、「批評性(古くなった商品)よりも新しい商品開発を」と返しているのである。これは伊東氏が、力を失った最近の若干の住宅建築に対して、あいかわらず古いタイプのもの作りの立場から喝を入れているに過ぎないのに対して、隈氏の方は、もの作りなんかよりもサービスを!経済をよく読んで、戦略を練って、かつてのコルビジェやミースのような鼠講の親分(巨匠)になろう!とチャチャを入れている風に読み取れるのだ。この2つの世代の体温差こそが、この日会場を埋めた、うるさ系もの作りおじさん達と、隈氏との体温差そのものであった気がする。つまり隈氏の要請しているのは、従来の建築家像そのものの変更(転身)であって、しっかりとした市場調査の上に自らをつくりこみ、その上で社会ときちんとコネクトし、ゲームを行おうと言うものだったのだ。その為に用意されるゲーム盤こそが、この日ならべられた、この文章の最初に登場する[(都市)・山・水・森・川・庭・地下・森・石・木・竹・森]で象徴されていたと言えるだろう。

③されど作家性

「今や建築はどこからも要請されない時代」と隈氏が言う最前線では、一般社会にどちらがよりよく開かれサービスしているかが問われる。隈氏は、常に新しい商品開発を目指しながら、私性を押し殺していくポーズをとりつづけて、ゲームを行っているように見える。しかしそんな隈氏の知的でクールな操作の裏側からも、常にあるものが浮かび上がってくるのは否めない。それは「何かしらうすく、もやのかかったようなフィルター、もしくは不毛性」なのだ。ゲーム感覚やパロディー感覚、フィクショナルな身体性をいくら前面に掲げても、これだけは何やらやむにやまれぬコンプレックス(隈研吾の身体性そのもの)のような気がしてならない。それは彼の作品の中では、以下のように現れる。

①物性としてのルーバー(木・竹・石)

②結界としての間

③コンピュータ制御もしくは変換されてしまった情報

これらはいずれも、現物との直接触を拒否している点が重要だ。ヴィデオの逆回しや演劇性の中にもそうした一面が読み取れる。そう考えれば、(都市/M2)も含め彼のやっていることや言っていることがある一貫性を持っていることに気づくだろう。そしてこれこそが人間隈研吾の作家性ではなかろうか。そしてそれが受け入れられている不毛な時代こそが「今」なのかも知れない。

ところで隈氏はこれからどこへ向かうのだろう。ただ一言いえることは、彼の始める新たなゲーム盤でのゲーム(鼠講)に参加する気があるのなら、彼の今後の動向からも目が離さない方がよいということだ。

(もりた まさひろ)

e-mail: morita. masahiroa@takenaka. co. jp

REPORT

竹中の静かな風ー柏木浩一とそのパートナーー

フォーラム「非二元で見た建築価値」

黒田智子
武庫川女子大学生活環境学科講師

写真と文章からなる雑誌というメディアは、マルチメディアが一般化、普及化に向かう現在においてなお、建築業界にとっても、他で代えることの出来ない有効性を保っている。一方、雑誌がメディアであり続けるためには、話題性の名のもとに写真は新しさと美しさを、文章は開かれた議論を提供し続けねばならない。奇妙にも、このことは建築から空間を奪い、欧米のトレンドを国際性と同一視する傾向に大きく荷担してきた。そして、巡り歩き、たたずみ、今この時を実感し、古い記憶や遠い夢と向き合う空間への試みや望みを、設計という行為から確実に駆逐している。しかも、建築固有の価値を次第に冒されながら、このこと自体は、メディア上のメジャーな議論にはならない。それは、言葉にしたとたんに、建築として具体化する方法を自他に問いただされ続ける建築家にとって、幾重にも困難な領域に属することだからである。

柏木浩一氏の講演は、この困難の層をひとつでも多く越え、参加者と共に少しでも核心に向かおうとする試みの場であった。まず、今回のフォーラムのテーマに掲げられた「非二元」の世界観の必要性が語られ、次にその具体化への思索の過程が、「アンカニーなところ」、「おちつく明るさ」、「心身一如」、「一期一会の「空間」」、「簡素即豊か・豊か即簡素」、「余白」を手がかりに、自らの設計である「神戸改革派神学校」をはじめとする様々な事例と共に示された。

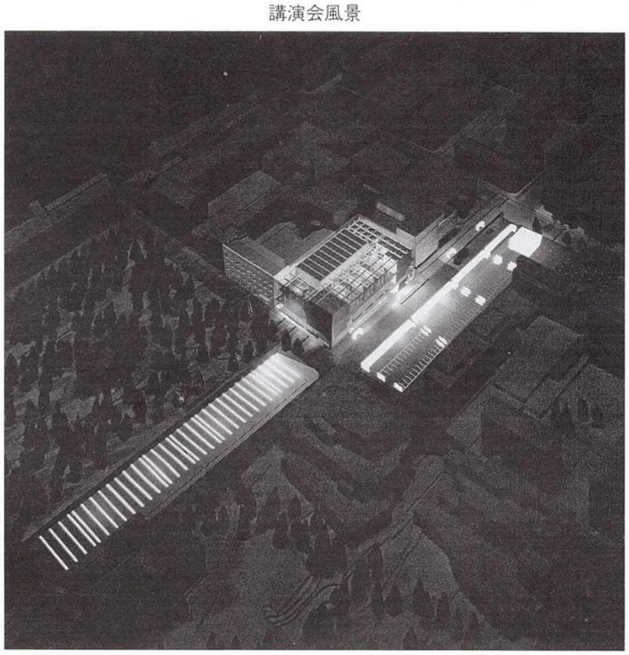
感性の扉を開く装置としての建築――講演において一貫していたのは氏のこの姿勢である。そのためには、西欧のロゴス中心の二元論から、ひいては思考パターンに規定している固定観念や先入観から解放されなければならない。それは、実は特別なことではなく誰にでもできることである。なぜならば、回路が閉ざされているだけで、豊かな感性は本来誰もが持っているものなのだから。――氏はこのことを説明するために芭蕉、テニソンなどの詩歌を引き、人間の脳の構造を示す。感性について語る困難は歴史が証明している。だからこそ様々な表現手段による芸術が存在するのだ。これを承知で敢えて語るとき、思想・哲学のタームを駆使したり、数寄屋などの完成された手法に傾くことは特別な人々にしか理解されない閉じた姿勢をとる危険を招く。誰もが共感する空間について出来るだけ分かりやすい言葉で語るには、まず参加者の理性と感性の回路をチャネリングしなければならない。試みに谷川俊太郎の詩を自ら朗読する氏の姿が、印象に残った参加者は多かったのではないだろうか。

視覚一辺倒ではなく五感を総動員すること――感性の扉を開くために氏が空間に求めるのはこれである。手がかりとされた言葉のひとつ「心身一如」では、歩くという行為、特に意識を足の裏に向け続けることについて語られた。それによって何気なく咲く一輪の花の美しさに目と心を向ける感性の発露があることが、茶道、山登りを例に説明された。さらにこの視点から古今の建築を見ると必ずしも視覚的に目覚ましいものでなくても、このような効果を意図したものが少なくないことも示された。そして、「改革派神学校」においては、矩型の中庭の回廊にあるスロープが事例のひとつとしてとりあげられ、そこを歩いた人々の体験談と共にその効果が語られた。

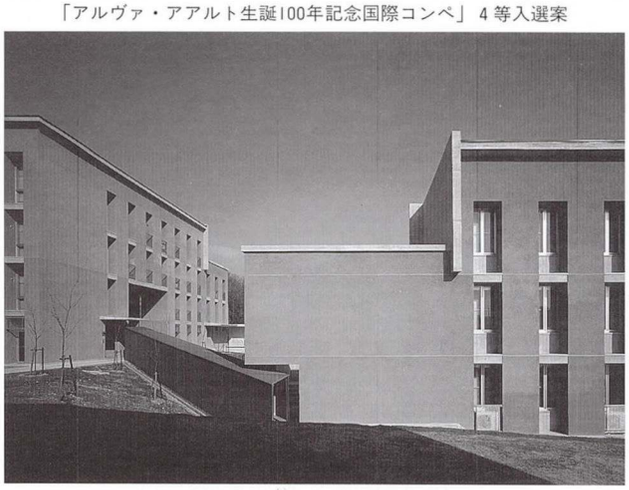
講演は一貫してこのようなスタイルで行われた密度の高いものであった。茶室はまだできないという氏であるが、全ての建築を茶室のように創ることへの決意表明ともとれる内容であった。また、氏が、決して視覚を軽視する建築家でないことは、周知の事実である。



講演会風景



「アルヴァ・アアルト生誕100年記念国際コンペ」4等入選案



神戸改革派神学校　撮影　松村芳治

今後も視覚への探究は続けられるであろう。それと同じ重さで五感への探究が行われ、そこから創造される今後の空間に、方法論の発展と共に注目したい。（くろだ　ともこ）

講演者　柏木浩一（竹中工務店設計部長）
1998年11月20日㈮ユニオンギャラリー／大阪市西区にて

出版委員会企画第18回＜プロのノウハウ＞講座

徹底解説「大改正」建築基準法

山田　修
出版委員長／修建築事務所

表題の講演会が、平成10年12月4日㈮18：00～20：00に当会サロンで開かれました。高木氏は、過去に4回当会で講演をお願いした顔なじみの講師です。


高木任之講師

不況と建基法の政令が出ていないこともあり、参加者の少ないのを案じていました。が、20名の参加者があり、内心ホッとした次第です。高木氏の著書(表題と同じ)をテキストに使いながら、講師の巧みな話術に魅せられ、2時間はアッというまに過ぎ去りました。

三段ロケットの改正

50年ぶりの大改正と前評判のわりには業界は静かである。わたしの講義はむずかしいものではない。気楽に聞いて欲しい。

6/12の官報はよく売れた。大蔵省の売店では売り切れの状況。それが、今回の大改正のせいと思ったが、行政の官庁改正がのっていたからだ。筆者は大改正というから「第一条の目的から変えて欲しい」と思った（失礼）くらいである。

改正の4種は、①建築基準の性能規定化、②建築確認・検査の民間開放、③住宅の単体規定緩和・合理化、④連担建築物設計制度の創設、である。

加えて、三段ロケットの改正（本のロケットのイラストを参照しながら説明）は、第1段ロケット（改正法第1条の規定：上記の③）が平成10.6.12から即施行（点火済）、第2段ロケット（同法第2条の規定：上記の②）が平成11年6月頃施行（点火）、第3段ロケット（同法第3条の規定：上記の①）が平成12年6月頃施行（点火）のため、霧の中で道に迷っているような状況にある。

それにしても、3年間にわたり多くの政令を次つぎと決める側は大変だろうが、これを学び理解するほうはもっと大変である。

4種のポイントを取りあげる

①は、イギリスの性能規定を学びながら作られた（イギリスの性能規定に話がとぶ。グローバルな話は高木氏のお得意芸である)。

今までの仕様規定は寸法が決めてあるだけで、その根拠は不明だった。たとえば、学校の教室の天上高は3m以上（令21条）は根拠がない。3階木柱の小径は13.5cm以上（令43条）は仕様規定で材種は書いていない。キリの柱でもいいのか、となる。このように在来の規定では限界があった。

一定の性能を満たせば、多様な材料・設備・構造が採用できる。これが結果的に設計の自由度につながり、建築コストの低減にもなると思う。

②は、むずかしい問題をたくさん抱えている。いままでの確認・検査は行政でやっていたが、阪神大震災で中間検査の大切さが分かり、今の行政職員の数ではやれなくなった。運輸省では車検→民間業者、警察では運転免許証→教習所、建設省では建築→建築普及センターで行ってきた。だから、確認・検査→民間となった。

民間が確認・検査をすると、現在の手数料ではやっていけない。確認→確認のやり直し→中間検査→完了検査と、みんな手数料がいる。民間機関がミスした場合の処置や補償問題（信託銀行などに任す）等も起こってくるが、今のところ不明である。

③は、住宅居室の日照規定の廃止、採光規定の緩和、地下居室規定の緩和、準防地域での木三共同住宅規制の緩和などだ。

かつては、日照は罰則のない努力規定だった。今は日照への配慮が普及し、存在価値がない。市街地の超高層マンションの設計では当規定が邪魔だった。

高層ビルに上って眺める景色は、北側の窓から見た方がよい。それは建物・樹木が太陽の光を受け輝いているからだ（本のイラストを参照しながら説明)。

④は、市街地の整備改善と土地の有効利用を目ざしたものだ。が、高木氏はこれにはふれず省略された。限られた時間で200頁の本をこなすには適当な処置だった、と考える。

参加者の質問に答える

後半終わりの15分間は、参加者から質問を出してもらい、高木氏が答えられた。

●N・I氏（K電力）―建築材料などには、具体的にどんなものがあるか？

「不燃材料の定義は仕様規定と性能規定の併用となる。どちらかを選ぶ。(中略)改正規定では品名は一切書いていない。改正前はモノゴトの決め方が直観的だった。が、性能規定は未来に対する広がりがある」

●N・K氏（N設計）―民間主事による確認・検査業務は、どのようになるのか？

「民間機関は建築関連業界が共同で設立した会社である。建築事務所との兼用はダメで公平中立性が必要だ。住宅メーカーのなかには全国規模でやりたい、との声を聞くが無理ではなかろうか。民間の動きは不明で、運用方法も未知である」

●Y・O氏（T工務店）―大改正とISO、PL法との関係はどうか？

「ISOとはまったく無関係だ。PL法は不動産だから関係がない。しかし住宅だけはPL法よりも厳しいものを作ろうとしている。

法律のことばは、民法がからみむずかしい。これで弁護士・検察官が争い裁判官が判定をくだす。法律は厳しくするほど紛争がふえるものだ」

まだ、質問をしたい方がおられたが、定刻になったので、司会者が閉会とした。とても味と実のある講演会だった。

（やまだ　おさむ）



日　時　1998年12月4日㈮　18：00～20：00
会　場　日本建築協会サロン
講　師　高木任之氏（日本木造住宅産業協会専務理事）
参加者　20名

230

高性能複合外壁システム

NSパネル

株式会社ノザワ
東京都中央区銀座2-15-2
TEL03-3542-6111／FAX03-5550-8336
三協アルミニウム工業株式会社
富山県高岡市早川70
TEL0766-20-2201／FAX0766-20-2033

はじめに

中空断面を2段に設けた押出成形セメント板（厚さ100㎜）を使用した横連窓タイプのカーテンウォールである。

押出成形セメント板の精度の良さと、成形の自由さにより、アルミパネル同等の平滑さと水密性能の確保を狙っている。

本システムでは、専用設計されたアルミサッシと押出成形セメント板を組み合わせている。パネル相互のジョイント部分とサッシとパネルのジョイント部分にガスケットを使用した等圧工法を採用することにより、高い水密性能と完全な乾式工法を実現している。

従来、サッシと外壁パネルの取り合い部分を完全に標準化したものはなく、外壁を構築する場合の、取り合い精度の向上や施工性の向上にも寄与すると思われる。

概　要

対象：中高層建築物
材質：押出成形セメント板及びアルミサッシ
仕上：工場フッ素樹脂塗装
寸法：標準寸法　w1200×L3600×T100
耐風圧性能……正圧　3600Pa／負圧　5000Pa
水密性能……2850Pa
耐震性能……1/100rad

特　徴

等圧機構の採用で高い水密性能を実現

サッシ、押出成形セメント板のシステム化により、目地部の高水密性能を可能にした。押出成形セメント板パネル（厚さ100㎜）として初めて「等圧機構」をサッシ・パネル間およびパネル間目地双方に採用。レインバリア、ウインドバリア共ガスケットを採用し完全な乾式化をはかっている。

押出成形セメント板2段中空形状によりサッシの直付けが可能

押出成形セメント板等コンクリート系パネル開口部は、従来開口補強材（鉄骨枠）が必要であったが、本パネルは2段中空形状にし強度を高めることで、パネルにサッシ固定ブラケットを取り付け直接サッシを留め付けることができる。足場や特殊技能は不要で、内部から安全を確保しスピーディーな施工が可能となる。

ライフサイクルコストの低減

「低汚染型フッ素樹脂塗装」をパネル、サッシともに採用することにより高い耐久性を確保すると共に雨筋汚れを防止する。また、目地部にガスケットを採用した乾式目地のためシール等による汚れが生じず外壁を汚しにくい。

アルミパネル同等の仕上がり感と耐火構造対応

押出成形セメント板特有の面精度とフッ素樹脂メタリック塗装の融合により、アルミパネル同等の仕上がり感が実現できる。また、耐火構造壁であることから後工程の省力化が可能となる。

（猪野達雄／建材委員）

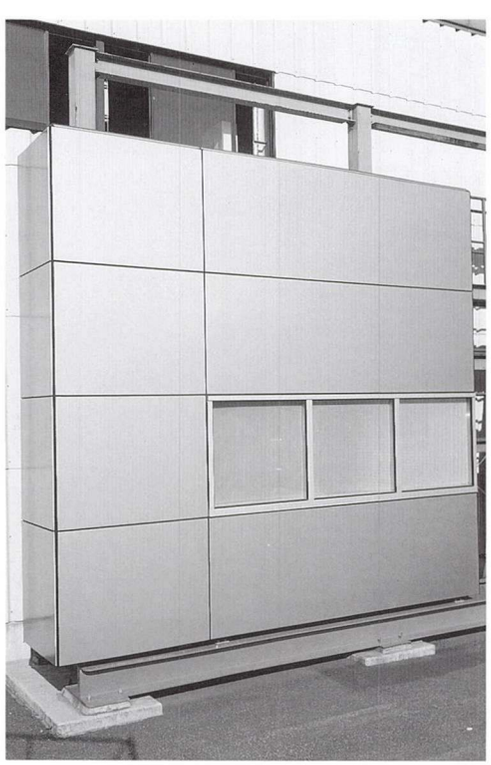


写真1　パネル・サッシ全景

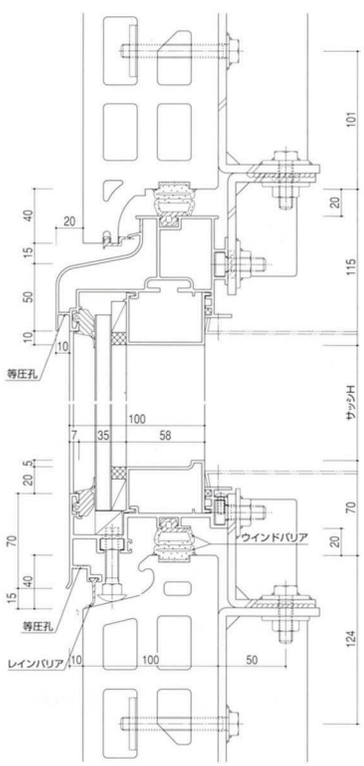


図1　サッシ縦断面

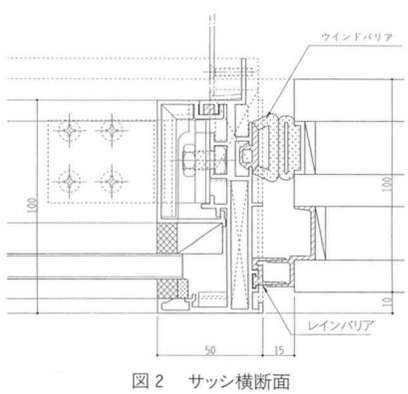


図2　サッシ横断面

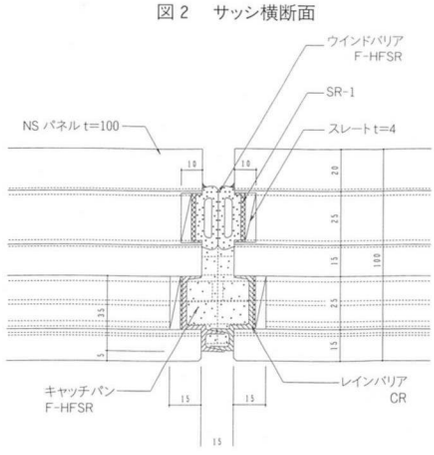


図3　パネル縦目地部

日本建築協会

月間の動き

【平成10年11月分】

理事会

第４回常任理事会
18日　４時～４時50分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか14名
議　事　(1)平成11年度の評議員定数の件
　　(2)入・退会者承認の件
　　(3)報告事項

第７回会勢理事会
18日　３時～４時・於本会会議室
出席者　岡本、錢高（代塩脇）両副会長ほか４名
議　事　入・退会状況報告と今後の進め方

編集委員会

第４回施工材料分科会
５日　４時～６時・於本会会議室
出席者　十倉幹事ほか４名
議　事　(1)施工材料特集の企画
　　(2)「施工材料の頁」の企画

第６回会員企画小委員会
10日　７時～８時・於本会会議室
出席者　塚口副委員長ほか２名
議　事　シリーズものの報告と掲載予定

第６回素材と技術が生み出すデザイン幹事会
11日　６時30分～８時30分・於本会会議室
出席者　大谷幹事ほか３名
議　事　12、１、２月号のテーマの内容検討

第７回広告企画小委員会
12日　５時～６時・於本会会議室
出席者　内田委員長代行ほか４名
議　事　(1)12月号「第45回青年技術者」「ＪＲ西日本」特集広告経過報告
　　(2)１月号「らしさのデザイン」「九州」特集・「謹賀挨拶」広告経過報告
　　(3)２月号「都市のパブリック」「大阪市都市整備局」特集広告経過報告
　　(4)独自特集企画経過報告
　　(5)作品作風
　　(6)平成11年度新建築調査の方法について
　　(7)収支状況報告

第８回編集委員会
12日　６時～８時30分・於本会会議室
出席者　内田委員長代行ほか６名
議　事　(1)12月号「第45回青年技術者」「ＪＲ西日本建築作品」特集経過報告
　　(2)１月号「らしさのデザイン」「建物を綾どる小粋なモノ」特集経過報告
　　(3)２月号「都市のパブリック」「大阪市都市整備局」特集経過報告
　　(4)３月号「北信濃：街並み修景と地域文化の再構築」特集経過報告
　　(5)５月号「関西建築界の流れと東畑謙三氏の足跡をたどる」特集経過報告
　　(6)シリーズ頁経過報告
　　(7)表紙改訂について
　　(8)収支状況報告

第８回法令分科会
18日　２時～３時45分・於本会会議室
出席者　炭崎幹事ほか２名
議　事　(1)改正建築基準法特集の企画
　　(2)「法令コーナー」の企画

第８回設備分科会
24日　６時30分～８時・於本会会議室
出席者　山根幹事ほか５名
議　事　(1)設備特集の企画
　　(2)「設備の頁」の企画
　　(3)「基礎講座」の企画

第６回作品作風小委員会
26日　７時～９時・於本会会議室
出席者　前川副委員長ほか３名
議　事　(1)作品の掲載状況・掲載予定の報告
　　(2)作品の選定
　　(3)「gallery」「SKETCH BOOK」報告・予定
　　(4)11月号「会員作品」特集の反省

事業委員会

第７回若い会員の集い小委員会
５日　７時～８時50分・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか２名
議　事　(1)実施報告
　　(2)今後の予定
　　(3)「30's EYE 過去30回のまとめ」
　　(4)当小委員会の今後のあり方、及び新しい名称

第５回情報小委員会
11日　６時～８時５分・於本会会議室
出席者　川村副委員長ほか10名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
　　(2)実施報告と今後の予定
　　(3)写真研修会・同好会

第５回見学会小委員会
12日　６時～７時40分・於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか10名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
　　(2)新任委員の挨拶
　　(3)実施報告と今後の予定
　　(4)今後の見学会の候補

第５回事業委員会
18日　６時～７時40分・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか10名
議　事　各小委員会からの報告と検討

第２回30's EYE 記録編集分科会
18日　７時30分～10時・於本会会議室
出席者　米井主査ほか４名
議　事　(1)確認事項
　　(2)スケジュール、内容

出版委員会

第７回出版委員会
19日　５時30分～６時45分・於本会会議室
出席者　安達委員ほか６名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
　　(2)今後のテーマと執筆者選定
　　(3)第18回〈プロのノウハウ〉講座実施報告

教育委員会

第44回工高生デザインコンクール表彰式
14日　２時～４時
出席者　本多審査委員長　吉村審査委員
　　片倉教育委員長ほか教育委員５名
　　入選者９名及び引率者４名
議　事　入選者の表彰及び茶話会

見学会

茶室見学会（第11回）八幡の松花堂
21日　１時30分～４時・参加者27名
まちなみ見学会（第１回）富田林寺内町
26日　２時～５時・参加者10名

建築クラブ

第319回朝食会
10日　８時30分～10時・於リーガグランドホテル
演　題　「瓦よもやま話」
講　師　上田栄一氏（㈱大佛代表取締役）
　　（日本伝統瓦技術保存会会長）

建築クラブ役員会
12日　12時30分～１時30分・於本会会議室
出席者　田村委員長ほか７名
議　事　(1)新年宴会の件
　　(2)第322回以降の例会講師の件
　　(3)平成10年度収支予算執行状況

80年史編纂委員会

９日　４時～７時・於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか５名
議　事　80年史編纂について

入会者（敬称略）

〔団体会員２社〕
中田建設工業㈱　　旭商事㈱

〔個人会員11名〕

小林　道雄（前田建設工業）	硯　徳重（前田建設工業）	関　圭二（前田建設工業）
橘　良信（前田建設工業）	河口　允昭（戸田建設）	柴田　良紀（戸田建設）
深谷　守彦（戸田建設）	下河内　勇（アーキテスコ）	久安　典之（長　工）
船越　千鶴（三菱電機照明）	水谷　仁美（澤田建築事務所）	

［訂正］
本誌平成11年１月号「構造の頁」（Ｐ56）の執筆者の職を下記のように訂正いたします。
古平章夫氏
㈱新都市ハウジング協会**CFT耐火設計審査専門部会長**
中島將好氏
㈱新都市ハウジング協会**常任理事・技術管理部長**

「アントニン・レーモンド展」



軽井沢の第2スタジオ

日本の近代建築の発展に大きく寄与した建築家アントニン・レーモンド（1888〜1976）が没して20年余りが過ぎた。しかし展覧会はそう多くは開催されていない。レーモンドが設計し現在も住み続けられている住宅を中心に、12の作品を通して、彼の建築の魅力を多くの人々に理解してもらおうと、ギャルリー・タイセイの展覧会が企画され、3〜5月に開催される。

会　期　1999年3月1日(月)〜5月14日(金)
10：00〜17：00　土日祝日と4月30日は休廊
会　場　大成建設ギャルリー・タイセイ
東京都新宿区西新宿1-25 新宿センタービル
TEL03-5381-5510、FAX03-5381-5511
内　容　新建築社撮影の写真42点、図面数点、リーダーズダイジェスト東京支社の模型1作、ノエミ夫人とともにデザインしたインテリア家具。

取り上げる建築は、①霊南坂の自邸、②イタリア大使館山荘、③東京ゴルフ倶楽部、④トレッドソン邸、⑤軽井沢の「夏の家」、⑥東京女子大学礼拝堂及び講堂、⑦小寺別邸、⑧リーダーズダイジェスト東京支社、⑨カニンガム邸、⑩聖アンセルモ教会、⑪新発田カトリック教会、⑫軽井沢の第2スタジオ。

シンポジウム「建築家教育」

今、建築家を育てる新しい方法の可能性を求めて、若い世代の建築家たちが大学で教鞭を取り始めた。彼らが挑戦する方法とは？

コーディネーターは古谷誠章氏（早稲田大学）。

●「教壇に立たない教育」
日　時　1999年2月23日(火)　18：30〜20：30
パネラ　塚本由晴氏（東京工業大学）
宮本佳明氏（大阪芸術大学）

●「立地を超えた教育」
日　時　1999年3月2日(火)　18：30〜20：30
パネラ　小嶋一浩氏（東京理科大学）
石田壽一氏（九州芸術工科大学）

いずれも参加費は1000円。申し込みは所要事項を記入してFAXで、主催者の東京デザインセンターの建築セミナー係（FAX03-3445-1125）へ。

徳岡昌克展覧会・講演会

九州支店設計部長を最後に竹中工務店を退社し、徳岡昌克建築設計事務所を1983年に創設した徳岡昌克氏が、「建築―生き様のデザイン」をテーマに自作を語る。なお、徳岡昌克作品集『建築―生き様のデザイン』は彰国社から刊行・発売中。定価￥3,200（税込み）。

■大阪展
日　時　1999年2月7日(日)〜2月20日(土)
11：00〜20：00　休館日2月16日、2月17日
会　場　ハービスPLAZA（ハービスOSAKA内）
4階・グリーンアートギャラリー／入場無料
内　容　竹中工務店時代、そして事務所創設15年間の代表作―稲沢市荻須記念美術館、志賀町民センターなど―を写真パネル、模型により展示。

■講演会
日　時　1999年2月10日(水)　18：30〜20：30
会　場　朝日生命ホール（地下鉄御堂筋線淀屋橋駅）
参加費　1000円
申込先　FAX or ハガキで所要事項を明記し、徳岡昌克講演会実行委員会（〒540-0011 大阪市中央区農人橋2-1-10 FAX06-6943-7103）へ。

ゼミ「テーマのある住まい」

明確なテーマのある住まい、例えば音楽と共にある住まい、バリアフリーの住まい、素材感を生かした住まいなど…、こんな住まいを超えた住まいを求めて設計活動を展開する行動派の設計者が、最新の活動を語る。

●1999年2月26日(金)　18：45〜21：05
「建築の鼓動」／新田正樹氏（新田正樹建築空間アトリエ）

●1999年3月5日(金)　18：45〜21：05
「決めないということ」〜いくつかの家族像と住空間〜／吉井歳晴氏（WIZ ARCHITECTS）

●1999年3月12日(金)　18：45〜21：05
「領域・身体・笑い」／中村勇大氏（中村勇大アトリエ）

会　場　大阪ガスインテリアデザインスクール教室
大阪市中央区備後町3-6-14
定　員　30名（定員になり次第締め切り）
受講料　20000円（消費税込み）
申込先　FAXまたは郵送で、上記主催事務局（TEL06-6262-4089、FAX06-6262-7202）へ。

「グラスゴー1999」

1999年、スコットランドのグラスゴーは英国の「シティ・オブ・アーキテクチャー・アンド・デザイン」に選ばれ、建築とデザインの祝典の舞台となって、F.L.ライト、C.L.マッキントッシュ、そしてスコットランドの無名かつ偉大な建築家であるアレキサンダー・グリーク・トンプソンの作品の公開展示をはじめ、食やファッション・自動車のデザインが展示される。

● The Lighthouseでの催し
この建物は、チャールズ・レニー・マッキントッシュが手がけた元ヘラルド社本社で、建築家Page & Parkとインテリアデザイナー Javier Mariscalの手で改修され、1999年5月に完成する。改修された建物内の二つの大きなギャラリー、小さな展示場、そして100席収容の会議場では6月から、デザイナーによるレクチャー、ワークショップが定期的に開かれる。また、建築とデザインの街グラスゴーの過去・現在・未来に焦点を当てたツアー（実際とバーチャルのツアー）の開催も予定されている。

● The Homes for the Futureの一般公開
世界中の建築家による、未来のあるべき住環境を実現した建物で、都市生活の変化（家族構成の変化、環境やエネルギー消費への配慮）に、あらゆる技術を駆使して対応していく方法を探る。
一般公開は1999年6月1日〜9月31日で、インテリアや家具に限られる。

「グラスゴー1999」の詳細は、英国政府観光庁マーケティング部・竹島広報担当（TEL03-5562-2545）へ。
ホームページ http://www.glasgow1999.co.uk。

宝塚音楽学校の保存・再生を

1936年に竣工した宝塚音楽学校の校舎は、1897年にウィーンで結成されたセセッションの理論を取り入れ、外観はブリュッセルにあるストックレー邸（1911年竣工、ホフマン設計）に似て、装飾には特に強い意欲が注がれている。

昨年末、この宝塚音楽学校の建て替えが発表されたが、明治建築研究会では兵庫県知事と宝塚音楽学校長あてに年頭に、この近代建築の保全・再生への格別の配慮を願う要望書を提出した。

『21世紀へ保存したい近代建築100選』公募

大阪府民に親しまれている明治、大正、昭和戦前の近代建築を後世へ保存していくため、明治建築研究会は残したい建物の推せんを呼びかけている。

推せんされた近代建築を100選し、明治建築研究会は大阪府や文化庁へ登録文化財への選定を働きかける。

応募期間　1999年1月8日(金)〜4月30日(金)
記入項目　①建築名称、所在地、建築年代や構造
②その建築を推せんする理由や思い出

＊重要文化財や登録文化財として保存が決定したものを除く。
＊大阪府下に現存する明治・大正・昭和戦前に限定。
＊ハガキに3件まで書いて、明治建築研究会（堺市大美野155-13、〒599-8126、TEL0722-36-3357）へ郵送。
＊応募者の中から抽選で10名に、近代建築の描かれたテレフォンカードを進呈。応募者は、郵便番号、住所、氏名を明記すること。



元建材委員長・顧問

堀内三郎先生を偲んで

元木貞次

昨年10月9日急逝された日本防災界の権威であり、当会の元建材委員長堀内三郎先生に対し喪心よりお悔やみ申し上げます。

先生は京大、関大教授を経て今日に到るまで生涯を建築防災の研究に没頭され、消防庁、防災センター等の大先輩として活躍されたことは周知のことであります。

その間、昭和13年京大卒業後、大阪府警察部建築課に就職されると同時に社団法人日本建築協会に入会され、建築行政に携わりつつ当会建材委員会委員として専門的立場で適切な意見を出されて注目されていました。昭和39年建材委員長に就任され昭和48年関大の山田幸一先生に引き継がれる迄約10年間、国内外の新建材の開発に伴う審査や「建築と社会」誌への紹介掲載など業界の発展のため尽力されました。委員長退任後も引き続き顧問として委員会へ出席しておられましたが、昭和60年、日本火災学会会長に就任されてからは全国に渡って足を運ばれ防災の研究に尽力され、一方、地元京都でも、京都府建築審査会、京都市住宅審議会、京都府街づくり審議会、建築研究会等の要職につかれ、消防、防災に関する技術の発展に大きな役割を果たされました。

平成4年6月開催の建材委員会に久しぶりに出席された先生は、当日の検討建材として紹介された“簡易型自動消火装置”には非常に興味をもたれ、詳細な説明を聞いたのち、是非これを普及させたいと熱心に推挙されたことが委員一同強く印象に残っています。委員会への出席はこれが最後になりました。

承れば先生は日頃のご活躍の反面幼少より幾度かの大病に苦しまれながら自らの努力により克服され82歳の長寿を全うされたことは、青春時代、軍人として工兵4連隊を母体とした約7年間の軍隊体験が強靱な心身を鍛練されたものと推察いたします。

先生は80歳記念に自伝「私の80年の記録」を出版され、後輩への指針として発表されましたが、その内容を拝読すると、先生の明晰な知識と友情にじむ心情に感銘し、満腔の敬意を捧げます。

ここに、業績の一部を参考に遺しますと、

1959　都市消防力の決定方法に関する研究 ……日本火災学会賞
1961　都市消防施設に関する研究 ……工学博士号（京大）
1964　日本建築協会建材委員会委員長
1977　都市防災分野における学術研究体系化とその地域防災計画への応用に関する一連の研究 ……日本建築学会賞
1979　京都大学名誉教授
1985　日本火災学会、会長
1989　勲3等旭日中綬賞
1998　京都市自治100周年記念特別功労者表彰 ……京都市
1998　叙正四位
1998　堀内先生を偲ぶ追悼会 ……消防庁、防災センター

最後に、過日日本建築協会建材委員会の名代としてご霊前に額ずき、先生のご冥福を心からお祈りいたしました。　合掌

（建材委員会副委員長）

世界遺産を巡る(2)「洛西」

世界遺産に登録された京都の建造物を巡る旅の2回目は洛西。コーディネーターは、京都府文化財保護課在籍中に文化財の管理・保護に携わってきた後藤佐雅夫氏。宮司や住職にも話を聞く。昼食は花園会館で。

日　時　1999年 2 月21日(日)　集合8：00厳守
　　集合場所：新大阪駅1階団体待合室
見学先　松尾大社、妙心寺、仁和寺（観光バス利用）
参加費　7,000円
申　込　近畿建築士会協議会（〒540-0011 大阪市中央区農人橋2-1-10、TEL06-6947-1961、FAX 06-6943-7103、郵便振替00940-4-36100、銀行振込：大和銀行久太郎町支店・普通預金口座130325）へハガキかFAXで。

『LANDSCAPE LIGHTING DESIGN BOOK』発刊

ドイツのカルウェイ出版より年4回発刊されているランドスケープの専門誌『Topos』の日本語版発行元：ALS景観デザイン研究所が、カルウェイ出版とのコラボレーションにより『Topos』の特別版を昨年10月に発刊した。

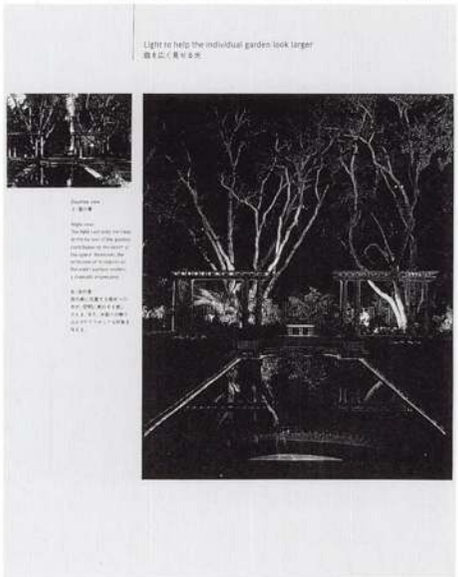
この『LANDSCAPE LIGHTING DESIGN BOOK』は、ALS景観デザイン研究所やヤマギワで手掛けた日本国内のプロジェクト例も含めて写真を多用し、プライベートスペースからパブリックスペースまでの照明計画、ランドスケープにおけるライティングデザインのベーシックな考え方をビジュアルに提案している。

定価／3500円(税込み)、文章／日本語・英語、サイズ／235mm×310mm・130p。

南洋堂、八重洲ブックセンター、青山ブックセンター、デザインブックス、ブックスTOTO、メディアショップ、柳々堂ほかで本書を取り扱っている。

問い合わせは、㈱ＡＬＳ（エーエルエス）景観デザイン研究所（TEL03-5210-5840、FAX03-5210-5841）へ。

『LANDSCAPE LIGHTING DESIGN BOOK』より



「ワールドアートブックバザール」ー丸善・Bunkamuraー

世界十数カ国の新刊美術書を中心に2万タイトル・10万冊以上を集めて開かれる9回目の「ワールドアートブックバザール」では絵本、建築、インテリア、デザイン、ポスター、ファインアートなどが展示即売され、洋雑誌のバックナンバーも半額で登場。



会場　Bunkamura ザ・ミュージアム（ＢＩＦ）
　　ガーデンフロア　TEL03-3477-9111
　　東京都渋谷区道玄坂2-24-1
会期　1999年 2 月20日(土)～ 2 月28日(日)
　　11：00～19：00　金曜・土曜は20：00まで

特 集
大阪市都市整備局

協賛

建築設計事務所

株式会社石本建築事務所　大阪市中央区南本町2-6-12 サンマリオン大阪　TEL06-6251-7507

NTTファシリティーズ 関西支店 一級建築士事務所　大阪市中央区博労町2-1-13 アーバンエース本町ビル　TEL06-6267-7035

株式会社遠藤剛生建築設計事務所　大阪市北区紅梅町3-4　TEL06-6356-1250

株式会社坂倉建築研究所大阪事務所　大阪市西区京町堀1-15-7　TEL06-6443-0021

株式会社昭和設計　大阪市港区弁天1-2-1-800　TEL06-6575-5555

株式会社総合設備コンサルタント大阪事務所　大阪市西区西本町2-1-30 松菱ビル　TEL06-6532-1271

株式会社双星設計　大阪市北区茶屋町18-21 豊崎ビル　TEL06-6373-2281

株式会社東畑建築事務所　大阪市中央区伏見町4-4-10　TEL06-6202-0391

株式会社ニュージェック　大阪市中央区島之内1-20-19　TEL06-6245-4901

株式会社日建設計　大阪市中央区高麗橋4-6-2　TEL06-6203-2361

株式会社日本設計関西支社　大阪市中央区淡路町3-3-7　TEL06-6201-0321

株式会社山下設計関西支社　大阪市中央区南船場2-3-2　TEL06-6260-0581

鹿島建設株式会社関西支店　大阪市西区阿波座1-3-15　TEL06-6536-3311

株式会社金剛組　大阪市天王寺区四天王寺1-14-29　TEL06-6779-7731

株式会社錢高組大阪支社　大阪市西区西本町2-2-11　TEL06-6531-6431

大成建設株式会社　大阪市中央区南船場1-14-10　TEL06-6268-8500

高岡建設株式会社　大阪市西区南堀江3-10-12　TEL06-6532-4951

株式会社竹中工務店　大阪市中央区本町4-1-13　TEL06-6252-1201

大末建設株式会社　大阪市福島区福島6-8-10　TEL06-6456-3758

東急建設株式会社　大阪市北区豊崎3-19-3　TEL06-6377-6513

戸田建設株式会社大阪支店　大阪市西区西本町1-13-47　TEL06-6531-6095

株式会社フジタ大阪支店　大阪市北区堂島2-1-16　TEL06-6348-4510

株式会社藤木工務店　大阪市中央区常盤町1-3-8　TEL06-6966-0400

不動建設株式会社　大阪市中央区平野町4-2-16　TEL06-6201-1121

三井建設株式会社大阪支店　大阪市中央区本町4-4-25　TEL06-6243-3418

株式会社森組　大阪市中央区道修町4-5-17　TEL06-6201-2761

建設業

株式会社淺沼組　大阪市天王寺区東高津町12-6　TEL06-6768-5222

株式会社大橋組　大阪市東成区中本3-17-8　TEL06-6981-5021

株式会社大林組　大阪市中央区北浜東4-33　TEL06-6946-4400（番号案内）

株式会社奥村組関西支社　大阪市阿倍野区松崎町2-2-2　TEL06-6621-1101

電気・空調・衛生設備業

エルゴテック株式会社（旧社名 トーヨコ理研）　大阪市西区阿波座2-4-23　TEL06-6538-8613

鳳工業株式会社　大阪市北区堂島2-3-23　TEL06-6344-4788

川北電気工業株式会社大阪支社　大阪市西区京町堀1-7-11　TEL06-6441-3905

特集
大阪市都市整備局

協賛

株式会社きんでん大阪支社　大阪市北区末広町2-10　TEL06-6367-9212

株式会社九電工大阪支店　大阪市北区豊崎5-6-2 北梅田大宮ビル　TEL06-6374-6480

三建設備工業株式会社大阪支店　大阪市北区紅梅町3-5　TEL06-6355-2301

株式会社三晃空調大阪本店　大阪市北区西天満3-13-20　TEL06-6363-1371

株式会社三興社　大阪市中央区北浜3-6-13 日土地淀屋橋ビル　TEL06-6205-3671

株式会社三冷社関西支社　大阪市西区京町堀2-9-8　TEL06-6446-0901

株式会社清水工業所　大阪市北区豊崎1-11-19　TEL06-6372-2851

株式会社スイタ情報システム　大阪市北区大淀中2-1-1　TEL06-6453-9431

株式会社精研　大阪市中央区瓦屋町2-11-16　TEL06-6768-5033

ダイダン株式会社大阪本社　大阪市西区江戸堀1-9-25　TEL06-6441-8231

第一工業株式会社大阪支店　大阪市北区西天満3-6-14　TEL06-6364-6661

株式会社中電工大阪支店　大阪市北区南森町2-2-9　TEL06-6362-8651

朝陽電気株式会社　大阪市北区中之島3-2-4　TEL06-6385-1361

株式会社トーエネック大阪本部　大阪市淀川区新北野3-8-2　TEL06-6305-2181

株式会社西原衛生工業所大阪店　大阪市北区中津6-8-4　TEL06-6458-3625

株式会社日鉄エレックス大阪支店　大阪市西区京町堀1-3-13 辰巳ビル　TEL06-6445-5250

建材メーカーその他

株式会社エービーシー商会　大阪市中央区大手前1-7-31 OMM ビル8F　TEL06-6944-4900

エスケー化研株式会社大阪支店　大阪府茨木市中穂積3-5-25　TEL0726-21-7721

オーシー建材工業株式会社　大阪市大正区南恩加島7-1-55　TEL06-6556-2040

大阪ガス株式会社営業計画部都市エネルギーチーム　大阪市中央区平野町4-1-2　TEL06-6205-4670

大阪ニチマン商事株式会社　大阪市城東区関目1-21-11　TEL06-6939-3521

大関化学工業株式会社大阪支店　大阪市西区西本町1-10-10 西本町全日空ビル10F　TEL06-6538-1841

川鉄アルミニウム工業株式会社　大阪市西区靭本町1-15-1ディバージョンパークビル　TEL06-6443-4040

関西電力株式会社お客様本部　大阪市北区堂島浜1-4-4 アクア堂島東館18階　TEL06-7501-0216

関西ペイント株式会社　大阪市中央区伏見町4-3-6　TEL06-6203-5012

株式会社キョーワナスタ　大阪市北区芝田2-7-18 全日空ビル新館3F　TEL06-6377-8371

三晃金属工業株式会社大阪支店　大阪市中央区北浜4-1-21 住友生命淀屋橋ビル　TEL06-6231-8571

三精輸送機株式会社　大阪府吹田市江坂町1-13-18　TEL06-6385-5624

住友重機械工業株式会社　大阪市中央区北浜4-5-33 住友ビル　TEL06-6223-7202

株式会社高島屋建装事業本部　大阪市浪速区日本橋3-5-25　TEL06-6632-3190

テクノ・ナミケン株式会社　大阪市西区新町1-4-26 栄泉四ツ橋中央ビル　TEL06-6533-3855

東リ株式会社　大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル　TEL06-6943-1645

ナカ工業株式会社大阪支店　大阪市淀川区田川3-9-36　TEL06-6886-8961

ニチアス株式会社大阪支社　大阪市中央区南船場4-11-10　TEL06-6252-1301

フジテック株式会社大阪支社　大阪市西区靭本町1-7-4　TEL06-6441-8521

株式会社富士通ビジネスシステム　大阪市北区堂島1-5-17 堂島グランドビル　TEL06-6343-2626

松下電器産業株式会社公共システム営業本部関西支店　大阪市中央区城見2-1-61 ツイン21ナショナルタワー18F　TEL06-6949-2282

Kinden CORPORATION

May I Help You?

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん ネットワーク工事担当
架空配電設備
地中配電設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 電力工事担当
発・変電設備
架空送電設備
地中送電設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 情報通信(広域)工事担当
CATV設備
移動体無線通信設備
光通信設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 情報通信設備(構内)担当
データ通信設備
統合ネットワーク設備
LAN設備　構内映像設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 内装設備担当
システム天井
OAフロア インテリア内装
小規模建築

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 空調・衛生設備担当
空気調和設備
給排水・衛生設備
クリーンルーム設備
公害処理設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 一般電気設備担当
ビル電気設備
工場電気設備
施設電気設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 計装設備担当
ビル計装設備
工場計装設備
パワープラント計装設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 国際事業担当
アジアエリア
太平洋エリア
中近東エリア
他海外ネットワーク

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん エネルギー有効利用システム担当
地域冷暖房設備
コージェネレーション設備
氷蓄熱空調設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 防災・防犯設備担当
自動火災報知設備
避難誘導設備
防犯設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん 新エネルギーシステム担当
太陽光発電設備
燃料電池発電設備

Kinden CORPORATION 株式会社きんでん ファシリティ・マネジメント担当
設備診断
設備改善提案
リニューアル・メンテナンス

きんでんがお手伝いできることは結構多い。

私たちの事業分野にご注目ください。すでにご存じの人もいらっしゃるでしょうが
おや、こんなこともやっていたのかという人もいらっしゃるはずです。
きんでんは、「情報」「エネルギー」「環境」をテーマに技術領域を拡げ
それらの技術を有機的に結合させることで新たな価値を創造する
総合設備エンジニアリング事業を展開しています。
そのなかで生まれたのがこれらの事業です。その多彩さは
きんでんが現代の都市や社会が求めるニーズにフレキシブルにお応えしている証と言えるでしょう。
今日の都市をより豊かにするために、明日の社会をさらに創造的にするために。
私たちきんでんが、いろいろとお手伝いしていきたいと思います。

いろんな技術が集まって、きんでんです。

株式会社 きんでん
本　店 大阪市北区本庄東２丁目３番41号
東京本社 東京都品川区東五反田５丁目25番12号

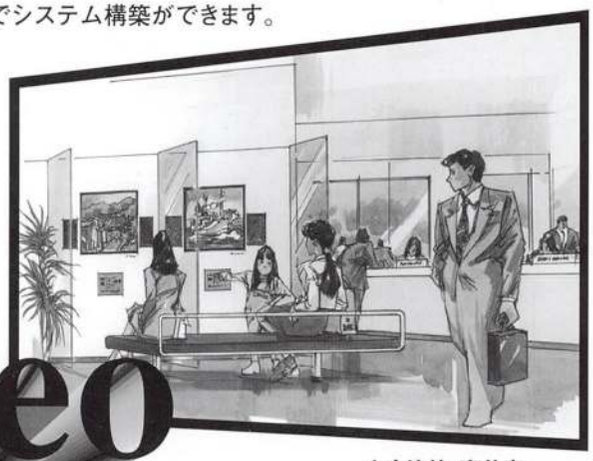
国内事業所185ヵ所／海外事務所12ヵ所／国内関係会社19社／海外関係会社4社／海外合弁会社7社

Panasonic

見たい情報を素早くオン・デマンド
パナソニックVODシステム＝D-MAVIS（デジタル メイビス）

D-MAVISは複数の端末からのリクエストに応じて「オン・デマンド＝望みのままに」同時に番組を送出できるVODシステムです。
「簡単操作で誰もが利用できる、ローコストのVODシステムを！」という社会のニーズに応えて開発したシステムで、サーバーユニットの出力はNTSC／ステレオ信号ですから、既設のAVネットワーク（同軸ケーブル）やテレビを活かしてローコストでシステム構築ができます。





Video on Demand

◆美術館・博物館：
映像展示・AVライブラリー・映像データベースシステムとして

◆自治体・官公庁：
地域情報発信広報システムとして

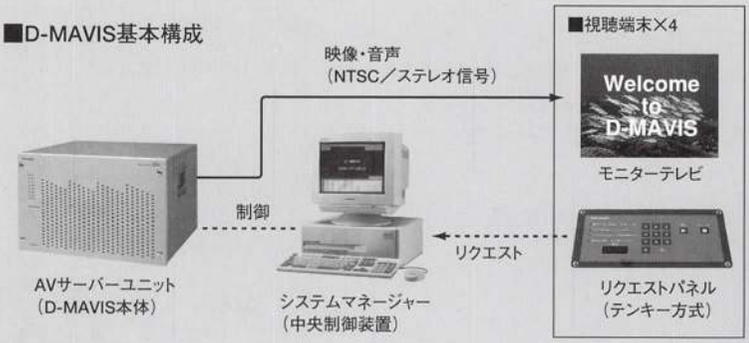
◆小中学校・高校・大学：
ビデオ図書館システム・個別学習支援システムとして



◆生涯学習センター：
マルチメディア時代の生涯学習システムとして



■D-MAVIS基本構成



■リクエストに即座に応答。
■複数リクエストにも同時に送出。
■映像情報をデジタル化して蓄積・送出。
■MPEG2で高画質、画質劣化なし。
■マルチメディアVODへの第一ステップ。

デジタル-メイビス
D-MAVIS

■D-MAVISについてのお問い合わせは…… 松下電器産業株式会社 ビデオシステム事業部 〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 TEL 大阪(06)6901-1161

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　市　川　　宏
取締役社長　真　塚　達　夫

本社・大阪事務所　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号　電話(06) 6202－0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号 (永田町ビル)　電話(03) 3581－1251
名古屋事務所　名古屋市中区錦1丁目13番26号 (三井生命伏見ビル)　電話(052) 223－3931
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1 (福岡センタービル)　電話(092) 472－8737


（仮称）大阪市立新博物館・考古資料センター

環境とまちづくり

NIHON SEKKEI
株式会社 日本設計

業務内容

1. 建築、造園、土木およびこれらに関連する設備、構造、インテリア等についての企画、設計、工事監理ならびに調査鑑定
2. 都市・地域計画、都市再開発事業計画、環境アセスメント調査
3. コンピューターによる情報処理および調査・計画

・関西支社　大阪市中央区淡路町3－3－7　興和淡心ビル　TEL 06 (6201)-0321(代)

東成温水プール建設工事

施工：高岡・大橋 経常建設共同企業体

OHASHI

高岡建設株式会社

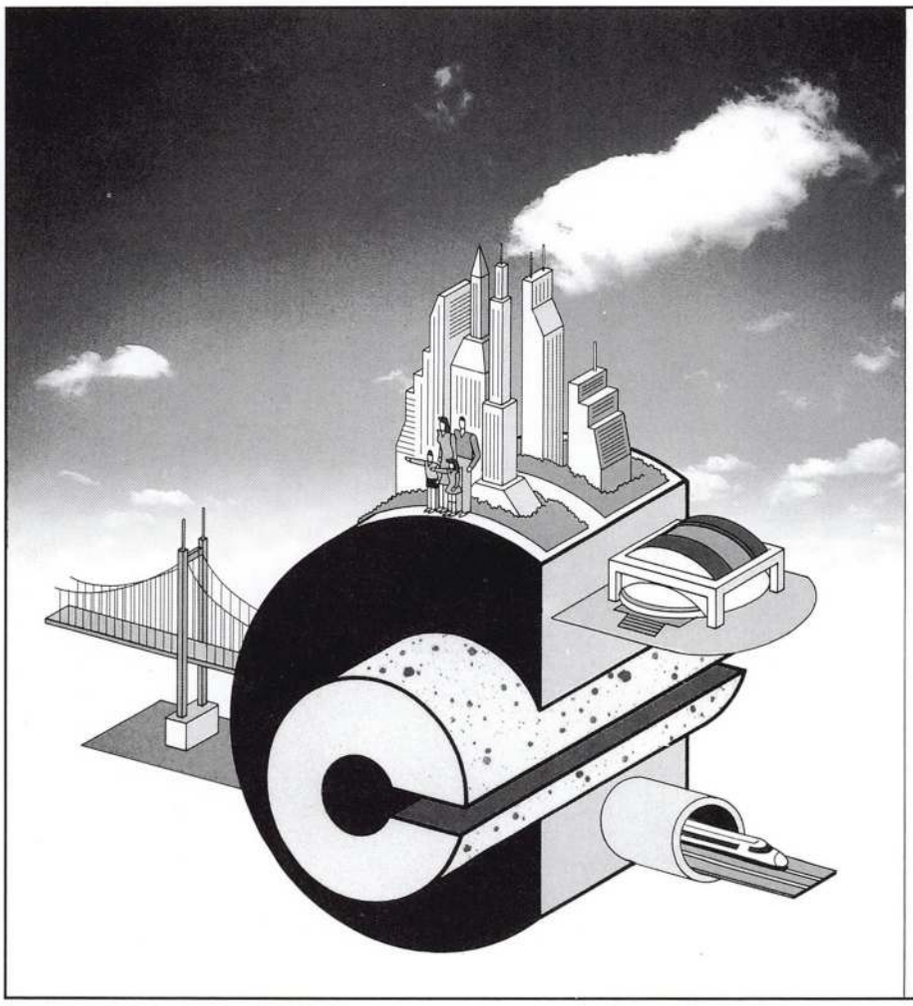
代表取締役社長　明石　孝二郎

〒550-0015　大阪市西区南堀江3丁目10番12号
TEL.（06）6532−4951（大代表）
FAX.（06）6538−1074
支店／鹿嶋・和歌山・北九州・宮崎・福岡・東京・伊丹・堺

株式会社 大橋組

代表取締役社長　安井　敏晴

〒537-0022　大阪市東成区中本3丁目17番8号
TEL.（06）6981−5021（代表）
FAX.（06）6974−3737
奈良支店・東大阪営業所



自然のチカラと
人のワザの融合エネルギー。

先端技術を生かした快適で安全な街づくりをベースとして、さらに、心が満たされ、気がかりのない「安心」できる生活空間が求められています。その実現をめざし、自然の換気、自然光の導入、自然エネルギーの活用、木々や植物の採用など自然と共存する、斬新なコンセプトでコミュニティづくりを提案…それが、人と地球にやさしい環境を創造する奥村組のエネルギーです。

好きです、大地。たいせつに築きます、未来を…

奥村組
OKUMURA CORPORATION
本　　社：大阪市阿倍野区松崎2-2-2 TEL.06(6621)1101
東京本社：東京都港区元赤坂1-3-10 TEL.03(3404)8111

Zenitaka

それは人が集まる場所。

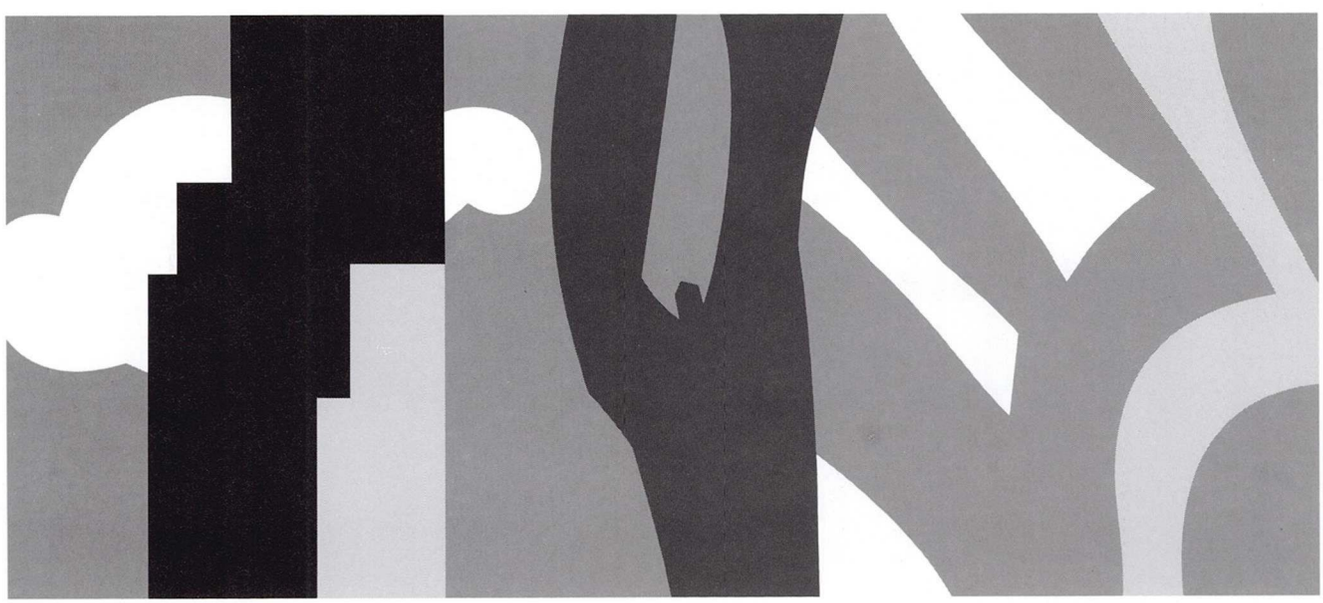


存在感、魅力あるスペース、独創……　いい建造物には、そんな表現が当てはまります。
でも、人が何故集まってくるのかと言えば、そこにある優しさや信頼感からではないでしょうか。
我々は人に優しい空間を目指し、これからも期待に応えて行きます。

錢高組
URL http://www.zenitaka.co.jp

創造という力、建設という知恵。

FUJITA



時代の先の先を見越した企画提案を。
フジタには先端技術を駆使しての建設を核に、
都市開発やエネルギー開発やレジャー事業など、
多岐にわたる実績と豊富なノウハウがあります。
すべての力を創造に向けて。

"高"環境づくり
フジタ

本　社　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 tel (03) 3402-1911
大阪支店　〒530-0003 大阪市北区堂島 2 丁目1－16 tel (06) 6348-4510

未来へ――安心を創る（つく）



FUJIKI 藤木工務店

本　　社　〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-3-8　☎ 06-6966-0400（代）
東京本社　〒160-0008 東京都新宿区三栄町23-4　☎ 03-3357-1600（代）
本 支 店　大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡

HANKYU TOHO GROUP

21世紀へ向けて新たな挑戦が続きます。

MORI GUMI

株式会社 森 組

本　　社／大阪市中央区道修町四丁目5番17号　〒541-0045 TEL(06)6201-2761 FAX(06)6201-2768
大阪本店／大阪市中央区道修町四丁目5番17号　〒541-0045 TEL(06)6201-2762 FAX(06)6201-2769
東京本店／東京都中央区日本橋浜町三丁目23-1　〒103-0007 TEL(03)3808-2071 FAX(03)3808-2075
支店／東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州　営業所／滋賀・京都・和歌山・紀泉・高石・西宮・松山・北九州・熊本

コンクリート建造物の防水は、耐亀裂性、安全性、施工性、耐久性に優れたパラテックス防水の各種工法にお任せ下さい！



パラテックス

屋上、斜屋根、ルーフバルコニー
パラテックスC-1工法：(別途モルタル等の保護)
パラテックスC-2工法：C-1＋カラーコート仕上げ
パラテックスC-3工法：C-1＋カラーコートS仕上げ

厨房、トイレ、浴室、窓廻り、各種防水補強
パラテックスA-1工法：(別途モルタル等の保護)

プール、植栽、地下内壁
パラテックスB-1工法：(別途モルタル等の保護)

ベランダ、庇、斜屋根
パラテックスA-1工法：(別途モルタル等の保護)
パラテックスA-2工法：A-1＋カラーコート仕上げ
パラテックスA-3工法：A-1＋カラーコートS仕上げ

フリーアクセスベースフロアー
パラテックスQ工法

地下外壁、各種水槽
パラテックスB-2工法：B-1＋パラコート保護仕上げ

各種水槽(耐食防水仕様)
パラテックスB-3工法：B-1+パラコートEX仕上げ
パラテックスB-4工法：B-1+パラコートEX+パラテックスEP-NS仕上げ
パラテックスB-5工法：B-1+パラコートEX+パラテックスEP-800仕上げ
パラテックスB-6工法：B-1+パラテックスEP-NSG（C種）仕上げ

大関化学工業株式会社
本社／〒658 神戸市東灘区本山中町1-11-6 ☎(078)452-2591
支店／北海道・東北・東京・横浜・名古屋・大阪・岡山・福岡

ALESCO

技と粋を備えた高機能仕上げシステム。



■銀抗菌性水系塗料システム
アレスシルバー工法
特殊セラミックスと銀の持つ抗菌性をイオンコントロール技術により塗料化した内壁仕上げシステムです。

■微弾性優美ツヤ消し外装仕上げシステム
ホールドマット工法
ホルダーGⅡとタフマットの組み合わせから生まれた微弾性タイプの優美なツヤ消し外装仕上げシステムです。

関西ペイント株式会社 | 建築塗料本部 |
本社／〒541-8523 大阪市中央区伏見町4丁目3番6号 TEL.06(6203)5012
東京／〒140-8520 東京都品川区東大井5丁目24番15号 TEL.03(3472)3111

Engineering and Service



人類は今、グローバル・パワーで環境破壊を
懸命にくい止めようと努力している
星を汚した現代人……
次代人にきれいな星を渡したい。

空気調和・衛生設備・設計施工
株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2-1-61
ツイン21MIDタワー11階
電話（06）6949 - 1371

空間づくりは、快適から成熟へ。

Maturity Design

マチュリティデザイン

［Maturity（マチュリティ）=成熟、円熟、完成されたもの］
それは時代の空間を創造するタカシマヤ建装事業本部のテーマです。
「快適」を超えて様々な面で「充足」をもたらす空間づくり。
私たちは、これからの成熟社会にふさわしい事業を推進してゆきます。

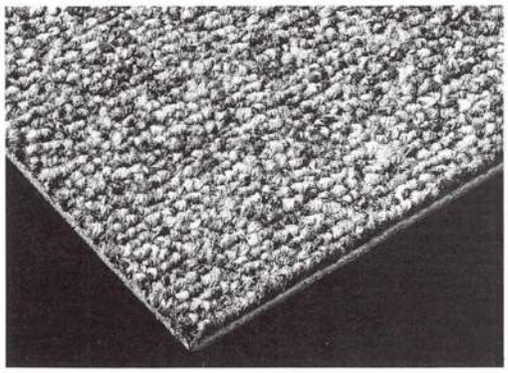
Takashimaya
建装事業本部

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-12-7 TEL(03)3668-8202　〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 TEL(06)6632-3190

多色

新発売。多色感あふれる色彩が特長

GA7000



•BCFナイロン100% •8,900円/m²（税抜き）

多彩

プリントタイルカーペット

GF2300



•BCFナイロン100% •10,300円/m²（税抜き）

◆東リ タイルカーペット◆

東リ株式会社

■西日本営業開発部　〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル　TEL.06(6943)1645
■大阪ショールーム　〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル7F　TEL.06(6943)1649

岩盤破砕・障害撤去

SSD工法

大口径・大深度 場所打コンクリート杭
の一貫施工に威力を発揮します。

新しい場所打ち拡底杭

OMR／B工法（バケット掘削拡底杭）
OMR／A工法（リバース掘削拡底杭）
OMR／P工法（引抜き抵抗機能拡底杭）
NKTB・SKTB・KKTB・SMTB杭工法
（場所打鋼管コンクリート拡底杭）



丸五基礎工業株式会社

〒530-0044　本 社　大阪市北区東天満2丁目6番2号　☎06-6358-3601(代)

関西支店　☎06-6358-3601(代)
東京支店　☎03-3649-5131(代)
名古屋支店　☎052-222-6801(代)
広島支店　☎082-246-3211(代)
福岡支店　☎092-472-4392(代)
高松営業所　☎0878-81-2257(代)
神戸営業所　☎078-271-8220(代)
浜松営業所　☎053-479-5011(代)

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工
人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話 06-6364-6661（代表）
本　　社　〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話 03-3311-8511（代表）

空気調和設備
給排水設備
電気設備
産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話 06(6202)3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06—6466—2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電 0720—49—2128

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話06-6949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

OKUJU
スペースクリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

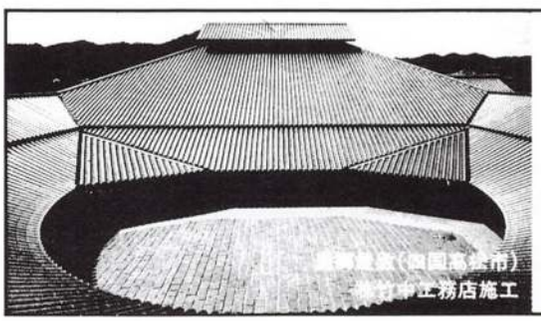
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・宮崎・京都

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎　六五六一—七四五四
ファックス　六五六一—七四一六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、

夢×技=∞（無限大）
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

まごころがあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市北区西天満２丁目６－８(堂ビル５階)
電話 ０６（６３６１）３６７１(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町２丁目１７番３号
電話 ０３（３６６６）１４７８(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代) FAX 06(6385)1050

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL.06(6364)1471・FAX06(6364)5533
東京支社 〒105-0003 東京都港区西新橋1-8-3ランディック第2ビル TEL.03(5472)3311・FAX03(5472)0085
名古屋支店 〒462-0847 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店 〒657-0035 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル TEL.078(842)6411・FAX078(842)6416
堺研究所 〒590-0906 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長 伊藤義信
大阪市中央区高麗橋４丁目３番７号 電話大阪(6202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田１丁目４番５号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858 FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町１の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所 天理市丹波市新町４９

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530-0043 大阪市北区天満２丁目５番１５号
TEL.06(6352)7502㈹ FAX.06(6355)2714

トイレのことは全てお任せ下さい!
時代はTOTOライニングユニット

東陶機器(株)大阪支社

〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館
TEL 06-6364-1181

快適な明日を提案する
TOYO Shutter
東洋シヤッター株式会社 http : //www.toyo-shutter.co.jp
本 社 〒540-0024 大阪市中央区南新町1−2−10（TSビル）TEL(06)6943−6571（代）
■東京/横浜/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/滋賀/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材） コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材） 鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント） コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材） 地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材） コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2−2220
舞鶴（0773）76−0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332−6861
TEL 東京（03）3272−8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443−6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252−6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）6877−1581

関西電力

ビル空調の決定版「エコ・アイス」



小型氷蓄熱式パッケージエアコン **エコ・アイス mini**

50m²～200m²のお店や事務所には、
エコ・アイスminiもよろしく！

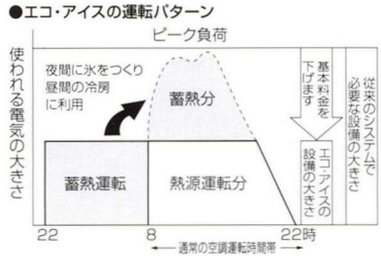
国がバックアップ！
各種公的助成制度が利用できます。

エコノミー＆エコロジー
エコ・アイス
氷蓄熱式空調システム

環境にやさしい

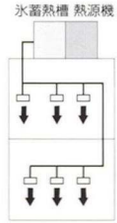
●火力発電の割合が小さい夜の電気で氷やお湯をつくり、空調に活用。CO_2、NO_xを大幅に抑制し環境保全に貢献
●効率的な熱源機の運転などで省エネ実現、地球の資源を有効利用

●エコ・アイスの運転パターン



ランニングコストが安い

●電気代が昼間の約1/3で済むお得な夜間電力を使ってかしこく冷暖房。ランニングコストを大幅セーブ
●設備容量を小さくできるので契約電力が大幅ダウン
■ビル・工場の規模を問わず新築はもちろんリニューアルにも最適です。



お問合わせ資料のご請求は

関西電力株式会社　お客さま本部
お客さま提案グループ（ビルシステム）
〒530-0004　大阪市北区堂島浜1丁目4番4号　アクア堂島東館18階
TEL(OMP) 06-7501-0216（直通）

「エコ・アイス」メーカーお問い合わせ先

三菱重工近畿販売株式会社……冷熱第一部（06）6374-9433
三洋電機株式会社……施設空調西日本営業部（06）6339-5778
ダイキン工業株式会社……設備営業部（06）6378-8755
東芝関西設備機器株式会社……空調営業部（06）6241-5217
日立冷熱株式会社 関西支店……第一営業部（06）6531-9105
松下冷機株式会社……営業部（06）6783-4141
三菱電機株式会社 関西支社……冷熱システム部（06）6347-2356

Vol.80 通巻923号　平成11年2月1日発行　毎月1回1日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

社団法人　日本建築協会　〒530-0012 大阪市北区梅田1-9-9 ☎(06)6345-2001 FAX(06)6345-2004 振替口座〇〇九一〇-九一三九七五

定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収



ヒューマンデザイニングで考える、戸田建設。

私たちは、さまざまなカタチで、地球環境の問題と深くかかわっています。そのため、問題の解決に向けた具体的な取り組みに、全力を傾けています。たとえば、これまでに、環境管理課や地球環境室、地球環境委員会を設置。1994年には、「戸田建設地球環境憲章」を制定しました。これにより、環境問題へのより組織的な対応や新技術の開発を進めるとともに、地球環境と人間活動を体系的にとらえ、自然のサイクルと一体となった社会システムづくりをめざして、私たちは努力しています。これからも、人と環境のいい関係をつくるために。ヒューマンデザイニングで考える、戸田建設です。

for the Best Quality

最良の品質をみなさんに

戸田建設

本社／〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 ☎(03)3562-6111

雑誌　03379-2